右ノ返翰ハ三好秘書ヲシテ先方ニ之ヲ屆ケサセタガ、其時當方デハ此交換公文ヲ制限令公布ト同時ニ公表シタイ意嚮ダト附ケ加ヘサセタ處、「ハルト」臨時首席ハ翌日筆者ニ手紙ヲ送リ公表ニ反對シテ來タカラ、强テ爭フニモ及ハヌト考ヘ之ヲ諾シ、制限令ハ輸入許可數量六萬個ヲ十二萬五千瓩ニ變更ノ上、十月二十五日公布サレタ。

第八章　委員會經過

委員會ノ開催

和蘭側カ一般委員會テ委員會ノ速急開催ヲ要求シ、筆者之ニ應シナカツタ經緯ハ第五章ニ既述ノ通リデアルガ、六月二十六日第一回ノ一般委員會ガ終ツタ後「ランネフト」代表ハ筆者ニ書翰ヲ送リ左記二委員會ヲ設ケンコトヲ提議スルト同時ニ、海運問題ニ關スル特別委員會ノ設置モ亦必要デアルト附ケ加ヘタ。

一、貿易調節ニ關スル委員會

(一) 貿易差ノ統計的究明

(二) 蘭印輸出ノ增加ニ依リ貿易差ヲ調整スルコトノ可能性

(三) 現在及將來ニ於ケル蘭印輸入ニ對スル日本ノ持分

二、制定セントスル輸入特許制及產業規則ニ關聯スル在蘭印日本人及商社ノ利益ヲ審議スル爲メノ委員會

(一) 輸入特許制ノ適用

(二) 產業規則ノ適用

以上ノ外「ラ」代表ノ手紙ニハ細カイ委員會ノ議事規則迄添附シテアツタガ、六月二十七日ノ一般委員會デ

ハ之ヲ輸出、輸入、海運ノ三委員會ニ訂正提議シタ。之ニ對スル筆者ノ應酬要領ハ曩ニ記載シタガ、念ノ爲メ其報告電報ヲ左ニ掲ケル。

先方ハ出來得ル限リ委員會ヲ急設シ直チニ貿易均衡及新制限措置ニ對スル我方ノ出方ヲ見極メントスル意向ナルコト明ナルヲ以テ、本使ハ今二十七日一般委員會ニ於テ先ツ昨日ノ留保ニ基キ既電ノ要點ヲ更ニ敷衍シテ蘭印實施中ノ措置カ最惠國約款ノ精神ニ違反セストノ議論ニ承服スル事能ハサル事ヲ主張シ、且ツ吾人ハ右實施措置ノ撤廢又ハ修正ヲ討議スル爲來レルモノニシテ實施延期中ノ新措置ヲ爲ササルヘキ事ヲ哀願センカ爲會商ニ應シタルモノニ非サル事ヲ强調シ、此根本問題解決セサル以上先方主張ノ委員會ヲ設置スルモ効果的ノモノニ非サル事ヲ述ヘタルニ、先方ハ右實施措置ハ條約違反ニ非サル事ヲ反覆シテ應酬シ、且ツ輸出輸入及海運問題ニ關スル三委員會設置方要求シタルモ、本使ハ海運問題ヲ本會商ノ議題トセサル事ハ既ニ貴方ニ通シ置キタル通ナリトテ之ヲ一蹴スルト共ニ、本使旅行中輸出入ニ關スル統計等研究スルト共ニ、實施中ノ制限令ニ關シ當方ニ判明シ居ラサル點ノ質問ヲナスヘキ單一且ツ一時的研究會ノ設置ナラハ之ニ同意スヘシト告ケタルニ、先方ヨリ繰返シテ委員會ナル名目ヲ附セントスル提議アリタルニ付、結局妥協ノ意味合ニテ根本問題ノ討議ニ入ラサルヘキ從テ議長ヲ置カサル一時的ノ一委員會ヲ設ケ前記ノ統計及各種ノ問題ニ關シ質疑應答スルヲ得ルコトニ協定成リ、委員數ハ日蘭共四名ツツトシ、且ツ同委員會ノ研究ハ一般委員會ノ承認ヲ得サレハ主義ノ問題ニ進マヌコトトセリ。

筆者ガ「ジャヴァ」視察旅行カラ歸ツタ翌日（七月七日）「ランネフト」代表ハ筆者ニ書翰ヲ送リ、之ニハ添

附覺書ニ掲クル提案ニ付七月十三日以前ニ日本代表部ノ承認ヲ得ハ余ハ大ニ之ヲ多トスヘシ。此覺書ニ記載スル三委員會ノ委員名ガ十四日以前ニ双方ヨリ互ニ通知セラルレバ事態ヲ容易ニスヘシト云フ極メテ暴慢非禮ナ最後通牒的文句ガ並ベテアツタ。會商中斯クノ如キ國際禮儀ヲ無視シタ要求ヲ蘭側ハ何同モシタガ、好意的ニ考察スレハ蘭代表部員ヲ國際會議ニ經驗アルモノハ「フアン・ヘルデレン」教授ヲ除イテハ他ニ一人モ居ラヌ、又同教授ト雖蘭印出身ノ專門家故、以上ヲ眞ニ受ケテ憤慨スルニモ當ラヌノデ、一應ハ抗議スルトシテモ、深ク追求セス先方ノ無識ヲ憫ミ之ヲ笑殺スレハ足リルノデアル。覺書ハ非常ニ長文ナモノデ、蘭側從來ノ主張ヲ繰返シタ後、輸出、輸入及海運ノ三委員會ヲ設ケンコトヲ提議シタモノデ、其內容ハ當方ノ回答中ニ殆ント窺ハレルカラ、七月十二日附我方回答丈ヲ左ニ掲ケル。

日本代表部ハ本年七月七日附送付越セル蘭國代表部覺書ヲ受領閲悉セリ、按スルニ右覺書ハ日蘭兩代表部ノ見解ノ全キ一致ヲ見サル主義問題及具體的討議開始問題ノ二點ニ付蘭國首席代表考慮ノ結果到達セル結論、即チ現存不一致ノ解決ハ唯具體的提案ノ討議ニ依リテノミ之ヲ達シ得ヘシトノ見解ヲ傳フルト共ニ、右具體案ノ內容ニ付詳細ヲ開陳セリ。

日本代表部ハ既ニ本會商ノ圓滿進捗ヲ希望スル趣旨ニテ商議ノ根本的四大原則宣言ノ案ヲ提起スルト共ニ今日迄書面又ハ口頭ヲ以テセル意見ノ表明ニ依リ日本國ノ態度ヲ明示シ置キタルカ、凡ソ誤解セル基礎ニ立脚セル商議ノ開始ハ、却テ右商議ノ有効ナル進展ヲ阻害シ、圓滿ナル妥結ニ到達スルノ所以ニ非サルヲ以テ、更ニ前記蘭國代表部覺書ニ對スル日本代表部ノ所信ヲ率直ニ闡明シ置クノ要アリト信シ、左ノ通リ

回答旁所見ヲ開陳セントス。

一、右覺書第四及第七ノ後半ニ開陳セラレタル如ク會議ノ停滯ヲ防ク爲ニハ、此ノ際問題解決ノ爲詳細且ツ具體的討議ヲ開始スルヲ可トストノ意見ニハ日本代表部ニ於テモ全然同感ニシテ、曩ニ委員會設置ニ主義上同意セル所以亦茲ニ存ス。

二、乍去右覺書第六及第七ノ前半ニ於テ蘭印、和蘭及外國產品ノ「シエヤー」及「サーヴイス」問題ニ關スル蘭印側自由措置ハ一九一二年ノ條約ニ牴觸セサル所以ヲ縷々開陳セラレタリ。日本代表部ハ右ノ開陳ニ對シ乍遺憾從來屢々開示セル見解ヲ毫末モ變改シ得サルヘキコトヲ茲ニ重ネテ言明セント欲ス。

三、次ニ右覺書第八ニ於テ和蘭代表部ハ近ク開始セラルヘキ討議ノ基礎ハ既ニ存在スル日蘭兩代表部間ノ合意ノ諸點中ニ發見セラルヘシト陳ヘラレタル後、前記覺書第九ニ於テ既存「アグリーメント」ノ諸點トシテ和蘭代表部ノ見解ニ依レハ四個ノ「ブラクチカル・オブゼクチブ」ニ關スルモノナル事ヲ說述セラレタリ、日本代表部ノ見解ニ依レハ未タ悉ク斯カル適確ナル合意ニ達シ居ラサルモノナリト信ス、殊ニ右第九Bニ記載ノ趣旨ニ關シテハ日本代表部ハ今日ニ至ル迄明確ナル意思表示ヲ爲シタル事ナク、唯他ノ事情ニシテ變ラサル限リ日本カ購入可能ノ物品何ナリヤノ問題ニ關スル研究ニ好意的考量ヲ加フルニ吝ナラサルコトヲ表明シタルニ止マル、同C記載ノ海運問題ニ至リテハ日本國政府ハ本會商開始ニ先チ凡ユル機會ニ於テ右問題ヲ會商ノ範圍外ニ置クヘキ旨的確ニ主張シ來レルノミナラス、六月二十七日

ノ一般委員會席上重ネテ日本國首席代表ヨリ特ニ右問題ニ關スル日本國ノ態度ヲ宣明シタリ。

四、日本代表部ハ前記覺書第十ニ於テ右討議ノ議題トシテ五號ニ亘リ指定セラレタル點ニ付テハ、寧ロ從來兩代表部間ニ論議セラレ特ニ日本側ノ反對セル問題ニ屬スルモノ多ク、之ヲ目標トセハ徒ニ論議ヲ繰返スニ止マルヘシ、殊ニ右項第一號及第二號記載ノ蘭印ヨリ日本ヘノ輸入ト日本ヨリ蘭印ヘノ輸出ノ兩問題ハ本來別個ニ考量セラルヘキモノニシテ、必然的ニ關聯性ヲ有スルモノニ非ラサル事ハ日本代表部ノ常ニ主張シ來レル處ニシテ、右第二號ヲ同第一號、時ニハ同第三號成立ノ條件トシテ之ヲ取扱ハントスルカ如キ和蘭側提議事項ニ日本代表ハ承服スルヲ得ズ、第二號第三號及第四號記載ノ蘭側自由裁量權絕體留保ヲ主張シ乍ラ、他方日本側ニ對シテハ其自由ノ拘束ヲ强要セントスル點ニ付テハ日本代表部ハ全然首肯シ得サル所ナリ、若シ夫レ同第五號ノ海運問題ノ討議ハ前述ノ通リ同意シ難キ事ヲ茲ニ明言ス

五、日本代表部ノ意向大體前記ノ通リナルヲ以テ、蘭側從來ノ主張ノミヲ基礎トセル右覺書第十二記載ノ委員會設置ハ主義上反對セサルヲ得ス。

六、然レトモ日蘭双方ノ見解ハ必シモ本質的ニ相容レサルモノノミ存在シ居ラス、此意味ニ於テ寧ロ此際双方ノ主張ハ各暫ク之ヲ留保シ、會商進捗ノ見地ヨリ進ンテ具體的問題ニ付討議ヲ開始シ、各自ノ主張及利害ヲ一層具體的ニ明白ニシ、各他方ノ立場ヲ充分了解スルニ便ナラシムルト共ニ、双方主張ノ接近又ハ利害ノ調整ヲ計ル目的ヲ以テ、有力ナル一委員會ヲ設置シ、以テ日本蘭印間ノ輸出並ニ輸入ノ各項ニ就キテ各別ニ具體的提案ノ攻究討議ニ努ムルニ於テハ、本會商ノ圓滿妥結ハ頗ル容易ニ行ハルルコト

疑ナキヲ茲ニ强調セント欲ス。

此回答ハ筆者ガ同日「ランネフト」代表ト會見シタ時氏ニ之ヲ渡シタモノデ、其會談要領ハ左ノ通リデアル

視察旅行ヨリ歸還後「ラ」ト打合ヲ遂クル爲面談シ度キ心組ナリシ矢先、七月七日「ラ」ヨリ覺書ヲ送付越シ右覺書ニ對スル當方ノ回答ヲ十三日迄ニ、又同覺書ニ記載ノ三個ノ委員會ニ對スル當方委員名ヲ十四日迄ニ夫々回報アリ度キ旨ヲ申越セル次第アリシヲ以テ、當方ノ要求ニヨリ七月十二日午前十一時會議場ニ於テ「ラ」ト二人限リニテ會見ス

一、本使ヨリ本日會見ヲ求メタルハ去ル七日送付ヲ受ケタル書翰並ニ覺書ニ關スル事ナリト前置シタル後貴翰ノ書現ハシ方ハ丁重ナルカ如キモ我方ノ回答ニ日限ヲ附セラレタルハ我々トシテ一種ノ最後通牒ヲ受取リタルカ如キ氣持シ甚タ不愉快ニ感シ居レリ、又覺書ハ今日迄蘭印側ノ主張セル所ヲ其儘記載セルモノナリト云ヒタルニ、「ラ」ハ之ヲ首肯セルヲ以テ、本使ヨリ其儘ニテハ日本代表部ハ到底之ヲ受容ル事ヲ得サルト同時ニ此ノ如キ覺書ヲ突付ケラレテハ更ニ又當方ノ主張ヲ繰返ス外ナク、之カ爲回答覺書ヲ作成スルノ己ムヲ得サルニ至リタリト述ヘ、豫テ用意セル回答覺書ヲ手交シ、「ラ」ノ讀了ヲ待チテ本使ハ畢竟貴方覺書及之ニ對スル當方ノ回答ハ今日迄論議セル所ヲ再ヒ繰返スニ止マリ、從テ更ニ之ニ關スル文書ノ往復ヲ重ヌル事ハ徒ラニ時日ヲ費スノミナルヲ以テ、我々ハ之ヲ實際的方向ニ導カンカ爲一案ヲ立テタリトテ、持參ノ委員會設置案ヲ提示シタル上、若シ主義上右案ノ方針ニテ進ム意思ヲ有セラルルニ於テハ覺書ノ遣取ハ蓋シ無用ト思ハルルニ付、貴方カ覺書ヲ撤回セハ當方ノ分モ撤回シ差支ナ

シト述ヘタルニ、「ラ」ハ蘭印側覺書ハ各方面ト愼重協議ノ結果ニ基クモノナレハ之カ撤回ハ困難ナリト答ヘタルニ付、然ラハ當方ノ覺書モ右ニ對スル回答トシテ當然之ヲ貴官ニ交付スルノ外ナシト述ヘタリ

二、「ラ」ハ貴官ノ意ノアル所ハ良ク諒解セルニ付貴提案ニ對シテハ充分研究スヘキモ、根本ノ主張ニシテ合致シ得サル限リ個々ノ問題ニ付徒ニ議論ヲ重ヌルトモ結局何時カハ正面衝突ヲ來ス事トナルヘシト思ハル、仍テ豫メ主義ノ問題ヲ決定シ置ク必要アリト思考スト述ヘタルヲ以テ、本使ハ若シ之カ出來得ルナラハ我々トシテモ極メテ滿足ナルモ、貴方ニテ當方提出ノ四大原則中特ニ第三項ニ付折合ヒ得スト稱セラルルカ故ニ、先ツ實際ニ適合スヘク機宜ノ措置ヲ講セント欲シタル迄ナリト云ヘルニ、「ラ」ハ和蘭ノ主張ハ到底枉クル事ヲ得サルト同時ニ、第三項以外ノ日本側提案事項ニ付テモ和蘭カ壓迫セラレ居ルカノ如キ印象ヲ與ヘ甚タ面白カラスト述ヘタル故、本使ヨリ若シ文句等ニ付何等修正ヲ欲セラルルニ於テハ其對案ヲ得テ日本側ハ妥協的精神ニ則リ充分ノ考慮ヲ加フルニ吝カナラサルモ、第三項ニ關スル意見ノ相異ニ付如何ニ和蘭カ其主張ヲ日本ヲシテ承認セシメントスルモ、日本トシテハ右承認カ單ニ對和蘭乃至蘭印關係ニ止マラス多數ノ歐洲諸國ニ對スル日本ノ主張ニ累ヲ及ホスヘキニ付、此點ニ就テハ日本ハ一歩モ讓ル事ヲ得ス、故ニ此際右ニ關スル議論ヲ切離シ、先ツ實際問題ニ關スル交渉ヲ開始スル方機宜ニ即スト思ヒタレハコソ本日ノ提案ヲナシタル所以ナリト縷々說述セリ。

之ニ對シ「ラ」ハ貴方ノ意ノアル所ハ良ク了解セルカ、根本原則ノ妥協ニ達シ得スシテ他ノ問題ニ移ル可能性アリヤ否ヤハ篤ト研究ヲ要スヘク、自分ノ見解ニテハ此重要ナル根本原則ヲ豫メ纏メズシテ會商

ヲ開キタル事カ甚タ輕卒ニテ、或ハ此根本原則ノ妥協カ日蘭兩國政府ノ間ニ成立スル迄一時會商ヲ中斷スルコト然ルヘキカトモ思ハルト云ヒタルニ付、本使ハ若シ和蘭側ニテ飽ク迄其主張ヲ固執スルニ於テハ到底妥協ニ到達スル餘地ハ先ツ無カルヘシト考フ、元來今次會商ノ主眼トスル所ハ日本トシテハ制限令ノ緩和ヲ要望シ、蘭印トシテハ對日輸出ノ增進ヲ要求シ居ル事ニ在ルヲ以テ、幸ニ右ニ關シ歩ミ寄リカ出來得タル場合必要ニ應シ原則問題ヲ更ニ討議スルコト今迄ノ經驗ニ徵シ實際的ナラスヤト指摘セルニ、「ラ」ハ話題ヲ轉シ日本案ニ依レハ一委員會ヲ設置スル事トナリ居ル處、和蘭案ニテハ三委員會ノ設置ヲ要求シ居リ、其一タル海運ニ關シテハ後ニ御話シスヘキカ、和蘭代表部中ニハ輸出ト輸入ニ關スル專門家ハ夫々分レ居ル旨述ヘタルニ付、本使ハ日本代表部ハ不幸ニシテ此ノ如キ截然分類的ノ專門家ヲ有セス、從テ我方カ一箇ノ委員會ヲ設ケ右ヲシテ分科會ヲ構成セシメントスルハ我々代表部ノ人員不足ナル爲先般協議セル議事規則ニ依リ部員外ノ專門家ノ參加ヲ容易ナラシムル趣旨ニ他ナラスト云ヒタルニ「ラ」ハ和蘭側トシテモ此種專門家ヲ參加セシムル必要ハ感シ居ル所ナリト述ヘ、幾分當方ノ要求ヲ諒解セル模樣ナリ。

三、次テ本使ハ貴方覺書ニ依レハ第一委員會カ日本ヨリノ輸入ニ關シ假令最低量ノ決定ニ到達シ得タリトスルモ、第二委員會ニ於ケル蘭印ヨリノ輸出數量如何ニ依リテハ右ノ最低量ハ全然覆サレ得ルモノナレハ、實際上第一委員會ノ仕事ハ第二委員會ノ成果ニ從屬シ、二個ノ委員會ヲ設クル事ハ無意味ナルカ、輸出入ニ關スル當方ノ見解ハ御承知ノ通リニテ、從テ一ツノ委員會ヲ設ケ普通萬國會議ノ慣行ニ從ヒ同

委員會ニ於テハ先ツ其取扱フ諸問題ニ對シテ一般討議ヲ開始シ、其上ニテ幾何ノ分科會ヲ設クヘキヤト云フコトヲ決スル段取トナルヲ至當ト考フト述ヘタル處、「ラ」ハ右委員會ニテ一般討議トハ何ヲ意味スルヤト問ヒタルニ付、本使ハ右ハ委員會ニ於テ双方ノ首席カ日程ヲ取極ムル際決定スヘキ問題ナルカ、今日迄我々ノ間ニ主義上ノ問題ニ付テノ一般論ハ之ヲナセル事アルモ、具體的問題ニ關シ各般ノ事項ニ亘リ一般意見ヲ交換シタル事ナク、之ヲ交換スル事ハ極メテ必要ノ事ト思考スト述ヘタルニ、「ラ」ハ自分ハ斯クノ如キ一般論ヲナス必要ヲ認メス、寧ロ直ニ分科會ヲ設置スルコト望マシト云ヘルニ付、本使ヨリ何レニシテモ一般論ト云ヒ分科會設置ト云ヒ委員會成立セル以上双方ノ首席ニ於テ之ヲ決定スヘキ事項ナルニ付今我々カ之ヲ論議スル必要モナカルベシト云ヒタルニ對シ、「ラ」ハ右委員會ニ貴下自ラ出席スヘキヤト問ヒタルヲ以テ、本使ハ同委員會ニハ越田代表主宰ノ筈ニテ本使ハ圈外ニ在リテ必要ノ場合貴代表ト會見懇談スル方便宜ナラント考ヘ居レリト云ヒタル處、「ラ」ハ自分モ全ク同感ナリト稱シ滿足ノ意ヲ表シ居レリ。

四、次テ「ラ」本會商ノ成ルヘク速ニ終了セン事ヲ申出テタルニ付、本使トシテモ之ニハ全然同感ナリト答ヘタルニ、「ラ」ハ日本人ハ一致團結シ日本國ヲ背景トシ事ニ處シ居ル處、和蘭ノ如キハ個人主義發達シ居リ團結心ニ乏シキ爲己ムヲ得ス之ヲ統制スル必要上「ライセンス」制度其他ノ制限令ヲ設ケサルヲ得サリシ次第ナリト述ヘタル故、本使ハ如何ニモ日本國民ハ祖國ヲ思フ念深キ事他ニ勝ルトモ劣ルコト無キヲ確信ス、然シ乍ラ個人主義ノ發達シ居ル國ニ付テ例ヘハ佛國カ彼ノ獨逸ノ大軍ニ對抗シ得タルハ

畢竟祖國ヲ思フ念强カリシ爲ナリ、祖國ヲ思フ念ト商事關係ニ於ケル利害打算ノ念トハ全然區別シ觀察スヘキモノト考フ、自分ハ專門家ニ非ル故詳シキ事ハ分ラサルモ、例ヘハ「キャンブリック」ノ問題ニ付テ六〇％ノ割當ヲ保持スルモノハ蘭印ニ於ケル十以上ノ歐洲人商業組合ニ加入シ居ル者タルヲ要ストノ事ナルカ、其組合中ニハ外國人ノ加入ヲ許ササルモノアルト聞ケリ、斯クノ如キ加入條件ヲ基礎トスル「ライセンス」制度ハ餘リニ人工的ナラスヤト指摘シタルニ、「ラ」ハ或ハ然ラント言葉ヲ濁シ更ニ協議ノ餘地アルモノノ如キ印象ヲ與ヘタリ。

五、更ニ日本商人進出ノ事ニ言及セルニ付、本使ハ今回各地旅行ノ結果北海岸ニ於ケル各都市ハ和蘭商社ハ別トシ殆ント華僑ノ町ニシテ、又華僑、日本商ノ取扱フ同シ日本品ニテモ其間品種ニ優劣ノ差アリ利害必スシモ相反シ居ラサル樣見受ケタルカ、殊ニ最モ印象付ケラレタルハ目下蘭印ニテ相當發展シ居ル日本人ハ既ニ二、三十年以上モ在留シ衷心ヨリ共存共榮ヲ目標トシ其事業ヲ經營シ居ルモノニテ、斯クノ如キ健全ナル日本商人ニ對シテ「侵入」ナル語ヲ用フルハ頗ル失當ナリト考フト云ヒタルニ、「ラ」ハ御承知ノ通リ蘭印住民ノ多數ハ極メテ低級ニテ優等階級ニ屬スル蘭人ノ數ハ寧ロ逓減ノ步ヲ辿リ居ルニ反シ從來少數ナリシ和蘭人以外ノ有識階級ノ數ハ漸次增加セントシツツアル實情ニテ、彼等ハ日本人アルカ故ニ覺醒ヲ早メツツアル實情ナリト云ヘル故、本使ハ實際蘭印ノ現狀カ如何ナル經路ヲ辿リツツアヤハ之ヲ知ラサルモ、只今申述ヘシ如ク本使ノ親シク會見セル日本人ハ毛頭然ル如キ意思ヲ有セス、又當地ニ在ル日本人ニ此ノ如キ意思アリトハ思ハレサルカ、和蘭乃至蘭印側ニテ何等カ其タシキ疑心暗鬼

的懸念ノ伏在セルカノ如キ印象ヲ得タレハコソ曩ニ貴官ト同席ニテ總督ニ對シテ若シ此ノ如キ危惧ヲ有スルナラハ日本ハ其無要ナル事ヲ保障スル爲出來得ル限リノ保障ヲ與フルニ吝カナラスト云フコトヲ申シタル次第ナリト云ヒタルニ、「ラ」ハ然シ日本商品カ蘭印ニ氾濫的ニ侵入シ來レルハ事實ニシテ、日本商品ハ非常ニ安價ニテ又品質良ク自分ノ着用セル「シャツ」モ日本品ナリトテ示シ、此日本ノ大工業ニ對シ貧弱ナル蘭印カ如何ニ對抗スヘキヤト云フ事ニ付苦心シ居ル次第ナリト述ヘタルニ付、本使ハ貴官カ日本品ヲ愛用セラレ居ルヲ見テ自分トシテモ頗ル滿足ナリ、顧ミルニ日本ノ企業家ハ民政黨內閣當時世界ノ不況ト金本位維持トノ爲非常ニ脅威ヲ受ケ、如何ニシテ此難關ヲ切拔ケ得ルカヲ考ヘ、各製造會社モ其生產能力ヲ增進スル爲ニ凡ユル機構ヲ改メ機械ヲ改善シ、徹底的ニ「ラショナリゼーション」ヲ斷行セル結果、一九三一年ノ終リニ至リテ其効果現ハルルニ至レリ、現下ノ日本商品ノ進出ハ正ニ此數年間ニ於ケル國民苦心ノ賜物ニ他ナラサルコトヲ篤ト御承知アリ度ク、自分モ爪哇ニ來テ內地工業發展ノ可能性ニ就キ種々興味ヲ以テ研究セルカ、先ツ第一ニ承知シ度キハ石油產地タル當領デ日本ニ於テハ十立突ノ「ガンリン」カ僅カニ日本金九十錢位ナルニ拘ハラス當地テハ二盾三十仙ト云フコトヲ、如何ニシテ石油ナキ日本ヨリモ數倍高價ナリヤ了解ニ苦シム所ナリト述ヘタルニ、「ラ」ハ苦笑シテ此問題ハ追求サレサル事ヲ望ム、何分「ガソリン」ニ對スル稅金カ高キ故ト濁シタルニ付、本使ヨリ電力ト云ヒ水道ト云ヒ斯ク高價ニテハ企業ノ發展ハ容易ナラサルヘシト述ヘタルニ、「ラ」ハ之ヲ首肯シタル後、蘭印ノ望ム所ハ日本ニテ蘭印物產ノ購入ヲ得度キ事ニテ、例ヘハ砂糖ニ付何トカ考慮ノ餘地アルモノニヤ

ト述ヘタルニ付、本使ハ本問題ハ頗ル複雜セル關係アリ、殊ニ砂糖栽培縮減ノ結果ハ其土地ヲ米作ニ轉スル他ナカルヘク、國内問題トシテ解決容易ナラスト考フル處、若シ爪哇ニ於テ日本ヨリ米ヲ輸入シ得ル可能性アラハ或ハ之ト砂糖トヲ交換シ得ルカト思フ、近年爪哇ニハ幾何ノ輸入米アリヤト質問セルニ、「ラ」ハ自分ハ詳シキコトハ知ヲサルモ「ビルマ」ヨリ相當ノ米ヲ買ヒ居ルコトト思フト述ヘタリ自分モ專門家ニ非ルヲ以テ良クハ知ラサルモ、日本ニモ「ビルマ」米ノ持合セアリ、之ヲ「ビルマ」ニ再輸出セリトカ云フ噂ヲ聞ケルガ、若シ日本ニ貯藏ノ外國米乃至日本米ヲ蘭印ニテ輸入スル可能性アラハ或ハ砂糖問題ハ之ニヨリ或程度迄解決スル可能性アルヤモ知レス、右ハ極メテ漠然タル自分ノ思付ノ儘ヲ申述ヘタル次第ナルガ本件篤ト專門家ヲシテ研究セシメラレテハ如何ト云ヒタルニ、「ラ」ハ之ハ興味アル問題ナレハ充分研究スヘキモ、先ニモ述ヘタル如ク根本原則ノ妥協整ハスシテ細目ニ移ルヘキヤ否ヤノ可否ニ就テハ自分ノ方トシテ相當論議アリ、或ハ先ツ此根本問題ノ妥結ヲ日蘭兩國政府間ノ協議ニ委ネ、其決定ヲ待チテ會商ヲ開ク事ヲ適當トストノ意見カ「ブレヴエール」スルカモ知レスト云ヘルニ付、本使ハ夫ハ如何樣トモ御勝手ナルカ、此意見ノ妥結カ出來ナイト云フコトハ先ツ今ヨリ豫期シ得ル所ナレハ、若シ蘭印側ニ於テ此口實ノ下ニ會商ヲ中絶セラルル場合ニハ、我々ハ蘭印ハ好ンテ經濟戰爭ヲ挑發セラルルモノト思フ他ナシトノ旨ヲ述ヘ、本日ノ會談ヲ打切リタリ。

別レニ臨ミ本日ノ日本提案ニ對シ何日頃回答ヲ期待シ得ヘキヤ、實ハソチラモ急イテ居ラルル模樣ニ付若シ主義上不同意テナクハ本日午後要求セラルヘキ修正ヲモ再考シ、明日午前一般委員會ヲ開キ委員會

設置ノ決議ヲナセハ、貴方ニテ回答ヲ十三日迄ト制限セラレシ本意ニモ副フコトト思ヒ、一日早ク本日ノ面會ヲ求メタル次第ナリト述ヘタルニ、「ラ」ハ之ニ就テハ篤ト熟議ヲ要スル次第モアリ少クトモ月曜日（十六日）迄ニハ回答困難ナルヘシト答ヘタリ。

右會談中ニアル我方ノ委員會設置案ハ次ノ如シ。

一、今日迄日蘭双方ノ書面又ハ口頭ヲ以テセル意見ノ表明ハ未タ乍遺憾完全ナル一致ヲ見ス、仍テ此ノ際双方ノ主張ハ各之ヲ留保シ、進ンテ具體的問題ニ付討議ヲ開始シ、双方ノ主張ノ接近又ハ利害ノ調節ヲ謀ルコト。

右具體的問題ノ討議ニ當リ前記目的ヲ達スル爲互ニ妥協的提案ノ攻究ニ努ムルコト。

二、前項ノ目的ヲ達スル爲新ニ一委員會ヲ設置スルコト。

A、其　任　務

(a) 日本ノ對蘭印輸出及蘭印ノ對日本輸出ニ關スル總テノ問題ニ關シ具體的意見ノ交換

(b) 右日本ト蘭印間ノ輸出並ニ輸入ノ各項ニ就テ各別ニ双方ノ利害ノ調整ヲ計ルコト及其具體的方法ノ攻究

B、其　構　成

(a) 委員會ハ日蘭双方各七名ノ委員ヲ以テ組織シ、必要數ノ書記官ヲ帶同シ得ルコト

(b) 双方ノ委員間ニ各首席ヲ選定スルコト

右首席委員ハ各代表部ヲ代表シ各所屬委員統制ノ責任ヲ執ルコト

(c) 委員會ハ其權限內ニ於テ自己ノ任務ニ屬スル各問題ノ詳細ナル研究ノ爲双方首席同意ノ上何時ニテモ分科會ヲ設置シ得ルコト

C、其　他

(a) 委員會ハ各會議ニ先チ豫メ議題ヲ協定スルコト

(b) 委員會攻究ノ結果双方委員ノ一致ヲ見タル點及不一致ノ點ニ付相當時期ニ一般委員會ニ報告スルコト

該時期ノ決定ハ委員會ニ於ケル双方首席委員、會議ノ上之ヲ決定スルコト

超エテ八月二十四日「ランネフト」代表ト會見ノ際「ラ」ヨリ此ノ次ノ會見ニハ、今回經濟省長官トナレル「ハルト」ヲ同席サセ度ク、自分ノ總督代理中ハ「ハルト」首席タルヘシト云ヘルニ付、筆者ハ毛頭異存ナシ、就テハ貴下總督代理中ハ專ラ委員會ヲシテ諸件ヲ討議セシメ、總督代理終了後再ヒ兩人懇談シテ會議ヲ纏ムルコトヽセハ實際的ナルヘシト云ヘルニ、「ラ」ハ之ヲ首肯セル故、筆者ハ若シ幸ニ此ノ次ノ會見ニ於テ話カ纏マルニ於テハ成ルヘク速ニ委員會ヲ開クコトヽシ度ク、此場合委員會ニ與フル「デイレクライーヴ」ヲ貴我兩人間ニ作ル必要アルヘシト云ヘルニ、「ラ」ハ右ハ非常ニ樂觀的デ自分ハ斯ク滿足ナル談合ヒニナリ得ルヤ否ヤ大ナル疑問ヲ有スト述ヘタガ、八月二十八日更ニ會談ノ際「ラ」ノ手交シタ覺書ノ末段デ、蘭代表部ハ自分方ノ提議ヲ拋棄シ、單一委員會設置ニ關スル日本案ニ同意スルト同時ニ、委員會ニ輸出、輸入及

海運ノ三分科會ヲ設ケタキ意嚮ヲ通告シテ來タ。

當時蘭側ハ海運問題ヲ會商ノ議題トセンコトヲ執拗ニ要求シ、之カ爲メ容易ニ委員會開催ノ運ヒニ至ラナカツタコトハ曩ニ述ヘタ通リデアルガ、前記「ラ」ト ノ會談デ筆者ガ「ラ」ノ總督代理中ハ委員會ノ討議ニ委ネ云々ト述ヘシコトヲ東京テハ手緩シト考ヘ、其間デモ「ハルト」ト重要諸問題ノ折衝ヲ爲シ、出來ル丈ケ纏マリヲ付ケル樣ニト云フテ來タ、餘リニ見當外レナノデ木村顧問ハ八月三十日左ノ電報ヲ來栖局長ニ打ツタ。

本省ニテハ會商進展ニ付多少樂觀シ居ラルル樣ナルカ、第一蘭側ノ執拗サハ御想像以上ニテ、一事項纏ラムトスル瞬間ニ何カ因緣ヲ附ケ虫ノヨキ注文ヲ持出シ、第二ニ末梢ニ拘泥シテ率直怛懷ニ話合ノ出來サル國民性ナルヲ以テ、談判カ容易ニ圓滑ニ進行セサル事ハ豫メ覺悟ヲ要ス、右ハ累次ノ會談ニテ篤ト御諒察ト信ス、斯カル相手方ニ對シテハ押强キ態度ト持久忍耐ノ決心ヲ以テ進ム外ナク、長岡代表モ覺悟ヲキメテ根氣好ク氣長ニヤル樣努力セラレ居ラルル次第ニテ、此際我方少シテモ焦リ氣味ニテ讓步ヲ以テ取纏メントセハ、却テ一層紛糾遲延スルモノト斷セサルヲ得ス、幸ニシテ「サロン」陶磁品ノ賣止メハ勿論紡績ノ迅速賣止決行ハ我方工業者輸出商ノ結束力ノ偉大ナルヲ示シ、蘭印代表ヲ動カシ居ル蘭商ニ甚大ナル恐怖ヲ起サシメ、我方ニ有利ナル情勢ヲ展開シタルハ、偏ニ本省並ニ商工省ノ御盡力ノ結果ト代表部一同ノ感謝シ居ル所ナリ、今後モ此威力ヲ充分ニ利用シ先方ヲシテ從來ノ態度ヲ改メシムル樣努力致スヘキモ、唯今ハ御來示ノ如キ割當其他ノ根本問題ニ付妥結ヲ求メ得ル場合ニ達シ居ラス、先方カ執拗ナル虫ノヨキ

注文ヲ諦ラメ利害關係者カ行詰リタル頃ナラテハ効果ナカルヘシト思考ス。

次ニ「ハルト」代理中ニテモ何等カ片附ケ得ル見込ナリヤニ御考ノ樣見受クルカ、彼ハ年少新任匆々蘭商ト經濟省屬僚ノ兩勢力ニ押サレコソスレ之ヲ統制スル貫錄ナク「ラ」ハ多少トモ大所高處ヨリノ話ニ了解ヲ持チ居リ、爲ニ前記兩勢力ヨリ弱腰トノ非難ヲ受ケ居リシ際ナレハ、總督代理ヲ幸ニ茲一ケ月許リ會商ヨリ手ヲ引キ、厄氣連カ行詰ルハ必定、ソコテ再乘出シテ纏メヤウトノ野心アリト思ハル、從テ會商ノ促進ハ此時ニ多少ノ期待ヲナシ得ヘク、自然「ハ」ノ代理中ハ委員會ヲシテ各種問題ヲ具體的ニ數字的ニ討議シ、双方ノ主張ノ對立ヲ明白ニスルガ山々ナリト覺悟シ置クコト肝要ナリト信ス。

九月一日「ランネフト」代表ハ筆者ニ書翰ヲ送リ九月十日ニ委員會ヲ開キ、海運問題ヲモ附議シタク、日本代表部カ之ニ應シ能ハサルニ於テハ和蘭代表部ハ會商繼續ノ爲メニ必要ナル基礎ノ欠缺ヲ遺憾ナカラ本國政府ニ通告セサルヲ得ヌト云ヒ越シタ、右ニ對シ筆者カ九月六日ノ返翰デ海運問題ニ付テハ解決點ヲ發見スル爲メ協議ヲ續ケルコトヽシ、右以外ノ諸問題ヲ討議スル爲直チニ委員會ヲ開カンコトヲ提議シタ詳細ハ既述ノ通リテ、又海運問題解決ノ顚末モ前記ノ如ク、茲ニ愈々委員會ハ開カレルコトヽナツタ。

九月十八日筆者ハ「ハルト」臨時首席ニ面會シ、海運問題ニ關スル主義上ノ案件解決ヲ告ケタル上ハ一日モ速ニ委員會ヲ開クコト可ナルヘシト述ヘタルニ、「ハ」ハ全然同感ナリ、委員會ニ於テ蘭側ハ「ヘルデレン」教授之ヲ主宰スヘク出席委員ノ名ハ後刻送付スヘシト云ヘルニ付、筆者ハ當方ヨリハ越田代表首席タルヘク列席委員ノ氏名ハ越田「ヘ」兩氏ノ間ニ取極ムレハ夫ニテ宜シカルヘク、又委員會ニテ一般討議ヲナスヘキヤ或ハ直チニ分科會ニ移スヘキヤト云フカ如キ問題モ兩人相談ノ上決スルコトヽ致度シ、就テハ本夕ニテモ越田氏ヨリ「ヘ」ト打合セ、出來得ヘクハ明日會談スル樣越田氏ニ申入ルヘシト云ヘルニ、「ハ」モ至極滿足ノ摸樣ヲ示シタ、次テ本使ヨリ之ハ越田代表ノ關渉事項ニテ喙ヲ挿シ挾ム次第ニハ非サルモ、自分一個ノ私案トシテ考ヘ居ル所テハ委員會ノ取扱フヘキ問題ハ四アリ、其內二ハ他ノ問題ノ提起前解決シ得ルモノト考フルカ、夫ハ輸入商ノ取扱フ比率ノ問題ト輸入制限ノ目標タルヘキ商品目ノ問題デアル、故ニ之ヲ先ツ決定シ然ル後其商品ノ輸入數量ヲ討議スル時始メテ輸出品ニ關スル討議ヲ開始スルコト實際的ナルカ如ク思ハルト述ヘ、比率ヲ眞先ニ討議スルニ異存ナキコトハ過日「ランネフト」代表ノ來翰ニモ明記サレテ居ルト云ヘルニ、「ハ」ハ比率問題ヲ最初ニ討議スルニ異存ナシ、尤モ之ト並行シテ海運問題モ話ヲ進ムル樣致度シト云ヘルニ付、筆者ハ之ヲ諾シタ。

比率問題

翌十九日越田代表ハ「ヘルデレン」教授ト會見、委員會ノ議事方法其他ヲ取極メ、二分科會ヲ設ケテ輸入及輸出ヲ審議スルコトヽシ、先ツ日本商人ノ取扱比率問題ヲ討議シ、次テ品種及數量ノ審査ニ移ルニ決ス。

九月二十一日輸入分科會ノ第一回會議ヲ開キ、越田代表ヨリ左ノ提案ヲシタ。

會商ニ於テ追テ協議決定セラルヘキ輸入制限ノ目標タル商品ニ關シ、日本ヨリ輸入セラルヽ日本產品ニ對スル在蘭印邦商蘭商ノ輸入取扱比率ハ之ヲ均等トシ、華商其他ノ分ハ日蘭双方ヨリ均分ニ吐出ス。

我々ガ何故ニ比率問題ヲ眞先ニ協議セント欲シタカノ理由ニ付テハ敢テ說明ヲ要セヌト思フガ、元來商品ノ輸入ハ需要供給ノ大法則ニ支配セラレルカラ、假令人爲的障碍ヲ設ケテモ、結局天理ニ遵フヲ餘儀ナクサレルモノト達觀シ得ルニ反シ、此等商品ノ輸入ニ從事スル商人ガ幾何ノ數量ヲ自分ノ手デ輸入シ得ルヤノ問題ハ、蘭印政府ノ既ニ執リ又將來執ルヘキ法制デ如何樣ニモ細工ヲスル餘地ガアリ、豫メ保障ヲ取付ケテ置カヌト邦人輸入商殊ニ中小輸入商ハ非常ナ難局ニ立ツ虞ガアルカラデ、此見地ヨリ筆者ハ機會アル毎ニ「ランネフト」代表ニ本問題ヲ提起シタ、其一班ヲ揭クレバ左ノ通リデアル。

八月九日ノ會談。

比率問題ニ關シ本使ヨリ、種々考ヘタルニ各商品ニ付一々日蘭商社ノ比率ヲ設クルコトハ非常ニ煩雜ニシテ實際的ナラスト思フ、仍テ全般的ニ總テノ商品ニ付日本商何割蘭商何割ト云フカ如キ系數ヲ立テ、委員會ニテハ輸出輸入ノ數量ニ付協議セシムルコトヽシテハ如何ト述ヘタルニ、「ラ」ハ自分モコノ事ヲ篤ト考ヘ見タリ、結局品種別ニ比率ヲ定ムルコトハ實際的ナラストノ結論ニ達セルカ、コノ總括的比率ヲ立ツルニ付、矢張一應双方專門委員ヨリ各品種ニ對スル比率ノ表ヲ提出セシメ、之ヲ基礎トシテ總括的比率ヲ定ムルノ外ナシト思ハルト云ヘルニ付、本使ハ斯クノ如キ表ヲ何モ委員會ニ提出シ議論スルニモ及ハサルヘク、自分ノ經驗ニ依ルニ專門委員カ集合スレハ微ニ入リ細ニ亘リ徒ラニ論議ヲ重ヌルノミニテ歸着スル所ナク、結局大局ヨリ代表カ專斷的ニ取極ムルコトヽナル實例多シ、故ニ貴下ノ云ハルヽ表ハ各々首席代表ニ之ヲ提出セシメ兩代表部ニテ比率ヲ定メ兩代表持寄リテ懇談スルコト實際的ナリト思フト云ヘルニ、

「ラ」モ之ニ共鳴ノ容態ヲ示シ、カクナル樣ニ考ヘ見ント云ヒタリ。

八月二十九日會談

本使ヨリ「サロン」問題實際的解決ノ一便法トシテ「ラ」トノ間ニ日蘭商人ノ取扱フヘキ比率ニ付、大局ヨリ各商品ヲ一括シ總體的ニ之ヲ決定スルコトトシ、例ヘハ日蘭五分五分ノ比率トシテハ如何ト提議セルニ、「ラ」ハ飽迄委員會上程說ヲ固執セルニ付、本使ハ貴方專門委員ノ意見ヲ徵シ只今ノ當方ノ申出ニ對案ヲ提出セラルレハ委員會上程ノ煩モ省カルヘシト述フルト共ニ、前記比率ハ蘭側ニ有利ナリト云ヘルニ、「ヘ」ハ然ラハ華商其他ノ割前ハ如何ニスヘキヤト質セルヲ以テ、日蘭双方ヨリ均等ニ割與シ差支ナシト云ヘルニ、何レニシテモ篤ト研究スヘシト云ヒ、五分五分ニテハ面白カラサルカ如キ態度ヲ示シ、且ツ委員會附議ヲ固執セリ。（「サロン」ノ節參照）

九月十五日會談。

「ラ」曰ク自分ハ明日ヨリ總督代理ヲ爲スニ付「ハルト」氏臨時首席タルベキガ、吾々ハ此三ケ月餘ヲ決シテ無駄ニハ過サズ、其間甚ダ有益ナル結果ヲ收メタリ、例ヘハ（イ）輸入組合ヲ設クル必要ヲ双方認識セルコト（ロ）比率ヲ總括的ニ定ムルノ有益ナルコト（ハ）海運問題ニ付テモ或種ノ「ヒント」ヲ得タルガ會商ノ將來如何ニ不拘前記（イ）及（ロ）丈ハ此方針ニテ進ミ得ヘシ。

然ルニ委員會ニ於テハ我方提議ニ對シ蘭側ハ左ノ如キ對案ヲ九月二十四日提出シタ。

一、各輸入商ノ比率ハ各商品輸入總量ニ對スル其輸入數量　重量及特種單位）ヲ基礎トシテ之ヲ定ム

二、右ノ場合日本商ニ對シテハ左記ノ方法ニ依リ定メントス

イ　一九三三年ノ輸入總量ニ對スル日本商ノ取扱比率一割五分及夫レ以下ノモノニ對シテハ一九三三年ノ比率ニ依ル

ロ　同　右　一割五分ヲ超ユルモノ乃至二割未滿ノモノニ對シテハ一割五分

ハ　同　右　二割及夫レ以上ノモノニ對シテハ二割

ニ　捺染織物ニ對シテハ一割五分

ホ　人絹織物ニ對シテハ一割五分

各商品別ニ對スル前記比率ハ輸入特許制ニ關スルモノニシテ、從テ現在既ニ輸入割當ヲ適用セル商品ハ之ヲ除ク。

輸入割當ヲ適用セル商品中「セメント」「ビール」及晒布ニ付日本人ニ對シ許與セル比率ハ之ヲ其ノ儘維持スヘキコトヲ提議ス。

但シ縞「サロン」ニ付テハ前記ノ方法ヲ適用ス

其後比率問題ニ關シ種々意見ノ交換アリタルガ、九月二十八日越田代表ハ輸入制限ノ主體タルヘキ品種ニ關シ左ノ提案ヲ爲ス。

一、追テ協議決定セラルヘキ輸入制限ノ目標タル商品ノ種別ハ蘭印ノ產業保護ヲ目的トスルモノニ限定ス

二、且ツ一九三三年ニ於テ日本ヨリ蘭印ヘ輸出シタル金額百萬盾以上ノ品種ニ局限ス。

「ヘルデレン」教授ハ右案一、中ニハ蘭印ノ產業保護ノミニ就キ言及セラレ居ルモ、右ハ貴方四大原則案其他ノ機會ニ於テ和蘭本國ノ產業保護ヲ或程度迄認メラレ居ル趣意ニ反シ居ラスヤト强硬ニ反對シタルヲ以テ、越田代表ハ右我方提案ハ「プリンシプル」ヲ記載セルモノニシテ勿論和蘭製品ニシテ蘭印市場ニ於テ重要性アルモノハ之ヲ考慮スルモ可ナル旨ヲ答ヘ、(後ニ當方ニ於テ「蘭印市場ニ於ケル重要和蘭品ノ保護又ハ」ヲ加フ)、其他「ヘ」ヨリ二、三ノ質問ニ對シ應答セル處、「ヘ」ハ日本案ハ蘭側ニ取リ頗ル重大案ナリ、本品種問題ハ蘭印貿易政策上極メテ重要ナルモノニシテ且ツ輸出問題ト不可離密接ナル關係アルヲ以テ、後日開カルヘキ輸出委員會ニ於テ輸出問題ト同時ニ討議セラルヘキモノナリト强硬ニ主張セルニ付、越田代表ハ然ラス、本問題ハ輸出問題ト何等關聯ナシ、輸入措置ノ問題トシテ討議シ得ルコトハ貴下トノ話合ニ依リ決定シ居ルモノナレハ討議ヲ續ケ度シト反駁スルト共ニ、孰レニセヨ右我方提案ニ對スル貴方對案ヲ提出アリ度シト要求セル處、「ヘ」ハ依然重大案ナルコトヲ繰返シ居リシカ、結局日本案ヲ充分研究ノ上次回會談ニ於テ蘭側「オブザーヴエーション」ヲ爲スヘシト答ヘタ、

輸入制限ノ主體タルヘキ商品種別及輸入數量問題

其後越田代表ハ「ヘルデレン」教授ト屢々會見シ交渉ノ進捗ニ努メタガ、容易ニ埒アカズ、東京デモ業ヲニヤシ十月六日左ノ如キ電報ヲ寄セタ。

一、屢次ノ御報告ニ依リ委員會ノ經緯ヲ見ルニ、蘭印輸入本邦品取扱比率決定問題ニ付、先方委員ハ我方

提案ニ對シ頭ヨリ之レニ反對シ、折角貴代表及「ラ」ノ懇談ニ於テ「ラ」カ一應ノ贊意ヲ表シタル總括的比率決定案及商品ノ「グループ」ニ付比率ヲ決定セントスル折衷案ニ對シ一顧タモ加フルコトナク、將又海運問題ニ付テモ我方カ海運業者ノ强硬ナル反對ヲ押シ切リ、現行法制ノ下ニ政府トシテ能フ限リノ「インフルエンス」ヲ用ヒ何トカ圓滿解決ヲ計ラント腐心シ居レル苦衷ヲ汲ムコトモナク、曩ニ神戸會商ニ於テ蘭印側船會社カ一旦同意シ而シテ「ラ」自身毫モ異存ナシト言ヘル三一%ノ率ヲモ全然忘レタルカノ如ク、新ニ四一%ヲ要求シ來レルカ如キ、如何ニ委員會ナリト云ヘ眞ニ言語同斷ノ次第ニシテ、會商初マリテ以來既ニ四ケ月ニ垂ントセルニモ拘ラス、何一ツ根本問題ノ解決ヲ見タルモノナシ、斯クノ如ク先方カ終始目先キノ利害ニノミ動カサレ大局ヨリ問題ヲ解決セントセス、飽迄從來ノ如キ掛引澤山ノ小策ヲ弄シ我方ヲ引ツル態度ヲ棄テサルニ於テハ、徒ニ會商ヲ遷延スルノミニシテ豫テ切リニ會商ノ急速解決ヲ希望シタル先方トシテ果シテ誠意アリヤ疑ハレサルヲ得サル次第ナリ。

二、殊ニ先方ハ「バーター」主義ヲ以テ第三國ト協定シ蘭印產品買付國ニ有利ナル割當ヲナサント稱シ居ルモ、蘭印特產品ノ關係上果シテ何レノ國カ右ニ應シテ買增シヲ行フモノアルヘキヤ、既ニ英國トノ取極ニ破レタルノミナラス蘭本國スラ「メーズ」買付ニ手ヲ燒キタルニ徵シテモ其困難ナルヤ明ニシテ、假リニ百步ヲ讓リ第三國ヲシテ蘭印特產ヲ買付ケセシメ得タリトスルモ、之レト交換ニ其國ヨリ輸入スル高價ナル物品ヲ賣捌クコト頗ル困難ニシテ、結局第三國ト「バーター」協定ノ如キハ事實上殆ト不可能ナルヘク、斯カル空想ニ付掛引論議ヲ上下シ會商ノ成立ヲ困難ナラシムルヨリ先方トシテハ必要ニシテ且ツ賣捌

キ可能ナル本邦品ヲ輸入セシメ、當方ヲシテ多少トモ蘭印特產ヲ買付ケシムル方實際的ナルヘク（尤モ砂糖ニ付テハ東京和蘭公使ハ本邦ニ於ケル砂糖ノ生產消費狀態ニ鑑ミ其多量買付ケヲ要求スルカ如キハ無理ナリトノ意見ヲ本國政府及貴地官邊ニ具申シ居レル趣內話セリ御參考迄申添フ）殊ニ木材ノ如キハ最近樺太森林保護ノ爲北洋材出廻リ著シク減少シ、蘭印側ニ於テ運賃高キ蘭船積込ミヲ强制セサル限リ本品ノ本邦ヘノ輸入增進ノ見込充分ナル事情等ニ鑑ミレハ、右ハ寧ロ先方トシテモ有利ナルヘシト思考ス。

三、就テハ貴代表ハ可能機會ニ於テ「ランネフト」又ハ總督ニ對シ右ノ趣旨篤ト說述ノ上會商促進方ニ付先方ノ深甚ナル考慮ヲ促サレ、結果御回電アリタシ、

此電報ニ引續キ十月六日更ニ左ノ入電ガアツタ。

前電申進メノ通リ今日ノ空氣ニテハ當方ヨリ妥協案ヲ委員會ニ提示スルモ、先方ハ當方ノ誠意ヲ理解セス又々一流ノ掛引ヲ弄シ事態ヲ紛糾セシムルニ止マルヤノ惧レアリ、何ヨリモ右空氣ノ改善ヲ必要トスルヤニ存セラルニ付、先ツ「ランネフト」ニ面會セラレ前電ノ趣旨ヲ說述シ、「ラ」ニ於テ蘭側委員ノ考慮ヲ促ス樣斡旋スルニ於テハ、我方ニ於テモ總括的比率決定ノ主張ヲ緩和シ商品ノ「グループ」ニ依ル比率決定ノ可能性ヲ示スヘシトノ旨ヲ仄メカシ、其ノ反響ヲ見ラルヽ樣致度シ。

我々ノ觀測デハ右東京ノ考ヘ方ハ從前同樣事態ニ即セヌコト夥ダシイカラ、木村顧問ヨリ左記電報ヲ來栖局長ニ打ツタ。

貴電ニ關シ分科會ノ進行振ニ付蘭印側ノ不誠意言語同斷ノ事ハ貴見ノ通リナルカ、右ハ累次申進タル通リ

蘭印ノ特性ニシテ、一旦或ル程度迄話合付キタリトモ明日ハ平然トシテ當初ノ主張ヨリ繰返ス事ハ日常ノ商取引ニ於テモ同樣ニシテ、目前ノ懸引ニノミ捉ハレ容易ニ其腹案ヲ吐カサル性質ニ有之、輸入分科會折衝ノ中ニ同一問題ニ就テ首席代表間ニ並行的交渉ヲ開始スル時ハ、却テ委員會ヲ一層無責任ノ地位ニ追込ムノ恐アリ、且ツ委員會ノ交渉振ニ就テモ微妙ナル關係アリ、セメテ日本側專門家ノ計數的主張提案丈ニテモ一應表明シタル上ニテ、「ラ」ト長岡代表トノ會談ニ移スコト得策ナリト思考セラル、事態「デリケート」ノ點モアリ小生ヨリ左ノ通リ內報御考慮ヲ煩ハス。

一、輸出入分科會ニ於テ何等妥協的意見ノ一致ヲ見ル事ハ蘭人ノ性格並ニ委員ノ顏振ニ鑑ミ當方ニテハ初メヨリ多クノ期待ヲ掛ケ居ラス、日蘭双方ノ主張ヲ具體的計數的ニ表明シタル上ニテ、既電ノ通リ結局「ラ」ト長岡トノ膝詰談判ニテ眞劍ニ解決點ヲ發見セムトスル計畫ナリ、「ヘ」ニセヨ「ホ」ニセヨ此ノ如キ猶太人系ノ屬僚ニ依ツテ紳士的協定等望ミ得ヘカラス、彼等ノ我儘勝手ナ申分ヲ具體的計數的ニ表示セシメ置キ、之ニ對シテノ眞劍ナル反駁及拒絕並ニ本邦ノ强硬態度ニ依ツテ蘭側ヲ屈服セシムルカ、或ハ見透シヲ付ケテ妥協スルカノ如キ會商ノ展開ヲ分科會ニ望ムハ、蘭人ノ心理、彼我委員會ノ組織ニ徵シ無理ナル注文ト思ハル。

二、蘭側ノ今日迄ノ態度ハ、輸入委員會ハ日本ノ主張ニヨリ止ムナク開キタルモ、夫レハ好イ加減ニアシライ、輸出委員會ヲ速ニ開キ砂糖買附ノ問題ヲ眞向ニ振カサシ、始メテ日本品輸入ニ付最低最高ノ限度ヲ示シ、「バーター」制ヲ强行セムトスル計畫ナルハ推測ニ難カラス、仍テ今一二回ノ會合ニ於テ我方ノ計數ヲ示シ我方ノ主張丈ニテモ明白ニシテ蘭側ヲ誘ヒ、其輸入制限ニ關スル計數及具體案ヲ吐カシメ、之ヲ「ラ」トノ私談ノ資料トシテ交渉ヲ開キ、一擧ニ彼等ノ底意ヲ確ムルコト肝要ナリ。

三、輸出委員會ニ入ラハ我方ヨリ自然的輸出增加貿易調整ノ方針ヲ明示シ、輸出ノ障碍除去ヲ先決問題トシ、蘭側ノ砂糖强制買附問題ニ就テモ其無暴ナル案ヲ吐カシメタル上ニテ强硬ニ論駁シ、彼我對立ノ儘ニテ「ラ」ト長岡ノ解決交渉ニ移ス考ナリ。

四、十月十七日ヲ以テ總督歸任「ラ」ハ首席代表ニ復活スヘキニ付、貴電三末段ノ時機ハ其以後トスル外ナク、又其委員會促進ヲ計リ輸出入トモ一應ノ結論ヲ作リ、一般委員會ニ報告スル所迄進マシメタシ。

五、加之未晒問題ヲ手始メニ或ハ近々輸入制限令ヲ濟崩シニ發布スルヤモ計リ難ク、之ヲ切掛ケニ一度我方ノ斷乎タル態度ヲ示シ、會商停止ノ止ムナキニ至ルトモ思ハル、(尤モ「ハ」トノ談合ノ結果發布前ニ內示協議スル事ハ勿論ナルヘシ)、其際日本側ハ今日迄誠意妥協ノ爲ニ具體的成案ヲ提示セルニ、蘭側カ徒ニ掛引ニ捉ハレ實行不可能ナル無暴ノ要求ヲナシ會商ヲ遲延セシメタル事ヲ暴露シ、反響ヲ見ルコト蘭人ノ如キ特殊心理ヲ有スルモノニ對シテハ必要ナル「タクテツク」カトモ思考セラル、本省ニ於テモ此點ニ付豫メ御考量ヲ煩ハシタシ。

我々ハ斯クノ如ク東京ト照覆スルト同時ニ、蘭側ニモ妥協的具體案ヲ提出スルノ必要ヲ認メ、越田代表ハ十月九日左ノ新提案ヲシタ。

十月一日附蘭側覺書ニ關聯シ本代表ハ本委員會開設以來日本側ノ提案ニ付、其計數的具體的計畫(プラン)

ヲ茲ニ提示スルコトカ、本會商ニ於ケル日本ノ態度及方針ヲ明確ナラシムルニ必要ナリト信ス。

本委員會開催以來既ニ十數日ヲ費シ、個々ノ問題ニ付易ヨリ難ニ進ミ、出來得ヘクンハ個々ノ問題ニ付兩代表部ノ意見ノ一致點發見ニ努力シタルモ、不幸ニシテ本日迄何等具體的結論ニ到達セサリシ事ヲ遺憾トスルモノナリ、是レ畢竟前掲蘭側覺書ニ表示セラレタルカ如キ相互ノ理想的國策、相互ノ純理論的主張ニ固執スル結果ニ非サルヤヲ疑フモノナリ、所謂純理的原則ニ關シテハ既ニ一般委員會ニ於ケル兩國首席代表ノ論據並ニ兩代表部間ニ交換セラレタル公文ニ依リテ明ナリ、依テ右兩國首席代表ハ本委員會ニ對シ實際的見地具體的計畫（プラン）ニ依テ何等カ双方ノ主張ニ接近セル實行案ヲ得、之ヲ一般委員會ニ報告シテ双方代表部ノ考慮ニ附スル爲具體的計數的結論ヲ作製スルノ任務ヲ委任スルコトニ打合ヲ遂ケタリ、此意味ニ於テ前掲蘭側ノ純理論的覺書ニ對シテ純理的論駁又ハ回答ヲ本委員會ニ於テ本代表ヨリ提出スル事ハ甚タ實益ニ乏シキモノト信ス。

故ニ以下右双方ノ純理論的主張ヲ離レテ、今日迄日本側委員ノ主張シ又ハ提案セル輸入問題ニ關シ更ニ一歩ヲ進メテ、實際的見地ヨリシテ双方ノ純理的原則主張ニ何等ノ「プレジユデイス」ヲ與フル事ナキ意味ニ於テノ日本案ヲ和蘭側ノ考慮ニ入レント欲ス。

第一ニ日本輸入品ニ付日蘭各輸入商ノ「グループ」ニ對シ共存共榮ノ趣旨ニ基キ提起シタル比率案ハ、改メテ之カ具體的說明ヲ要セスト思考スト雖モ、我方ノ欲スル所ハ日本輸入商ノ取扱比率ヲ定ムレハ足ルト共ニ、日蘭會商ハ單ニ日本ト蘭印トノ間ノ問題ヲ解決スルヲ目的トシ、從テ其比率ニ付テモ日本ノ輸入商

品ニ關シテノミ之ヲ定ムレハ足ル。

以上ハ我方ノ見解ナルカ貴方ノ提案ニ係ル輸入總額ニ付比率ヲ定ムル可能性アラハ、妥協的精神ニ訴ヘ其希望ニ應シ別紙附屬第一號ヲ提出ス、同附屬書記載以外ノ商品ノ輸入ハ國籍如何ニ拘ラス之ヲ一切ノ輸入業者ノ自由ニ委スキモノナリ、予ハ又日本代表部ニ於テハ既發諸令ノ變更不可能ナリトスル貴方ノ云ヒ分ハ、一般委員會ニ於ケル兩國代表ノ了解ト異ルニ付、之ヲ受諾シ難キコトヲ明ニセントス。

第二ニ右比率ニ依テ日蘭兩輸入商團ノ爲ニ適用セラルヘキ商品ノ範圍ハ所謂商品別問題トシテ其基礎的原則ヲ提起シ置キタルカ、之ヲ再ヒ一九三三年ノ基礎ニ於テノ實績ニ徵シ、具體的ニ其品目ヲ掲ケレハ別紙第二號ノ通リナリ。

第三ニ右比率及品種別ノ實際的價値ヲ計數的ニ且ツ具體的ニ標定スルニハ、確然タル各品目ニ付テノ制限數量ヲ示ササルヲ得ス、若シ日本側カ蘭側ノ覺書ノ如キ純理論的主張ヲ固持スルニ於テハ結局左ノ提案ヲナササルヲ得ス。

一、各年度ニ於ケル各協定品種ノ總輸入許可數量ハ一九三三年ニ於ケル當該品種ノ蘭印總輸入數量ヲ基準トス、但シ兩國代表ニ於テ一九三三年ニ於ケル輸入數量カ著シク過剩ナリト認メタルモノニ付テハ一九三二年ニ於ケル輸入數量トノ差額ノ三分ノ一ヲ限度トシ之ヲ減額シ得ルモノトス。

二、各協定品種ノ總許可數量內ノ輸入ハ、各國自由ニ之ヲ爲シ得ルモノトス。

三、日本產品ノ輸入ニ關シテハ其輸入ヲ困難ナラシムルカ如キ條件ヲ附セサルモノトス。

蓋シ日本側ニ於テハ純理論ヨリセハ日本品ニ關シテ一定ノ輸入制限數量ヲ提示スル事ハ即チ日本側ノ常ニ反對セル國別割當又ハ「バーター・システム」ニ基ク割當制限ヲ認容スル第一歩ト看做サルル虞レアレハナリ、故ニ特定ノ商品ニ關シ特ニ日本品ニ付テ輸入額ヲ計數的ニ限定スル事ハ、右日本ノ原則的主張ヲ放棄スル意味ニ非ス、從テ蘭側ノ理論的主張ヲ認容スルモノニ非サル事ノ諒解ノ下ニ於テノミ日本側ニ於テハ考慮ノ價値アリト信スルモノナリ、換言スレハ各自ノ貿易ニ關スル純理的國策並ニ理論ヲ超越シテ、專ラ兩國ノ相互ノ利益ノ爲ニ實際的見地ヨリシテノ一時的措置殊ニ「アブノーマル」ノ經濟事態ニ適用スル便宜手段トシテノミ考慮シ得ラルルモノナル事ヲ茲ニ宣明スルモノナリ。

右見解ノ下ニ本代表ハ別紙第三號ノ通リ數量ニ關スル日本側ノ提案ヲ此機會ニ本委員會ニ提示スルモノナリ。

以上ノ品種別及其各々ノ數量ニ關スル具體的計數的提案ヲ曩ニ提出セル比率ノ問題ト併セテ全般的考慮ヲ加ヘラルルニ於テハ、茲ニ輸入制限問題ニ關スル日本ノ實際的具體的計畫而モ貴方ノ所謂非常時ニ對應スル爲ノ當方ノ妥協的一時ノ便宜手段（メジユアー）ノ何タルカヾ始メテ明確ニナリタルモノト信スルカ故ニ、蘭側ニ於テモ日本側ト同樣ノ實際的便宜方法而モ日蘭相互ノ純理的主張ニ何等ノ影響ヲ及ホササル實行案ヲ協定スル精神ニ於テ、本案ニ關スル考慮ヲ盡サルヘキコトヲ確信スルモノナリ。

附屬第一號

日本商ノ輸入取扱比率

A、輸入總數量ニ對スル日本商ノ取扱比率五〇％ノモノ

一、未晒綿布

二、晒綿布

三、無地染綿布

四、捺染綿布

五、糸染綿布

六、綿布雜類

B、同　四五％ノモノ

七、陶磁器

C、同　三〇％ノモノ

八、縞サロン類

九、メリヤス製品

D、同　二五％ノモノ

一〇、人絹織物

E、同　二〇%ノモノ
一一、自轉車及同部分品
F、同　一五%ノモノ
一二、ビール
G、同　一〇%ノモノ
一三、織　糸
H、同　四%ノモノ
一四、セメント

前記日本商人ノ輸入比率ニ依ル商品ノ選擇ハ日本商人ノ自由タルヲ要スヘク、從テ日本代表部ハ現行晒綿布制限令ニ見ルカ如キ強制的ニ或ル一國品ヲ取扱フヲ要スルカ如キ一切ノ義務ハ之ヲ排除スルコト勿論ナリ。

附屬第二號

輸入制限セラルヘキ商品ノ種別

一、未晒綿布
二、晒綿布

a　平組織ノモノ
b　綾組織ノモノ
c　其ノ他ノモノ
三、無地染綿布
四、捺染綿布
五、糸染綿布
六、綿布雜類
七、陶磁器
a　統計番號第四二三號乃至第四三五號該當品
b　統計番號第四三六號該當品
c　統計番號第四三七號乃至第四四三號及第四四五號該當品
d　統計番號第四四四號及第四四六號該當品
e　統計番號第四四七號該當品
八、縞サロン類
a　綿製ノモノ
b　人絹及交織ノモノ

c　其ノ他ノモノ

九、メリヤス製品

a　メリヤス肌衣

b　綿靴下

一〇、人絹織物

一一、自轉車及部分品

a　自轉車

b　同部分品

一二、瓶詰麥酒

一三、織絲

一四、ポートランド・セメント

附屬第三號

日本品輸入數量

番號	品種別	單位	數量
1	未晒綿布	千碼	六〇・五〇〇
2	晒綿布		
a	平組織ノモノ	〃	一〇八・〇〇〇
b	綾組織ノモノ	〃	一五・〇〇〇
c	其ノ他ノモノ	〃	三・〇〇〇
3	無地染綿布	〃	九七・〇〇〇
4	捺染綿布	〃	八九・〇〇〇
5	糸染綿布	〃	五八・〇〇〇
6	綿布雜類	千瓩	五・〇〇〇
7	陶磁器		
a	統計番號第四二三號乃至第四三五號該當品	千打	一〇〇
b	統計番號第四三六號該當品	千瓩	五〇
c	統計番號第四三七號乃至第四四三號及第四四五號該當品	千打	四・〇〇〇
d	統計番號第四四四號及第四四六號該當品	千瓩	二・五〇〇
e	統計番號第四四七號該當品	千瓩	二・二〇〇
8	縞サロン類		
a	綿製ノモノ	千コーデ	六九〇

b	人絹及交織ノモノ	〃	八〇
c	其ノ他ノモノ	〃	一〇
9	メリヤス製品		
a	メリヤス肌衣	千打	一・五〇〇
b	綿靴下	〃	二二〇
10	人絹織物	千瓩	五・六〇〇
11	自轉車及部分品		
a	自轉車	千臺	一九
b	同部分品	千瓩	七・〇〇〇
12	瓶詰麥酒	千リットル	三・三〇〇
13	織絲	千瓩	一・〇〇〇
14	ポートランド・セメント	〃	一二八・〇〇〇

前表記載ノ各種別ノ日本品數量ハ一九三三年（「セメント」ハ一九三二年）ノ輸入實績ヲ基準トスルモノナリ、右品種ノ商品ノ蘭印ヘノ輸入總數量カ一九三三年（「セメント」ハ一九三二年）ノ數量ヲ超ユルトキハ、輸入許可セラルヘキ日本品ノ數量ハ自働的ニ右超過數量ニ正比例シテ增加セラルヘシ。

砂糖問題

以上ヲ以テ方向ヲ轉シ十月十一日輸出分科會ノ第一回會議ヲ開イタ、先方ハ劈頭砂糖問題ヲ持出シ、「ウエヤース」委員ハ左記陳述後提案ヲ讀ミ上ケタ。

過去十五年間日本ノ爲政者實業家等ハ蘭印ノ糖業ニ大ナル關心ヲ持チ熱心ニ調査研究セラレタルカ、當方ニ於テハ其調査研究ニ開放シテ何等隱ストコロナカリキ、從テ日本糖業ノ發達ハ爪哇ノ糖業ニ負フ所甚大ナリトス。他方爪哇糖業ハ正常ナル發達ヲ遂ケタルモノニシテ何等跳躍的ノ發達ヲ爲シタルコトナシ、然ルニ近年諸國ノ經濟政策ハ爪哇糖業ヲ困難ニ陷ラシメタリ、仍テ爪哇糖業ハ自己防衛ノ歷史的權利ヲ有スルモノナリ。蓋シ爪哇糖業ハ住居生存ノ要具ニシテ其購買力ノ主因ヲ爲ス糖業ハ實ニ爪哇ノ生命ナリ、然ル　近年爪哇糖ノ輸出著シク減少シ、英領印度、支那、日本ノミナラス歐洲諸國ニ於テモ爪哇糖ノ輸入著シク減退セリ。此窮狀ヲ救濟スル爲ニハ砂糖ノ生產ヲ減縮スルコト絕對ニ必要ナリ、然ルニ臺灣ノ砂糖ハ國內消費ノ需要ヲ充タスノミナラス進ンテ海外ニ輸出シ、無保護ノ狀態ニ在ル爪哇糖ト競爭シツツアリ、如斯キ狀態ニ於テ當方ヨリ提出シ得ルモノハ唯左案アルノミナリ。

一、(a)日本ハ再ビ爪哇糖相當量ノ買手トナルヲ要ス、其實行ハ日本ガ生產ヲ減少スルコトニ依リテノミ之ヲ爲スコトヲ得、何トナレハ貯藏品ノ蓄積ハ事態ヲ著シク惡化スルヲ以テナリ、故ニ執ラルヘキ第一手段ハ日本帝國ノ主要生產地タル臺灣ノ生產ヲ減少スルニ在リ。

故ニ日本ハ今後三年間一九三六年度收穫（一九三四年植付）ヨリ初マリ、臺灣糖ノ生產ヲ四十七萬五百「メートリック」噸（八百萬日本ピクル）ニ減少スルヲ約ス。

（b）、第二ノ手段ハ委任統治諸島及關東租借地ヲ含ム日本帝國ノ前記以外ノ部分ノ生產ヲ　約現在ノ生產ニ制限スルニ在リ。

故ニ日本ハ日本本土、委任統治諸島及關東州ノ砂糖生產ヲ毎年二百八十萬日本「ピクル」ニ限定スルヲ約ス。

（c）、滿洲國ニ於ケル糖業ガ條約有効期間內ニ發達スルニ於テハ、前記手段ハ有名無實タルヘシ。

故ニ條約有効期間內ニ滿洲國ニ於テ生產セラルヽ砂糖ノ數量ハ、前記（a）及（b）ニ記載サレタル生產量中ヨリ同量ヲ差引クコトニ依リ補償セラルヽヲ要ス。

（以上砂糖中ニハ黑砂糖、白砂糖ノ如キ總ヘテノ種類ヲ包含スルモノトス）

二、右制限ノ結果トシテ日本ハ「ジャヴア」ノ提供スル砂糖ノ一定量ヲ購入スル可能性アルヘシ。

故ニ日本ハ一九三四年中ニ全量少ナクモ二十萬「メートリック」噸ノ砂糖ヲ購入シ之ヲ日本ニ輸入スヘク一九三五、六、七年度ニハ毎年少ナクモ五十萬噸ヲ蘭印ヨリ購入シ日本ニ輸入スルコトヲ約ス。

前記購入ハ適當ノ價額ニテ爲サルヽヲ要シ、其價額ニ關スル詳細ハ追テ討議決定セラルヘシ。

三、蘭印ガ極東ニ於ケル砂糖市場ヲ保持スル爲ニハ、日本ガ普通量以上ニ其輸出ヲ爲ササルコトニ依リテノミ目的ヲ達スルヲ得。

故ニ日本ハ條約有効期間中關東租借地ノ輸出ヲモ加ヘ毎年十五萬「メートリック」噸以上輸出セサルコトヲ約ス。

四、本案ノ目的ハ日本ノ減產ニ依ツテ日本ガ必要トスルニ至レル砂糖ノ全部ヲ「ジャヴア」ヨリ供給スルニ在リ。

故ニ日本ハ條約有効期間中蘭印以外ヨリ砂糖ヲ購入セサルコトヲ約ス。

五、以上ノ結果トシテ日本ハ條約存續中、條約所定ノ條件ニ基ク分斷的數量ハ別トシ、十八萬「メーリシク」噸ノ Normal iron stock ヲ超エサル樣日本帝國ノ砂糖貯藏ヲ制限スル爲、凡ユル手段ヲ講スルヲ要ス。

右貯藏糖ハ追テ討議サルベキ方法ニ依リ條約終了後漸次ニ處分セラルヘキモノトス。

六、條約ニ依ル兩國間ノ糖業關係諸問題ヲ取扱フ爲、兩國ハ中央政府ノ機構ヲ設クヘシ。

右ニ對シ越田代表ハ左ノ通リ答ヘシト云フ。

予ハ蘭側委員ノ爲シタル日蘭印間ノ貿易調整及蘭印ヨリ日本ヘノ輸出增進ノ必要ヲ主張セル陳述ヲ興味ヲ以テ聽取セリ。

日本ヘノ輸出增進ニ關シテハ蘭印カ其ノ如何ナル數量ノ如何ナル物產ヲ如何ナル條件ニテ賣ラント欲スルヤヲ直接聽取セスシテ正確ナル觀念ヲ得ルコト不可能ナリト云ハント欲ス。

日本品ノ蘭印輸入ニ關シテハ日本側ヨリ既ニ數個ノ提案ヲ爲シタルノ外尙ホ同一問題ニ關シ他ニ提出スヘキモノアリ、同樣ニ蘭印物產ノ日本ヘノ輸出ニ關シテハ蘭印ニ對シ其具體案ヲ提出セラレンコトヲ期待ス

日本代表ハ此提案ヲ入手セル日本商社ニ依ル蘭印物産買付增加ヲ目的トスル對案ノ作製ヲ試ミント欲ス。

予ハ日蘭印間ノ貿易調整ノ爲日本ヘノ蘭印物産ノ輸出ヲ可成增加スルコトハ甚タ望マシキコトヽ思考スルモ、此買付增加ハ主トシテ需要供給ノ原則的市場ノ狀態等ニ基礎ヲ置ク自然的商取引ノ方法ニ賴ルヘキモノナルヲ以テ、日本政府トシテハ斯カル買付ニ對シ其權限內ニ於テ或種ノ便宜ヲ供與シ、以テ此等買付ヲ勸奬シ得ル程度ニ過キス。

砂糖ニ關シテハ御承知ノ通リ日本ハ啻ニ自給自足シ得ルノミナラス、假令少量ナリト雖外國ニ輸出シツヽアルノ現狀ナルヲ以テ、本品ニ關シ「センシブル」ノ買付ヲ期待スルコトハ不可能ナルヘシ、蘭側「ウエイヤー」委員ヨリ只今入手セル提案ニ付テハ追テ研究スヘシ。

予ハ前述ノ通リ蘭印ヨリ日本ヘノ輸出ニ關シテハ貴代表ヨリ具體案ヲ入手シタル上、對案ヲ作製スルコトヽスヘシ。

右蘭側提案ヲ知ツタ外務省ガ激怒シタノハ勿論デ、十月十五日左ノ如キ入電ガアツタ。

今次先方提案ハ本邦ニ於ケル砂糖ノ生產ノ制限及貯藏ノ限界ヨリ其輸出入ニ迄モ容喙シ、我方ヲ「デイクテート」セントスルモノニシテ、如何ニ委員會案ナリトハ言ヘ非禮モ甚シク、其儘不問ニ附シ難キモノアルノミナラス、將來第二項ニ付具體的話合ニ入リタル際ノ先方數字反擊ノ爲ニモ本案全體ノ亂暴ナルコトヲ强調シ置クコト有効ナルヘシト思考セラルルニ付、此ノ際不取敢可能方法ニ依リ本案ノ如キモノハ到底日本政府ノ考慮ニ容レ難ク本件再考アリタキ旨篤ト申入レ置キ相成度。

右ノ公電ト一所ニ來栖局長ハ左ノ情報ヲ木村顧問ニ送ツタ。

十五日往電ハ特ニ大臣ノ命令ニ依ル次第ニテ、大臣ハ先方ヲシテ本案ヲ撤回セシメテハ如何ト迄云ヒ居ラレタル事情ニ付、御含ミ有度、尙ホ自分本日和蘭公使ト會見、大臣カ頗ル不快トセラレ居ル次第ヲ强ク印象セシメ置キタリ。

筆者ハ十月十六日「ハルト」臨時首席ニ面會シ强硬ニ抗議シタ、其會談要領左ノ通リ。

本使ヨリ砂糖ニ關スル貴方ノ提議ヲ越田代表ヨリ受取リ閱讀シ本使ハ實ニ意外ノ感ニ打タレタリ。惟フニ「プリチツシユ・エムバイヤ」ノ「ドミニオンス」ノ一カ「グレート・ブリテン」ヨリ同樣ノ提議ヲ受取リタル場合、右「ドミニオン」デスラ其「デイグニテイー」ヲ毀損セラレシモノトシテ憤慨スルコトヽ思フカ、斯クノ如キ提議ヲ何故日本ニナセルヤ頗ル了解ニ苦シム所ナリト云ヘルニ、「ハ」ハ該案ノ精神ハ決シテ他意アルニ非ス、折角砂糖ヲ買ツテ貰ツテモ買入ノ結果現實ニ爪哇ヲ需ホスニ非サレハ何ノ價値モナキ故、其前提トシテ記入セルニ過キスト云ヘルニ付、本使ハ意思ハ如何ナリトスルモ該提案ヲ讀ム者ハ該提案カ日本ノ糖業政策ニ容喙スルモノト解釋セサルヲ得ス、況ンヤ臺灣ニ於テハ斯々、委任統治領ニ於テハ斯々、ノミナラス滿洲國ニ於テ甜菜糖ノ栽培ヲ禁スルカ如キ、日本ニ對シ第三國ニ於ケル砂糖生產ニ干涉セヨト云フカ如キハ全ク言語同斷ナリト云ヘルニ、「ハ」ハ更ニ前言ヲ繰返シ全ク干涉又ハ容喙ノ意思アリテ斯ク記入セルニハ非サリシカ、貴言ノ如ク形式ハ如何ニモ面白カラサリシ如シ、之ニ關シ「ヘ」ヨリ越田代表ニ說明スヘシト云ヘルニ付、本使ハ說明ヲ受ケテモ何ノ効果ナシ、提案ハ讀者其者ノ解釋ニ任ス外

ナク、例ヘハ其冒頭ニ於テ Japan should etc. トアルハ之ヲ佛語ニ釋スレハ Le Japon s'oblige etc. トナル、而シテ其後ニ Japan undertakes ナル語ハ佛語ノ Le Japon s'engage ト云フ形式ニナリ、純然タル命令ナリ之ヲ讀ミシ日本外務大臣ハ非常ニ憤慨シ、此提案ヲ引キ取ラセヨトノ訓令ヲ我々ニ電報セリト云ヘルニ、「ハ」ハ前言ヲ更ニ繰返シ陳辯セルニ付、本使ハ和蘭ハ曾テ出島ニ於テ日本ト外國トノ輸出入、貿易ヲ獨占セルカ、之ハ昔ノ夢ナリ、砂糖ニ付テモ爪哇糖ノ極東市場獨占ハ是亦歴史ニ過キス、世ハ時ト共ニ推移シ徒ラニ過去ヲ夢ミルモ何等得ル所ナカルヘシ、蘭側提案ハ爪哇糖ノ極東ニ於ケル獨占復活ヲ理想トシテ立案セラレシモノナルヘキモ、物事ハ事態ニ即シ現實ヲ基礎トスルニ非サレハ何等ノ眞味モナク、會商ノ成功モ一ニ懸テ此實際的見地ニ立脚シ如何ニ都合ヨク双方ノ利害ヲ按配シ得ヘキヤト云フ基點ヲ發見スルニ在リト思フト述ヘタルニ、「ハ」ハ三度ビ提案ノ説明ヲナシ折角日本ニ砂糖ヲ賣ルモ其砂糖カ國外ニテ消化セラルヽニ於テハ蘭印ニトリテハ何等ノ効果ヲ齎ラサスト云ヘルニ付、本使ハ大イニ然ラズ、例ヘハ其砂糖ハ砂糖其儘トシテデナク輸出セラルヽコトモ多カルヘク、又支那市場ニ於テ日本ハ蘭印ヨリ遙カニ多量ノ砂糖ヲ賣込ミ得ル能力ト經驗ヲ有スト指摘セル後、之ハ單ナル思付ナルカ砂糖ノミナラス蘭印側ニテ日本ニ買ツテ貰ヒ度シト思フ物産ヲ網羅シタル表ヲ作リ、必要ナラハ之ニ計數ヲ加ヘ之ヲ我代表部ニ送リ、曩ニ提出セル書類ニ代フルモノナリトノ趣旨ヲ申添ヘラルヽニ於テハ、本件モ圓滿ニ解決シ得ヘシト云ヘルニ、「ハ」ハ此事モ篤ト「ヘ」ニ傳フヘキカ、何レニセヨ「ヘ」ヨリ越田代表ニ充分蘭側代表部ノ意ノアル所ヲ説明スヘシト繰返セル故、本使ハ只辯明ノミナルニ於テハ當方ハ極メテ强硬ノ抗議ヲ該文書ニ對シ

テナサヽルヲ得ス、此點ハ今ヨリ豫告シ置クニ付、本使ノ提言ニ充分ノ考慮ヲ拂ハルヽ樣希望スト述ヘ置ケリ。

越田代表ハ十月十九日ノ輸出分科會テ左記反駁書ヲ讀ミ上ケタ後、引續キ左ノ陳述ヲシタ。

十月十一日本委員會ニ於テ和蘭代表部ノ提言セラレタル砂糖提案ニ付、日本代表部ハ其重大性ニ鑑ミ愼重攻究セル結果、遺憾乍ラ該案ハ之ヲ考慮ニ入ルルコト至難ナリト思考スルモノニシテ、寧ロ和蘭代表部ニ於テ再考セラレムコトヲ切望スルモノナルコトヲ茲ニ言明セムトス。

一、貴代表ノ本委員會ニ於テ陳述セラレタル蘭印經濟當面ノ困難ニ就テハ、日本代表部ハ同情的精神ヲ以テ之ヲ考慮シ、殊ニ日本蘭印間ノ經濟的密接關係增進ヲ庶幾スル兩國ノ傳統的友好ニ鑑ミ、蘭印諸物産ノ原料品ノ購入ニ依ル對日本輸出增進ニ付、出來得ル限リノ好意的考慮ヲ加フルヲ惜ムモノニ非サルコトハ日本代表ノ屢々宣明セル所ニシテ、本代表モ亦十一日本委員會ニ於テ之ヲ陳述セリ。

二、從テ本委員會ニ於テモ日本代表部ハ蘭印カ如何ナル物産ヲ如何ナル條件ニテ幾何ノ數量ヲ賣ラムコトヲ希望セラルルヤノ具體的提案ヲ期待シ、之ニ基キ前記ノ精神ニ於テ協議セムト欲スルモノナリ、圖ラサリキ貴代表部ノ提案ナルモノハ單ニ毎年五十萬噸ノ砂糖買付輸入ヲ希望セラルルニ止ラス、一歩ヲ進メテ之ヲ日本政府ノ義務トシテ約束セムコトヲ要求セラレタリ、斯クノ如キ賣買ノ問題ハ當然商取引ニ屬スルモノニシテ需要供給ノ原則及市場ノ狀態等ニ基キ商人間ニ行ハルヘキモノナリ、孰レノ國ノ政府ト雖其權限内ニ於テ或種ノ便宜ヲ供與シ右賣買ヲ勸奬スルコトノ外約束シ得サルコトハ自明ノ理ナリ。

三、若シ夫レ蘭側提案第一項ノ規定ノ如キハ日本國内ニ於ケル砂糖生産ノ制限ヲ強要シ、甚シキハ第三國タル滿洲國ノ生産ニ關聯セシメ、第三項ニ於テハ日本ノ第三國ヘノ製糖輸出ノ制限ヲ約セシメムトシ、第四項ニ於テ蘭印以外ノ他國ヨリノ砂糖買入ヲ禁止シ終ニ第五項ニ於テハ貯藏ノ限界迄モ制定セムトスルモノニシテ、右諸項ノ提議ハ恰モ蘭國カ日本ノ輸出入生産ノ諸政策ニ容喙シ、而カモ之ヲ命令セムトスルカ如キ感ヲ懷カシムルモノニシテ、明ニ主權國家ノ威信上到底受諾シ得サル所ナリ。

加之蘭側提案ハ條約ニ依リテ日本ノ關與スル砂糖全般ニ亘リ、嚴格ナル規律ノ下ニ苛重ナル制限ヲ片務的ニ設定セントスルモノニシテ、如何ニ委員會ニ對スル試案ナリトハ云ヘ、通常國際觀念ニ於テ到底忍ヒ得サル一方的制限的義務ノ履行ヲ迫ルカ如キ提議ハ非禮モ甚シキモノニシテ、不幸日本政府ニ於テ未タ曾テ諸外國ヨリ受理シタルコトナキ提議ナリトノ重大ナル結論ニ到達セサルヲ得ス。

四、假リニ蘭側提案ノ動機カ東洋市場ニ於ケル爪哇砂糖ノ優越的地位ヲ確保セムカ爲關係各國間ノ制限協定ヲ目標トスルモノトシテ考慮スルモ、右ハ明ニ日蘭兩國間ノ貿易關係ノ商議ヲ目的トスル今次會商ノ討議範圍外ニ屬スルコト瞭然タリ、況ンヤ第三國市場ニ於ケル日蘭兩國品ノ勢力ヲ右第三國ノ承諾ナクシテ之ヲ專斷的ニ解決セントスルカ如キ、蘭側眞意ハ之ヲ捕捉スルコトヲ得ス、剩ヘ第三國市場ニ於テ同種ノ他ノ第三國品ノ輸入ヲ何等考慮ニ入レスシテ、單ニ蘭印砂糖ノ利益ノミヲ考慮ニ入レントスル犧牲ニ於テ、日本國、當該第三國及他ノ第三國品ノ利益ヲ度外視セントスルハ何人モ同意シ得サル處ナルヘシ。

以上ノ理由ニ依リ日本代表部ハ斷乎トシテ前記蘭側提案ヲ基礎トシテ考慮スルコトヲスラ不可能ナル旨ヲ茲ニ重ネテ宣明スルト共ニ、特ニ蘭側代表部ニ於テ誠意ヲ以テ本件愼重再考アリ度キ旨ヲ申入レント欲ス

只今予ノ爲シタル意見陳述ニ關聯シ次ノ事項ヲ言明セント欲ス、日本ニ於ケル輿論カ政府ノ政策及活動ニ大ナル勢力ヲ有スルハ他ノ諸國ニ於ケルト異ナル所ナク、一般公衆特ニ日蘭印通商ニ關心ヲ有スル實業家ハ、此「バタヴヰヤ」會商ノ進展ニ付注目憂慮シツヽアルニ鑑ミ、吾人ハ今ヤ一層正確ナル報道ヲ供給スルノ必要ニ迫マラレ居リ且ツ右ハ誤レル報道ノ流布セラルヽヲ防止スル爲ニモ又必要ナリト信ス、此理由ニ依リ吾人ハ此意見ノ綱領並ニ其他會商ノ現狀ニ關シ國民ニ知ラシムルヲ必要ト認ムル其他ノ事項ヲ公表スヘシ、之ニ加フルニ輿論ヲ啓發シ日蘭印間通商關係ノ爲滿足ナル協定ニ達スルノ望マシキコトナルコトヲ公衆ヲシテ認識セシムルコトハ目下ノ急務ニ屬ス之レ日本側ニ於ケル蘭印物産ノ增買ヲ爲スハ政府ニ非スシテ關係商人ニ外ナラス、政府ハ單ニ之ヲ勸奬スルニ過キサルモノナルコトヲ說明シタル處ニヨルモ明ナリ。

右ニ對シ「ヘルデレン」教授ハ日本側ハ蘭側提案ノ眞意ヲ曲解セル樣思ハル、蘭側提案ノ趣旨ハ一ニ日本ニ於テ爪哇砂糖購入ヲ考慮シテ貰ヒ度キニアリ、而モ砂糖購入ノ曉右ヲ自由ニ再輸出セラレテハ折角ノ對日輸出增進モ無意味ニ終ルヲ思ヒ、忌憚ナキ詳細意見ヲ參考程度ニ記載セル迄ナルニ不拘、之ヲ捕ヘ日本政府ハ未タ嘗テ斯カル無禮ナル提案ヲ受理セルコトナシト云フカ如キ、將又日本及第三國ノ利益ヲ全然度外視スト

云フカ如キ、激越ナル字句ヲ記載セラレテハ蘭代表部トシテ強ク之ニ反對セサルヲ得ス、砂糖ニ關スル日本ノ現狀モサルコトナカラ、蘭印最重要產業ナルト同時ニ最モ困難ナル狀態ニ置カレ居ル爪哇糖業ノ現狀ニ鑑ミレハ、砂糖ノミカ日蘭印間貿易調整上對日輸出增進ヲ計リ得ル物資ナリ、若シ日本ニ於テ砂糖買付不可能ナリトセハ右カ本會商ノ運命ヲ支配スヘキ樣思ハル、仍テ蘭側提案ヲ基礎トシテ考慮スルコト不可能ナリトノ日本案ニ對シテハ飽迄反對スルト共ニ、蘭提案ヲ討議ノ基礎トシテ私的會談ニ入リ度シト强硬ニ主張セルヲ以テ、越田代表ハ假令委員會案ナリトハ云ヘ如斯キ身勝手ナル條件ヲ附シ一國ノ內政ニ迄容喙シ之ヲ「デイクテート」スルノ形式ヲ採レルカ如キ案ヲ突付ケラレ何ソ默視シ得ラルヘキヤ、何故ニ何等ノ條件ヲモ附セスシテ單ニ日本側ノ買付考慮ヲ求ムルカ如キ單純ナル品目表ヲ提示セラレサリシヤ、而モ蘭印物產トシテハ砂糖ノ外石油、「メーズ」、鑛物、其他重要產物モアルニ非スヤト種々辯駁シ論爭ヲ重ネタガ、「ヘ」ハ依然前說ヲ繰返スノミニテ一向埒明カサルニ付、越田代表ハ孰レニスルモ我方ノ態度ハ提案ニ詳載セル通リナリト突ハネ、篤ト我案研究ノ上書面ニ依ル何分ノ回答ヲ得度シト結ヒ、「ヘ」之ヲ諾シタトノコトダ。

尙ホ公表問題ニ對シ「ヘ」ハ曩ニ兩首席代表間ノ談合ニ依リ會商關係事項ノ發表ハ其都度事前ニ双方ノ同意ヲ要スヘキコトヽナリ居ル以上、右約束ニ反スル新規ノ提言ニハ自分トシテ同意スル權限モナキ次第ニ付、本件ハ兩首席代表ノ談合ニテ解決シ度シト繰返スノミニテ埒明カサリシニ付、越田代表ハ右我方ノ意嚮ヲ「ハルト」臨時首席ニ傳達方要求スルト共ニ長岡代表ニモ傳フヘキ旨ヲ述ヘ委員會ヲ終ツタガ、右委員會終了後越田「ヘ」別室ニ於テ兩人限リニテ懇談ノ際、越田代表ハ蘭側ノ砂糖提案ヲ基礎トシ討議スルコトニハ

日本代表部トシテハ絕體不可能ナルニ付、先刻述ヘシ通リ何等ノ條件ヲ附セサル砂糖ヲ含ム各種重要物產ニ關スル「リーゾナブル」ノ具體案ヲ作製シ、之ヲ以テ蘭提案ニ代フルコトヽスルノ外途ナキ所以ヲ縷說セルニ「ヘ」ハ幾分了解セル模樣ナリシト云フ。

日本總括提案迄ノ經緯

然シ一向ニ埒アカサルニ付左記木村顧問發來栖局長宛電報ノ通リ行動スルニ決シタ。

貴電ニ關シ蘭側カ最近二ケ月間不誠意極マル派生的小問題ヲ續ケ樣ニ提起シ、會商ノ停頓ヲ來シ居ルハ御承知ノ通リニテ、一度ハ强硬ナル決意ヲ示シ其反省ヲ促ス爲痛擊ヲ加フルノ要アルヲ感シ居リタリ、場合ニ依リテハ決裂ヲモ覺悟シテ此種ノ强硬手段ヲ執ルニハ時機ト問題ヲ選フノ要アリ、少クトモ我方ヨリ見テ大切ナル會商ノ目的即チ輸入制限問題ニ付具體的提案ヲ完了シタル上、何人モ首肯シ得ヘキ重大ナル問題ヲ捉ヘテ斷行スルノ外ナク、今日迄小問題ニ付テ陰忍自重シ來リシカ、幸ニシテ砂糖問題ニ付斯カル非禮千萬ナル提案ヲナシ來リ、且ツ實ハ長岡代表モ「ハルト」ト會見シ本案ノ非禮不當ナル事ヲ詰責シ、該案ノ撤回又ハ代案引換ヲ勸告シタルガ、「ハ」ハ同僚ト相談スヘシト答ヘタルノミニテ、終ニ既電ノ通リ蘭側ハ果シテ愚ニモ付カヌ辯解ヲ繰返スニ止リ反省ノ風モ見エス、一方本問題ハ既ニ貴地ニ於テ內容漏洩シ早目ニ當方新聞ニ傳ヘラレ邦人間ニ「センセーション」ヲ起シ、我糖業者モ亦兼テ砂糖買付絕對反對ノミニテハ天下ノ同情ナク生產制限迄來テ初メテ輿論ノ同情ヲ得反對運動ヲ起ス作戰計畫ト思ハレタリ、彼是

本件ニ對スル我政府及代表部ノ態度ハ速ニ公表スルノ要アリト信シ、越田カ極力折衝セシモ要領ヲ得ス、仍テ兩代表ニ累ヲ及ホササル限度ニ於テ小生ノ責任ニ於テ新聞ニ暴露シ置キタリ、但シ此挑戰ニヨリ蘭側カ反省セサル以上會商ハ危機ニ陷ルモノト覺悟スルヲ要シ、又御訓電ノ强硬ナル方針モ以上ノ情勢御考慮ノ結果ト拜察ス。

不取敢愚見申進ス。

此暴露工作ハ大ニ新聞界ヲ賑ハシ非常ニ効果的デアツタガ、夫レ丈ケ蘭側ニハ苦痛デアツタニ相違ナイ、「ハルト」臨時首席ハ即日（十月二十日）筆者ニ書翰ヲ送リ、十九日ノ委員會ニ於テ日本首席委員ハ日本側ニ於テハ會商進行ニ關シ公表スルノ意向アル旨ヲ提言セルニ對シ、蘭首席委員ハ右ハ双方ノ合意ニ關スル豫テノ約束ニ反シ、且ツ本問題ハ一般委員會又ハ兩首席代表ノ權限ニ屬スルヲ以テ日本側ノ提言ニ贊スル能ハスト主張セル結果、越田首席委員ハ本件ニ關シテハ日本首席代表ヨリ重テ書面ヲ以テ蘭首席代表ニ相談スヘシト約セルニ不拘、今朝日本新聞紙ハ日本代表部カ前記ノ約束ニ反シテ其欲スル所ヲ實行セルコトヲ立證スルカ如キ廣汎ナル報導ヲ掲載シ居レリ、蘭代表部ハ日本代表部カ事前ノ相談ナク且ツ明確ナル約束ヲ無視シテ斯クノ如キ行爲ニ出テタルコトニ對シ抗議ヲ提出スルノ餘儀ナキニ至レリ、蘭代表部ハ會商ノ機密維持カ完全ニ恢復セラレサル限リ具體的討議ヲ爲シ得サルコトヲ通告スト云フテ來タ。

右ニ對スル我方ノ返翰ハ左ノ通リデアル。

予ハ砂糖問題ニ關スル日本代表部ノ抗議ノ内容ニ付本月二十日日本新聞ニ表ハレタル報道ニ對スル貴見ヲ

開陳セラレタル本日附書翰ヲ受領セリ。

本來此會商ノ議題ハ當業者ニトリテハ直接且ツ重大ナル利害關係アルモノナルヲ以テ、問題ノ性質上事前又ハ事後彼等ノ意見ヲ徵シ又彼等ト協議ヲ遂クルノ要アルハ勿論、會商ノ經過ニ就テモ必要ナル範圍ニ於テ情報ヲ與フル事ハ已ムヲ得サル當然ノ事ニ屬シ、日本代表部ハ之ヲ實行シ來レリ、然ルニ砂糖問題ニ關シテハ當業者頗ル激昂シ、終ニ一般ノ輿論ニ愬フルノ擧ニ出テム事ヲ企圖セリ、仍テ寧ロ事ノ眞相ヲ公表スルニ非サレハ却テ輿論ヲ誤導スル虞アル事ヲ痛感シ、十六日貴下ト會談ノ際予ハ若シ我方ノ提言ニシテ容ラレサル時ハ、我方ハ强硬ナル抗議ヲ提起スルト同時ニ之ヲ公表スルノ己ムヲ得サルヘキ事ヲ言明シ、且ツ十九日ノ委員會ニ於テ越田代表カ双方ノ提案及對案ヲ公衆ニ示サンコトヲ提議セルハ皆同樣ノ趣旨ニ外ナラス、不幸蘭代表部ハ之ニ同意セラレサリシヲ以テ、我代表部ハ蘭側提案ハ素ヨリ我方抗議書ノ公表ヲモ差控ヘタリ。

然ルニ終ニ本月二十日ノ日本新聞ハ日本ノ抗議書ノ内容ニ亙リテ之ヲ報道スルニ至リシハ本使ノ深ク遺憾トスル所ナリ、察スルニ前掲抗議書ノ内容ヲ承知セル當業者カ、自己ノ聞知セル範圍内ニ於テ之ヲ新聞ニ語リ日本ノ輿論ニ訴ヘントセシ結果ナルヘシト推測ス。

而シテ斯カル出來事ノ發生ヲ阻止セムカ爲ニコソ、本使並ニ越田代表カ公表方言明又ハ提議セル次第ナルハ貴下ニ於テモ諒察セラルヘシト信ス。

此機ニ於テ予ハ各代表部ノ意見及自己ノ文書ノ公表ニ關シ一言セムト欲ス、惟フニ一方カ交換文書ノ公表

ヲ欲スル場合、他方ノ文書ニ付テ公表ノ同意ヲ要スルハ勿論ニシテ、會商ノ議事ノ内容公表即チ「コムミユニケ」ニ關シ双方協議決定スヘキ事ハ議事規則ニ明白ナルカ、一方ノ代表部カ自已ノ所見又ハ自已ノ作成セル文書ニ就テノ公表ノ問題ハ全然前掲交換公文及「コムミユニケ」ニ關スル問題トハ別箇ノ問題ニシテ禮讓ノ爲ニ事前ニ豫告スル事ハアルモ本來各部ノ自由ナルヘキモノナリトノ見解ヲ日本代表部ハ抱懷スルモノナル事ヲ茲ニ表明スル事ハ無要ノ事ニ非サルヘシト信ス。

此返事ハ十月二十日附デアルガ、發送シタノハ二十三日デ、之ニ對シ「ハルト」臨時首席ハ二十六日相當長文ノ手紙ヲ寄セ、其結論トシテ一方代表部ガ其所見又ハ作成セル文書ヲ公表スルノ自由ヲ有ストノ見解ニ對シテハ同意シ難ク、此點ニ付テハ成ルヘク速カニ兩首席代表ノ會見ニテ解決シタシ。仍テ右會見ニ依リ何等滿足ナル了解ニ到達スル迄貴方ニ於テ是レ以上ノ公表ヲ差控ヘラレ、從ツテ討議内容ノ機密ハ當分ノ間保持セラルヘシトノ假定ノ下ニ、具體的討議再開ノ用意アリト云フテ來タカラ、茲ニ委員會ハ再開サレルコトヽナツタ。仍テ筆者ハ當方ノ意見具申旁日本ノ考ヲ聞合セタ。

「ラ」モ首席代表ニ復歸スヘク先日ノ病氣見舞ノ返禮トシテ來訪スヘク思ハレ、之ヲ切ツ掛ケトシテ會商進捗ノ機運ヲ作ルニ努メ度、相當突込ミタル會談ヲ遂クルノ要アル處、本使トシテ此ノ際政府ノ御方針ニ付豫メ承知シ置キ度キ諸點愚見申進旁請訓ス。

一、會商五ケ月ニシテ何等纏リタル事項モナク、又委員會ノ進展モ先方ノ不誠意ナル態度ニ鑑ミ何等纏ル見込ナク遺憾ニ堪ヘサルカ、豫テ具報セル通リ最後ノ折衝ハ双方首席代表ノ私的會談ニヨリ骨子ヲ妥協

決定シ、形式的ニ一般委員會又ハ細目ニ付分科會ニ移スノ外ナシト信ス、而シテ其骨子ハ結局砂糖問題ニ付我方ノ讓歩ヲ示シ、輸入問題ニ付先方ノ讓歩ヲ求ムル事ニ歸着スヘクト信ス。然ルニ今日我國ノ情勢ハ會商前トハ相當ノ變化ナキヤ、殊ニ今回ノ蘭側提案ニヨリテ國論ノ同情ヲ得タリト信スル糖業者ニ對シテ果シテ二十五萬噸ノ買付ヲ强要シ得ルヤ、代表部トシテモ之ヲ保證スル事ヲ許スヤ否ヤ本使ノ私カニ憂慮スル所ナリ、此點ニ關シ至急御考慮ノ上何分ノ御指圖ヲ乞フ。

二、蘭印市場ノ不況、土民ノ生活不安ハ益々深刻ナラントシ、市場及蘭商ノ地位保護救濟ニ焦慮セル蘭印側モ砂糖問題ニ對シ多クヲ望ミ得スト自覺スルニ於テハ、會商ニ對スル失望ト變シ、輸入問題ノ如キモ日本ノ廉價品ナクシテハ土民モ蘭商モ立行カサル事ハ承知シナカラ、我方ノ要求ヲ容ルルノ雅量ヲ示ササルハ推測ニ難カラス、我國ノ生産業者殊ニ大工業者モ此情勢ヲ承知シ、會商ノ結果ニ對シ從前ノ如ク多大ノ希望ヲ懸ケ居ラサルヘシトモ思考セラル、從テ多クノ犧牲ヲ忍ヒテ迄モ輸入問題ヲ片付クヘシトノ强キ信念ヲ有スルヤ否ヤ、一九三三年基礎ノ數量及品種別ニ對スル更ニ一段ノ讓歩ヲ蹉テスル事ヲ肯スルヤ否ヤヲ御考慮ノ上、豫メ既電上申ノ件御攻究ヲ乞フ。

三、前記ヲ考慮スルニ於テハ當地邦商ハ會商ノ成否何レニシテモ困難ナル立場ニ置カルヘシ、大資本ノ商社ハ別トシテ中小輸入業者及小賣商ハ今既ニ難局ニ立チツツアリ、比率問題既得權擁護等ニヨリ之カ保護ニ努力シツツアリト雖、會商ノ中止又ハ決裂ニ最モ不安ヲ抱クモノハ彼等ナリ、會商打切ノ如キ場合ニハ之カ對策ヲ豫メ攻究シ置クノ要アルヘシ。

前記十月二十六日先方ノ手紙ヲ受取リシ翌日、蘭代表部カラ電話デ「ヘルデレン」教授カ越田代表ニ面會シタイト申込ンテ來タ故、越田代表ハ二十九日同教授ト會見シタ、其會談要領左ノ通リ。

一、「ヘ」ハ新聞ヘ會議ノ模樣カ漏洩スルトキハ兩國新聞紙間ノ論爭トナリ輿論ヲ刺戟昂奮セシメ會商ノ進捗ヲ害スルノ惧アルニ付、今後ハ出來ル限リ秘密トシタキ旨ヲ述ヘタルニ付、越田ハ日本側ニ於テハ關係當業者ト協議スルノ必要モアリ、又外務省情報部ニ於テハ輿論指導ノ爲其部ノ裁量ニ依リ情報ヲ洩スコトモアルニ付、絶對的ニ漏洩ヲ阻止スル事ハ困難ナル旨ヲ述フ。

二、「ヘ」ハ本會商モ既ニ大分永引キタルニ付、此邊ニテ膝ヲ交ヘテ懇談シ、相方ヨリ幾許歩ミ寄リ得ヘキヤ又双方ノ意見對立ハ那邊ニアルヤヲ突止メタル上、兩首席代表ノ懇談ニ移シ度、反之具體的基礎ナクシテ兩首席カ懇談スルモ獲ル所少ナカルヘシト云ヘルニ付、越田ハ同感ノ意ヲ表シ、明日ヨリ此私的懇談ヲ續行スルコトトセリ。

仍テ十月三十日越田「ヘルデレン」私的會談ス、右會合ニ於テ「ヘ」ハ十月九日我方提起ノ輸入問題全般ニ關スル提案ニ對シ、蘭側對案（第二「エード・メモアール」ト稱ス）ヲ手交說明シタガ、右對案ノ要點ハ左ノ通リデアル。

一、貴方提案記載ノ品種ハ狹ク且ツ獨斷的ニシテ蘭側ハ之ヲ基礎トシテ意見ヲ開陳スル事能ハス、和蘭政府ハ割當制度ノ範圍ニ關シ前以テ確定的拘束ヲ受クル事能ハサル方針ナルヲ以テ、蘭委員ハ此點ニ關シ如何ナル討議ヲモ繼續スル事能ハス、故ニ日本側提案ヲ引込メラレ度ク、又日本比率案ハ蘭側ノ到底受

諾シ得サル處ナリ、之レ蘭印統計ニ依レハ該比率案中ノAヨリH中二、三品種ヲ除ク外ハ一九三三年ノ日本商ノ輸入實績ヲ超過スルヲ以テナリ、蘭側ハ制限令中日本商ノ取扱高カ總輸入量ノ一割五分以下ナリシモノニ對シテハ一九三三年ノ實績ヲ與ヘ、又近年格別增加セル商品ニ對シテハ最大限トシテ總輸入量ノ二割ヲ日本商ニ與ヘントス、日本側ハ現行制限令ニ於ケル輸入商ノ比率不變更ニ付不服ナルモ、現行制限令中ノ不利ハ目下計畫中ノ「サロン」ニ關スル日本商ヘノ割當ノ適用ニ依リ大ニ改善セラルヘシ然シ其他ノ現行制限令下ノ商品ニ對スル割當ハ變更セラレサルヘシ、（結局取扱比率ニ付テハ既電蘭側提案ヲ其儘固執シ居ルモノナリ）。

二、數量ニ關シ和蘭政府ハ絶對數量ノ決定ニハ反對ナリ、之レ不合理ニシテ市況不振ノ場合ニ於テモ日本ヘノ割當ハ其儘維持セラルル事トナリ關係的ニ日本ノ輸入增加トナルヲ以テナリ。

三、孰レニシテモ數量ニ關スル日本案ヲ差措キ、之ニ對シ蘭委員ハ多數ノ商品ヲ列記セル別表對案ヲ提出シ、右案中ノ數量ノ決定ハ蘭印政府ノ自由裁量ニ留保セラルヘク、其內別表比率丈ケ（比率ハ蘭側ノ必要ニヨリ定メタルモノナリ）ハ何等原產國ヲ指定セス自由ニ一切ノ國ヨリ輸入スル事ヲ得ルモノニシテ日本側希望ノ通リ自由競爭ニ委セラルヘキモノナルヲ以テ、對蘭印日本輸出ニ價値アル保證トナルヘシ換言スレハ本會商妥結ノ結果成立スル條約期間中、日本ノ輸出ハ此方法ニ依リ確保セラレ、蘭印政府カ第三國ニ割當ヲ與フル場合ニモ右數量比率ニハ手ヲ付ケ得サル事トナルヘシ。

四、蘭印ニ於テハ貿易均衡ノ爲且ツ第三國ニ對スル割當ヲ留保スル爲、日本ヨリノ輸入ヲ一九三三年以下

ニ減少スル事ハ避クヘカラサルコトナリ。

五、蘭側對案ハ對日蘭印輸出ヲ大ニ增加シ、以テ貿易均衡ヲ圖ル爲日本側ノ協力ヲ期待シ作成シタルモノナリ。

右說明ヲ受ケタル後越田代表ハ率直ニ聞キ度キガト前置キシテ、貴下ハ比率、品種及數量ニ關シ日本代表部提案ヲ基礎トシテ商議スル事ヲ拒否セラルルモノナリヤト問ヒタルニ、「ヘ」ハ對案記載ノ理由ニ因リ然リト答ヘ、次テ越田代表ハ附屬表ニハ果シテ日本重要輸入品ヲ包含スルヤト問ヘルニ、「ヘ」ハ日本重要品ノ多クヲ含ムモノナルト同時ニ日本側ノ希望アラハ品目追加方協議ニ應スヘシト答ヘタ、仍テ越田代表ハ右案ハ日本案トハ全然反對ノ建前ニアルヲ以テ、專門委員ノ研究ヲ俟チタル後ニ非レハ意見ヲ述フル事ヲ得スト答ヘタルトコロ、「ヘ」ハ輸入業者ノ資格標準問題ニ付歐洲人商業組合員タルト否トニヨル區別ノ已ムヲ得サル事ヲ申出タルヲ以テ、輸入業者ノ取扱比率ヲ人爲的方法ヲ以テ制限セントスルハ條約ノ精神ニ反シ既得權ヲ侵害スルモノニシテ、特ニ今回ノ蘭對案ノ如キ少ナキ比率ニテハ邦商ノ經營困難トナルヘキ事及輸入數量ニ關スル蘭案中ノ比率ハ餘リニ僅少ナル點ヲ指摘シタトノコトダ。

別表。

統計番號	品名	比率
三九九	「其他」他ニ掲記セラレサル調製若クハ液狀ノ塗染料	九・六〇
四四八	衛生用陶器、移動可能ノモノ	三・九〇
四四九	〃　、固定セラルルモノ（一四四九號ニ該當スル部分品ヲ含ム）	八・八六
六三九	紙製品ハ他ニ掲記セラレサル印刷物	三四・四五
二七	ビスケット	〇・七四
四九	他ニ掲記セラレサル漬物若クハ其他ノ方法ニ依リ耐久性ヲ與ヘラレタル野菜	一・〇八
二一八	綿、治療用及衛生用ノモノ、小賣用ニ包裝セラレタルモノ	四・二七
三三九	「其他」他ニ掲記セラレザル調合藥ニシテ小賣用ニ包裝セラレタルモノ	六・七一
三四一	「其他」他ニ掲記セラレサル調合藥ニシテ小賣用ニ包裝セラレサルモノ	四・二二
三五七	肥料、過燐鹽酸及重過燐酸鹽	二三・九七
四一八	各種ノ石鹼類、香入若クハ香ナキ化粧石鹼	一〇・六六
四一九	各種ノ石鹼類、洗濯石鹼、固形ノモノ	一・二六

五五二	糸、縫糸、綿製ノモノ	六・七〇	
五七一	人絹織物、他ニ掲記セラレサルモノ	五四・九七	
五七六	織物、浴用手拭	七三・七三	
五七七	綿毛布類	二五・五四	
五八四	索繩ケーブル（索）、繩（包裝用ニ非サルモノ、紐及其他ノ索繩（他ニ掲記セラレタルモノヲ除ク）	〇・五九	
五八九	被服類、胸衣及網地「シャツ」以外ノ他ニ特記セラレサル編モノ及莫大小製品	四三・八六	
六一五	紙、新聞料紙着色セサルモノ	四・六三	
六二〇	紙、包裝用紙、他ニ掲記セラレサルモノ	五・一四	
六二二	紙、他ニ特記セラレサル書箋（無地ノモノヲ含ム）	六・六七	
六四〇	紙製品他ニ掲記セラレサル包裝用袋及函	四・七九	
七四二	鐵及鐵合金類琺瑯鐵器鍋	一〇・四二	
七四六	鐵及鐵合金類琺瑯鐵器皿指洗碗等	五八・三二	
七六四	銅及銅合金類電線（編ミタルモノ及綯タルモノヲ含ム）絶縁サレタルト否トヲ問ハズ	九・六八	

八九〇	電纜	四・三〇	
一二二	果實、水、肉汁若ハ酒ニ漬ケタルモノ	〇・二一	
四〇三	化學製品「カルシウムカーバイト」	一三・二〇	
四六六	窓硝子普通着色セサルモノ	一〇・三五	
五四三	靴類　靴、長靴「スリッパ」等	四・三一	
二五五〇	糸　人絹織糸	一三・六二	
五六七	毛織物	四・五五	
五六八	半毛交織物	二・六二	
五八八	被服類他ニ掲記セラレサル編物及莫大小製品、綿製胸衣及網地「シャツ」	七九・一五	
七三八	鐵及鐵合金類其ノ他ノ錠前類（「ラック」塗ノ如何ヲ問ハズ）	一・七三	
八九六	蓄電池（定置式ニアラサルモノ）	一〇・二〇	
九一三	刃物類「ペンナイフ」	一八・九八	
九一五	家庭用「ナイフ」	一・五一	
九一四	家庭用、葡萄用、化粧用及花切リ用鋏及「バリカン」	一九・五二	
九一六	剃刃	一一・六三	

五六三	他ニ掲記セラレサル綿織物、無地染モノ	四九・八〇
五六四	他ニ掲記セラレサル綿織物、捺染モノ（地染有無ニ拘ラス）	四四・八〇
五六五	他ニ掲記セラレサル綿織物、糸染モノ	八二・二〇

越田代表ハ十月三十一日「ヘルデレン」教授ト會見、砂糖其他ノ問題ニ付懇談シタガ、同日「ランネフト」代表ハ先日筆者ガ其病氣ヲ見舞ヒシ答禮ト、再ヒ蘭代表部首席ノ事務ヲ執ルコト、ナレル挨拶ノ爲ニ來訪シ左ノ如キ會談ヲシタ。

「ラ」ヨリ自分ノ總督代理中委員會ノ仕事ハ相當進捗シ決シテ無意味ニ時日ヲ空費スルコトナカリシニ滿足スト云ヘルニ付、本使ハ如何ニモ委員會ニテ双方ノ主張ハ明カトナレルカ、貴方ハ最初ノ提案ヲ一歩モ讓ラヌ立前ニテ議論セラレ居ルニ付、斯クノ如クナルニ於テハ到底妥協ノ途ナキヲ遺憾トス、例ヘハ日本商ノ取扱比率ニ付テモ最大限二〇％ヲ執拗ニ固執シ、又船舶ニ付貴下カ神戸會商其モノニテ異存ナシト云ハレシ故此談話ヲ援用シテ妥協ノ光明ヲ認ムル爲日本政府ニ進言セル次第ナルニト述ヘシ處、「ラ」ハ口ヲ挿ミ右ハ多分四〇％提議ノコトヲ指サヽルヽモノト思フカ、自分ハ右會談ノ際三一％ヲ自分トシテハ異存ナシト云ヘル迄ニテ右ハ何等政府ヲ拘束スル次第ニハ非スト云ヘル故、本使ハ然シ代表トシテ確言セラレサル以上其意見ヲ通スコトハ貴下ノ義務ナルト同時ニ、若シ政府ニシテ三一％ヲ四〇％ニ變更セサルヲ得タル理由アルニ於テハ、貴下ヨリ本使ニ對シ其理由ヲ詳細説明セラルヘキモノナルニ、一言モ斯クノ如キコトナク委員會ニ於テ突然四〇％ノ提議ヲナスカ如キハ國際信義上極メテ不當ナリト云ヘルニ、「ラ」ハ委

員會ノ仕事モ多分今明日ニテ一段落スヘシト思フニ就テハ、双方意見ノ合致セルモノ及相違アルモノヲ書キ並ヘタル報告書ヲ作成セシメ、之ヲ來ル火曜日（十一月六日）更ニ會合ノ上檢討シ度シト述ヘタルニ付本使ハ右ニ異存ナシ、然シ檢討ノ結果モ大凡ソ明カナリト思ハルヽカ貴見如何ト問ヘルニ、「ラ」ハ最初ヨリ屢々述ヘシ通リ自分ハ本會商ニ付極メテ悲觀的考ヘヲ持チ居リシモノニテ、結局其檢討ノ結果ヲ政府ニ具申シ會商ヲ終了スルヤ否ヤノ決ヲ政府ニ求ムルコトヽナルヘシト答ヘタルニ付、本使ハ終了ナル語ヲ使用スルハ甚タ面白カラス、中止ノ語ヲ用ヒタシト云ヘルニ、「ラ」ハ之ニ異存ナキモ次期ノ會商ニハ自分ハ參加セサルヘシト云ヘルニ付、本使ハ本使トシテモ無論ナリ、然シ人ガ代リタリトテ兩代表部ハ成立スルモノナレハ中止ノ形式トスルコト穩當ナルヘシトテ、對土講和「ローザンヌ」會議、最近ノ英蘭會商ノ事ナドヲ引用シ、要ハ一時會商ヲ中止スル場合之カ爲双方ノ空氣ヲ惡化セヌ樣充分ノ考慮ヲ加フルコト必要ナリト云ヘルニ、「ラ」ハ至極同感ナリ之ニ付更ニ水曜日（七日）「デ・ロース」參加ノ上本使ト會見シ度ク之ハ日本新聞ニ關スル記事ノ事ニテ種々申入レ度キコトアリ、自分ノ佛語ニテハ意思ヲ徹底セシメ得スト考フル故「デ・ロース」ヲ同伴シ彼ニ説明セシメ又自分モ必要ナル場合和蘭語ニテ申述ベ「デ・ロース」ニ通譯セシメ度キ所存ナリト云ヘル故、本使ハ毛頭異存ナシト答ヘタル後、右ノ記事ハ竹井ノモノヲ指サルヽニヤト云ヘルニ、決シテ然ニ非スト答ヘタルニ付、本使ハ竹井ノ件ハ甚タ殘念ナリト思フ今一週間其儘ニサシ置カレシナラハ自發的ニ歸國スル筈ナリシト指摘セルニ、「ラ」ハ實ハ自發的ニ歸國サレテハケシメ附カズ、アノ樣ナ記事ヲ勝手ニ書クコトヲ蘭印政權カ認容ストノ空氣ヲ醸造スルニ於テハ、今後土人又

ハ支那人ノ諸新聞ニ如何ナルコトヲ書カルヽヤモ知レスト云ヘルニ付、本使ハ竹井ノ記事ハ主トシテ蘭印到着以前ノコトナレハ寧ロ彼ノ上陸ヲ拒絶サレシ方簡單ナリシナルヘク、夫ハ兎モ角トシテ蘭印ノ青年數名ハ日本ニ留學ノ目的ヲ以テ竹井ト同行スル筈ナリシニ頗ル殘念ナリト云ヘルニ、「ラ」ハ竹井ノ如キ人物ニ養成サレテハ夫レコソ大變ナリト云ヘルニ付、本使ハ實ハ竹井歸國ノ爲「バタヴキヤ」ヲ去ルニ臨ミ其考案ヲ本使ニ述ヘシ故、本使ヨリ同人ニ留學生ハ專ラ技術方面ノ研究ニ限リ、政治法律方面ニハ興味ヲ持タサザルヲ要スト指摘セル處、同人モ其積リニテ皆技術專門學校ニ入學セシムル豫定ナリト云ヒ居タリト話セルニ、「ラ」ハ苦笑シ居タリ。

次ニ「ラ」ヨリ火曜日ノ會談ニ立戻リ其席ニ「ヘルデレン」モ參加セシメ度シト云ヘルニ付、本使ハ當日ノ會談ハ會商ノ運命ヲ決スヘキ重要ナル會談ト思考スル處、會商ノ成果ニ付「バラフエー」スル權限ナキモノノ立會ハ全然無用ナリ、彼等ハ委員會ニテ無責任ナルコトヲ云ヒ得ルトシテモ此會談ハ然ラスト拒ネツケタルニ、「ラ」ハ多分右ハ砂糖ノコトヲ云ハルヽナランモ決シテ無謀ナル提案ヲナセル積リニ非ストテ種々辯解セルニ付、本使之ニ應酬セルガ、要ハ折角爪哇糖ノ買付ヲ受クルモ之ヲ支那ニ再輸出サレテハ何モナラスト云フニ歸着ス、本使ハ右ニ對シ支那ハ廣大ナリ貴方ノ賣込ミ得ル地方ハ恐ソラク南支那ニテ上海位迄ト思考スル處、例ヘハ北支那ニ日本カ再輸出スルトシテ之ハ競爭ニハナラスト思考スルモ、日本人ノ支那市場ニ於ケル活動ハ蘭印ノ夫レト全然比較ニナラヌモノナレハ、例ヘハ日本人ヲ代理人トシテ支那ニ爪哇糖ヲ賣捌クニ於テハ大ナル收穫アルヘシト云ヘル後、統計ニヨルニ日本ガ買付クル外國糖ノ中九十

九「パーセント」迄ハ爪哇糖ナルニ、蘭本國ノ買付糖ノ中爪哇糖ハ一「パーセント」ニ充タサルニ非スヤ又日本ニ對シテ要求セラレシ如キ條件ヲ蘭本國ニ蘭印ヨリ爲シタリトセハ蘭本國輿論ニ如何ナル印象ヲ與ヘタリヤヲ篤ト考ヘラレ度シト云ヘルニ、「ラ」ハ和蘭ト蘭印トハ一體ヲナシ居ルモノナレハ之ハ全ク別問題ナリト云ヘルニ付、本使ハ元來砂糖ニ對スル蘭側提案ハ日本ノ糖業政策ニ干與スルモノナル處、過日モ話セル如ク日本ハ世界戰爭中實驗セル所ニヨリ砂糖ノ自給自足政策ヲ樹テ漸ク之カ實現ヲナセルモノナルニ付、蘭印ニテ之ヲ止メヨト云ハルヽ場合、蘭印ハ其不足スル砂糖ヲ如何ナル場合ニテモ日本ニ運搬スルヲ要シ、不幸ニシテ戰時日本カ交戰國ノ一トナルカ如キコトアル場合、蘭印ニ果シテ之カ義務ヲ負ヒ得ルヤ否ヤ、本使ハ蘭印海軍力ヲ以テシテハ此ノ如キ約束ハ出來マジト云ヘルニ、「ラ」ハ夫レ程立派ナ海軍アラハ蘭印モ斯ク苦勞セスト答ヘタル後、日本ノ砂糖稅ハ頗ル高率ナル故之ヲ引下ゲテ貰ヒ得ハ消費量モ自然增加スルコト、ナルヘシト附言セル故、本使ハ最初ヨリ斯クノ如キ「フオーミユラー」ニテ話アラハ問題ハ全ク異リ居リシナルヘシト答ヘ、最後ニ本使ヨリ假リニ會商中止ノ場合何トカ「モーヅス・ヴキヴエンデイ」ニ付「フオーミユラー」ノ考ヘ樣ナカルヘキヤト云ヘルニ、「ラ」ハ「モーヅス・ヴキヴエンデイ」カ出來ル位ナラバ會商中止ノ要モナカルヘク、會商ノ解決困難ナルヨリモ更ニ困難ナルヘシト云ヘリ。

「ランネフト」代表ノ鼻息ハ頗ル荒イ、其眞意ハ知ラネド先方ガ虛勢ヲ示ス氣ナラバ、我ハ其裏ヲカクニ若カスト考ヘタ筆者等ハ此方策ニ出デ、前記双方意見ノ相違ヲ記述スル委員會報告書作成ノ爲會談中、越田代表ヨリ斯クノ如キ簡單ナル報告書以外ニ委員會ニ於ケル討議ノ顚末ヲ網羅セル調書ヲモ作リタシト云ヘルニ、

「ヘルデレン」教授ハ其理由ヲ尋ネタカラ、越田代表ハ若シ會商中止トモナラバ日本代表部ハ即刻引揚クベク從ツテ其後委員會ノ經過報告書ヲ作成スルコト手不足ノ爲困難故、早キニ及ンデ此等モ作成シタキ旨述ヘタ處、「ヘ」ハ頗ル驚イテ居タトノコトダ、同時ニ爪哇ノ邦字新聞ノミナラス日本ノ諸新聞モ我々ノ指導ニ從ヒ會商ノ危機ヲ傳ヘタ。我々ハ之ニ依ツテ先方ヲ覺醒サセントノ期待ハ持ツタガ、他方最惡ノ場合ニ善所スル爲十月三十一日及十一月一日左記電報ヲ廣田外相ニ發シタ。

（其　一）

會商五ケ月ニ亘リ何等ノ妥結ニ達セス終ニ中止ノ止ムナキニ到ラムトセルハ本使ノ深ク遺憾トスル處ナリ蘭側カ斯ク會商ニ見切リヲ附クルニ至リシ理由ハ左ノ通リト推斷セラル。

一、砂糖問題ニ付我方ノ强硬ナル反駁殊ニ生產制限及輸出制限ノ一蹴セラルルヤ、我國ノ砂糖政策カ蘭印ノ考フルカ如キ簡單ナルモノニ非ス、例令相當數量ノ買附ヲ得目前ノ滯貨ヲ捨賣シ一時ノ急ヲ救ハムトスルモ、海外輸出ニ向ケラルル以上之ヲ武器トシテ自己ノ市場ヲ侵サルルニ過キスト失望シ、砂糖買附ニ再輸出禁止ヲ絕對必要條件トセシハ、彼等カ終ニ明ラメヲ附ケ今回ノ會商ニ對スル蘭印側唯一ノ希望ヲ放拋シタルニアリ。

二、海運問題ニ就テモ折角私談ノ形式ニテ交涉ヲ開始シタルカ、民間會商ニテハ蘭印側カ常ニ押サレ氣味ニテ到底期待スル結果ヲ齎サス、政府間ノ交涉取極メニヨリ輸入問題ノ交換條件トシテ自己ニ有利ニ解決シ、民間ニハ形式的ニ之カ細目協議ヲ爲サシムルノ企圖ナリシカ、之モ今日迄ノ交涉ニテハ現狀維持

カ高々ナリトノ見切ヲ附ケ失望ニ終リシモノナリ。

三、既ニ今回ノ會商ニ依リテ大ニ得ル所アルヘシトノ期待ハ前記一、二、ノ如ク裏切ラレタルヲ以テ、蘭側ハ自己ノ讓步ト認メ居ル輸入問題ニ付會商當初ノ主張即チ輸入制限ハ主權ノ絕對自由ニ屬シ他國ヨリノ拘束ヲ許サス「ライセンス」制ニヨリテ自國ノ輸入商ヲ保護シ「クオータ」制ニヨリテ外國ト「バーター」ヲ行ハムトノ政策ヲ頑强ニ固執シ、蘭本國及土人工業保護ニ關スル我方ノ妥協誘導ニハ見向キモセサル狀態ニテ、終ニ我具體案ニ對シ突如トシテ我方ト主義上根本的ニ相異スル建前ノ對案ヲ出タシ一步モ退カサルノ狀態ヲ示シタルハ會商見切ノ結果ニ外ナラス、殊ニ右對案說明ハ十月十九日附ナルニ不拘、肝心ノ數量ニ關スル對案其モノハ取急キ作成セルモノナリトノ說明ノ下ニ蘭語ニテ記載セラレ居ルノミナラス、當方質疑ニ對シ會場ニテ電話ニテ取寄セ末尾三種ヲ追加スルナド、砂糖ニ關スル前記一、ノ次第ニ依リ其前作成セラレ居タル數量案ヲ急ニ變更シタル形跡アリ、主義上ハ固ヨリ實際的見地ヨリモ到底妥協折衷ナド受入ルル餘地ナキコト明ナリ。

斯クノ如キ事由ニ因リ蘭側カ打切リノ態度方針ニ出テタル以上、如何トモ手ノ盡スヘキ途ナク、將又此狀勢ニ就テハ曩ニ申進シタル通リ、畢竟蘭印當局カ世界殊ニ極東ノ大勢ニ通セス、日本及英領印度ノ自給政策ニヨリ既ニ破壞セラレタル爪哇糖ノ東洋ニ於ケル獨占優越ノ地位ヲ今尙ホ夢メミ居リ、蘭印ノ戰時及戰後ノ好況並ニ從順ナル土民搾取ノ植民政策ノ成功カ何時迄モ忘レラレス、今尙ホ自己陶醉ヨリ覺醒セサルニ基因ス、今日ノ狀勢ハ屢次報告ノ如ク相場ノ不況、土民生活ノ不安、引イテ蘭人巨商ノ苦境

歐洲諸國トノ「バーター」協定ノ思ハシカラサル事等打重ナリ、一期ニシテ經濟立直シノ妙案モナカルヘク行詰ルハ必然ナリ、併シ行詰ル處迄行カネハ覺醒セス、見透シモツカス、固執スルハ蘭印當局ノ特性ナルヲ以テ茲處暫ク靜觀シ其不自然ナル政策カ結局自己ニ不利ナル事ヲ體驗シテ彼等ノ覺醒スルヲ俟ツテ更ニ會商ヲ再開スルノ外ナカルヘシト思考ス、唯會商中止ノ跡仕末ニ付二三心附ノ點申進ス。

（イ）差當リ邦商ノ既得權擁護、輸入制限令ノ緩和ニ付「モーヅス・ヴキヴエンデイ」ニテモ協定セムト試ミタルモ既報ノ通リ「ラ」ハ問題トモセス、致シ方ナシ。

（ロ）邦商ノ地位ニ就テハ曩ニ營業特許令發布ニ先チ取換ハシタル公文ニヨリ小商人及小企業者並既存營業ニハ適用ナキ事ヲ保證セラレタルヲ以テ、之ニテ滿足スル外ナシ。

（ハ）今後輸入制限令ヲ濫發スルヤ否ヤニ就テハ豫想シ難キモ、「ウエレンスタイン」ノ時代ノ考ヘ方及空氣ハ今日大ニ變化セル事ハ推知ニ難カラス、殊ニ晒、「サロン」ノ制限令カ却テ其主働者タル「ツエンテ」及蘭商ヲ苦メ、一般消費者ハ獨リ土人ノミナラス蘭人迄モ不滿ヲ洩セル實情ニシテ、日本品無クシテハ立往カサル當地市場ナルニ付、假令今後新制限令ヲ發布スルトシテモ極端ナル行動ニハ出テサルヘク、又當地現在ノ不況ニ鑑ミ輸入量モ自然減退ノ趨勢ヲ辿ルヘキニ付、本邦製造業者ニ取リ餘リ大ナル打擊トハナラサルヘシ。

（ニ）萬一日本品ニ對シ不當ノ制限ヲ實行スル場合ニハ、之ニ對シ報復的手段ヲ以テ對抗シ其反省ヲ促スノ外ナキ處、「サロン」賣止、陶磁器積止、未晒積止ニ於テ當初ハ充分其威力ヲ發揮シタルモ、近

來「サロン」ノ投賣、陶磁器ハ制限令停止後直ニ組合ノ豫定數以上ノ賣込ヲ要求シ、未晒モ賣止實行後間モナク僅數ケ月ニ亘リ一定量ノ積出ヲ要求スル等ノ事實ニヨリ、蘭印側殊ニ商人側ハ日本ノ結束力ヲ見縊リ初メ、積止ヲモ輕視スルノ傾向見エ居ルニ付、今後此威力ヲ報復手段トシテ利用スルニハ一段ノ結束ト決心ヲ要ス。

（ホ）結局會商中止ニ依リ殊ニ「ライセンス」制ノ爲ニ打擊ヲ蒙ルハ邦人輸入商輸出商就中爪哇ニテ獨立經營セル中小資本ノ輸出入商ニシテ、引イテハ小賣商ナルヘシ、サナキダニ會商ノ前途ニ付不安ノ念ニ驅ラレ居ル彼等ハ今後不況ト壓迫トノ兩面ヨリ甚大ナル打擊ヲ蒙リ得ヘク、其際ノ對策既電申進ノ通リ事前ニ御攻究置相成度シ。

（其　二）

六日會談ノ際當方ヨリ輸入ニ關スル蘭側對案ニ對シ再考ヲ求メ必要ト認ムル提議ヲ爲ス積リナルカ、先方之ヲ一蹴シ委員會作成ノ對立意見表ヲ其儘兩國政府ニ送リ、會商續行ノ可否ニ關スル意見ヲ求メン事ヲ主張スル場合、右請訓ニ對スル蘭國政府ノ回答ハ之ヲ豫斷スルコトヲ得ヘク、此際我方ノ讓歩ハ得失償ハサルヘシト確信ス、帝國政府ニ於テモ御同見ナルヘシト存スルニ付、右樣ノ經緯トモナラハ次テ來ルヘキモノハ會商ノ中止ナリ、此場合何等ノ工作ヲモ爲サス單ニ會商ヲ中止スル旨ノ「コムミユニケ」ヲ發スルノミニテハ、本邦ニ於ケル對蘭空氣ハ惡化シ、會商開催ノ爲却テ兩國ノ親善關係ニ隙ヲ入ルル虞ナシトセス、仍テ會商中止ノ善後策トシテ毒ニモ藥ニモ成ラス、而カモ國民ノ興奮ヲ多少鎮靜スルニ役立ツヘキ別電ノ如キ宣言ヲ

「ラ」ト本使トノ間ニ爲ス事望マシト思考ス、尤モ「ラ」ニ於テ署名權ナシト云ハハ海牙ニテ之ヲ爲スモ不可ナク、斯クノ如キ宣言ハ會商中止ノ「コムミユニケ」ト同時ニ公表スルニ非サレハ價値ナキ事申迄モ無之ニ付、六日會談ノ模樣ニ依リテハ當方ヨリ提案シタク存ス、右ニ關スル御意見至急御返電ヲ乞フ。

別　電

下名ハ具體的協定ニ到達シ能ハサリシコトヲ遺憾トスルト同時ニ、本會商ヲ延期スルニ當リ且ツ事態之ヲ許スヤ否ヤ速カニ再開サルヘキ商議ヲ待望シ、日蘭兩國間ニ幸ニ存在スル長年間ノ友好ハ此延期ノ爲ニ毫モ攪亂セラレザルベク、兩國ハ過去ニ於ケルカ如ク將來ニ於テモ一九一二年七月六日海牙ニ於テ締結セラレタル日蘭通商航海條約ノ正文及精神ヲ繼續尊重スヘキコトヲ、茲ニ宣言ス。

右ノ電報ニ對シ廣田外相カラ左記二電ガ來タ。

（其　一）

貴電ニ關シ會商ノ中止ハ必スシモ決裂ヲ意味スルモノニ非ストスルモ、其中外ニ及ホス影響ハ極メテ重大ナルモノアルヘク、此際ニ處スル双方ノ態度ハ極メテ愼重ヲ要スヘシ、當方トシテモ本件措置方ニ付テハ閣議ノ決定ヲモ得サルヘカラサル次第ニモ有之、目下關係各省トノ間ニ篤ト打合セヲ進メ居ル關係モアリ六日ノ「ラ」トノ會談ニ於テハ其儘中止ニ至ルカ如キコトヲ避ケラレ度、尙ホ己ムヲ得サル場合ニハ不取敢夫々本國政府ニ請訓シ其決定ヲ待ツコトニ先方ト話合ヲ遂ケラルヽ樣致度シ。從ツテ貴電宣言案ノ提出ハ追テ何分ノ儀申進スル迄見合サレタシ。

（其　二）

本會商ノ成否カ內外ニ對シ極メテ「デリケート」ナル關係ヲ有スル次第ハ今日改メテ申迄モナク、本大臣トシテハ今猶出來得ル限リ其成立ヲ祈念シ居ル次第ナリ、萬一不幸ニシテ不調ニ終ルカ如キ際ニ於テモ極メテ、愼重ニ之ヲ取扱フノ要アルハ論ヲ俟タス、目下折角關係省ニ對シ其最後的讓步ノ程度ニ關スル確答ヲ促シ居リ、更ニ當業者トモ篤ト協議セシムル等充分手ヲ盡シ、右ニテモ愈々成功ノ見込ナキ場合、己ムヲ得ス會商中止ニ運ヒ度考ヘニ有之、右ハ內外ニ對シ外務省トシテ爲スヘキ處ヲ充分爲シタルコトヲ明瞭ナラシムル爲ナルコト御察知置キアリ度ク、御如才モナキ儀乍ラ右往電補足旁御含迄ニ申進ス。

「ランネフト」代表ハ病氣テ數日來引籠ツテ居ルトノコトデ、又委員會ノ報告書モ出來上ラヌカラ、筆者ト「ラ」トノ十一月六日ノ會見ハ延期ニ決シタガ、此日朝「ラ」ハ小谷副領事ノ來訪ヲ求メ、左ノ如ク語ツタトノコトダ。

一、昨日ノ越田「ヘルデレン」會見ニ於テ越田氏ハ「會商モ之レ迄ナレハ吾々ハ立派ナ最終報告書ヲ作成セネハナラヌ」ト云フ意味ノ事ヲ話サレタル由ナルカ、何カ誤解アルニ非スヤト思考ス、自分ハ決シテ悲觀的ニハ非ス、少ク共他人ヨリ以上ニ悲觀的ト云フ事ナシ、否寧ロ他人ヨリモ悲觀ノ度少シト云ヒ得ヘシ。

會商モ今迄ハ寧ロ下リ坂（トテ手振リヲ爲セリ）ナリシカ、現在ハ上リ坂ニ在リト云ヒ得ヘク、妥結ニ到達スル可能性ハ決シテ絕無ト云フ能ハス、自分ハ一割テモ「チヤンス」カ殘ツテ居レハ最後迄之ヲ生

カスヘク努メル積リナリ。

從ツテ來ル木曜（八月）ニハ長岡大使ト面會ノ積リナルカ、之ヲ以テ最後的ノモノトハ考ヘ居ラス。

右宜敷大使及總領事ニ傳達アリ度シ。

二、新聞記事ヲ通シテ日本ノ苦シキ現狀ニハ理解ヲ持チ居ル積リナルカ、唯日本ノ一般民衆ハ會商關係ノ新聞記事ヲ見テ蘭人ヲ頗ル惡ク考ヘ居ル樣見受ケラルル處、蘭人ヨリ見ルモ日本人ノ行動ニ理解シ難キ所モアリ、此等ハ日蘭協會ノ力デ改善シ度キモノナリ、前會頭ノ「ウエルテル」ガ自分ニ賴メハ自分モ具合好ク會頭トナレタノダカ、右ノ依賴ナカリシ爲メ自分ヨリ年長ノ「ウイヘルス」ニ讓リタル次第ナリ、當分ハ「ブール」大佐ノ努力ニ俟ツ要アルヘシ。

三、日本モ非常時ナランモ和蘭本國モ仲々苦シキ狀態ニシテ舊政策ノ變更ハ必要不可缺ナリ。

上記二ノ新聞記事ヲ見テ蘭人ヲ惡ク考ル云々ニ對シ、日本語ニハ支那ヨリ來レル形容調頗ル豐富ニシテ蘭人カ驚ク樣ナ文句モ新聞ヲ讀ム日本人ハ別段夫レ程眞劍ニ取ラサル場合多キニ付、日本新聞ノ記事ヲ批判スル場合ニハ右ノ點ニ充分留意ノ要アル旨說キ置キタリ。

斯クノ如ク先方ノ態度カ變ツテ來タノヲ見テ筆者ハ滿足ニ感シタ、委員會報告書ハ十一月七日ニ出來上ツタカラ、八日筆者ハ「ランネフト」代表ト會見シ輸出入全般ニ亘ツテ左ノ如キ意見交換ヲシタ。

一、「ラ」ヨリ先ツ口ヲ切リ此報告書ニ付貴方ハ之ニテ打切ル積リナリヤ為知致シ度シト云ヘルニ付、本使ハ斯クノ如ク對立ノ儘貴方ニテ何等ノ妥協ノ精神ヲ示サレサルニ於テハ話ノ進メ樣モナカルヘシト云ヘルニ、「ラ」ハ報告書ニアル如ク「輸入制限品目及其取扱比率ハ協議ノ爲メニ開カレ」自分ノ方ニ於テハ協議ノ準備アリト匂ハセルニ付、本使ハ然ラハ當方トシテモ同樣協議ヲ進メ妥協點ヲ發見スルニ努メ度シト答ヘタル處、「ラ」ハ右ニ付此報告書ニ双方ノ首席委員カ署名セル際日本側ヨリ先般提出セル蘭側對案ニ對シテ日本側ヨリ「オブザーヴエーションス」ヲ提出セラレタルカ、其內容ニ付テハ文句ヲ云フ次第ニハ非サルモ。或ル部分ノ行文ニ付頗ル不穩當ナル文句アリ、蘭國トシテ到底之ヲ受ケ容ルヽヲ得サルニ付貴方ニテ其修正ヲ受諾セサルニ於テハ抗議書ヲ發送シ度シト思フト述タル故、本使ハ本日ノ會談ハ委員會ノ報告ニ基キ如何ニ妥協點ヲ發見スヘキヤト云フ重大問題ノ爲ニ催サレタルモノニテ、斯クノ如キ委員會ニ於テ交換セラレタル文書ヲ取扱フ爲ニハ非ス、更ニ若シ此文書ニシテ貴下ノ云ハルヽ如キ不都合カ果シテアルニ於テハ、冒頭ノ提議以前ニ提起セラルヘク、當方ニ會商繼續ノ意向アルコトヲ確カメタル上斯クノ如キ問題ヲ提起セラルヽハ我々日本人ノ思想トハ全然合致セスト云ヘルニ、「ラ」ハ「オブザーヴエーション」中ニハ幾ケ所モ不穩當ノ文字使用シアルカ殊ニ第六頁「アンフエーヤ」以下數行ハ到底其儘默視スルコト能ハスト云ヘル故、本使ハ日本代表部カ此「オブザーヴエーション」ヲ提出セサルヲ得サラシメタル原因ハ貴方ノ第二「エード・メモアール」ヲ受理セルカ爲ナリ、右第二「エード・メモアール」ニハ思フニ當方覺書以上ニ激越ナル文句アリ、（實際本使ハ兩「ドキユメント」共字句其他ニ付記憶ナシ）其ノ爲當方ヨリ「オブザーヴユーション」ヲ出スノ餘儀ナキニ至リタル次第ナレハ貴方カ第二覺書ヲ撤回セラルヽナラハ當方モ「オブザーヴエーション」ヲ撤回シ得ヘシト云ヘルニ、（本

使ノ記憶ニテハ第二「エードメモアール」ハ先方提議ノ基礎ヲナスモノナレハ多分撤回不可能カト思ハル)、「ラ」ハ右ハ「ヘ」ト相談ノ上ニ非サレハ何トモ返答シ難カルヘキモ、何レニシテモ抗議書ハ發送スヘシト云ヘルニ付、貴方カ右發送ヲ決心セラルヽ以上當方トシテ之ニ容喙スル必要ナケレド、若シ双方ノ覺書ヲ互ニ撤回スルコトニ相談纏マレハ、同時ニ貴方ノ抗議書モ其附屬文書トシテ返還スヘシト指摘セルニ、「ラ」ハ右ニテ差支ナシト答ヘタリ。

本使ハ元來第二覺書ト云ヒ「オブザーヴエーション」ト云ヒ委員會ニ關スル事項ヲ本席上云々セラルヽハ如何ナル趣旨ナリヤト云ヘルニ、「ラ」ハ貴方ハ委員會報告書ニ「ヘ」ヲシテ調印セシメ同時ニ斯クノ如キ文書ヲ突付ケラレテハ甚タ意外トスル所ナリト云ヒ、恰モ當方ニ於テ先方ヲ「ペテン」ニカケタルモノヽ如ク匂ハセルニ付、本使ハ實ハ該「オブザーヴユーション」ハ二三日前發送ノ積リナリシニ、病人出來タル爲其運ヒニ至ラサリシモノニテ、貴下カ今思ハレツヽアル如キ意思ハ毛頭存セス、何レニセヨ貴方ニテ第二覺書ヲ撤回セラレズバ當方モ「オブザーヴエーション」ハ撤回セサルノミナラス、砂糖ニ關スル貴方ノ提案ノ如キハ右ニ比シ全ク論外ナラスヤ、而モ委員會報告書ニモアル如ク貴方ハ之ヲ撤回セスト固執シツヽアリ頗ル予盾ナル如ク考フ、而シテ前ニモ述ヘシ如ク最初ニ當方ノ妥協性アルヲ見極メタル上斯クノ如キ問題ヲ提起セラルヽ貴方ノ眞意何所ニアリヤ本使トシテ全ク了解ニ苦シム所ナリト云ヘルニ、「ラ」ハ先ツ重案問題ヲ解決シテ後些細ノ問題ニ移ル積リニテ斯ク取運ヒタル次第ナルカ、如何ニモ考フレハ本日本問題ヲ提起セルハ事態ニ即セサルヤモ知レス、別ノ機會ヲ捉ヘシ方或ハ宜シカ

リシナラン、何レニセヨ本問題ハ委員會關係ノ事項ナレハ其内「ヘ」ヨリ越田總領事ニ談合ヲ申入ルヽコトアルヘシト云ヒ、右ニテ本件ヲ打切レリ。

二、「ラ」ヨリ報告書ニ關シ前記輸入制限品目云々ノ文句ヲ指摘シ、斯クノ如ク自分ノ方ニテハ談合ノ餘地ヲ殘シ居ル次第ナリト云ヘルニ付、本使ハ先ツ比率問題ニ關シ話シ度キカ、委員會ニ於テ貴方ハ日本商人ノ輸入比率ニ付最大限二割ヲ固執シ居ラルヽカ、若シ或ル商品ノ爲ニ相當重要ナル增加ヲ爲ス意向ナキニ於テハ妥協點ヲ發見スルコト困難ナルヘシト云ヘルニ、「ラ」ハ報告書ニアル如ク此問題モ協議ノ餘地アリト答ヘタル故、本使ハ日本カ此點ヲ頗ル重要視シ居リ之ニ付滿足シ得ル比率ヲ得サルニ於テハ妥協不可能ナルヲ前提トシテ貴國政府ヨリ回訓ヲ求メラレ度シト云ヘルニ、「ラ」ハ之ヲ首肯スルト同時ニ蘭印ニテ「ライセンス・システム」ヲ重要視スル所以ハ、日本商品ハ如何ニモ蘭印ニトリ缺ク可カラサル物資ナルカ、蘭印土人ノ生活必需品ノ配給カ外國人ニヨリテ專斷セラルヽカ如キコトアリテハ蘭印其ノモノヽ秩序ニ由々敷影響ヲ及ホスニ付、其ノ爲「ライセンス」制度ヲ必要トセル所以ナリト說明セルニ付、本使ハ日本側トシテモ蘭商カ蘭印ニ配給スル日本商品ニ付專權ヲ有スル樣ノコトヽナルニ於テハ此等商品ノ價格、選擇其他ニ付彼等ノ勝手我儘ニ委ネラルヘキ惧アリ、貴方カ危惧セラルヽト同時ニ日本亦斯クノ如キ建前ニハ同意スルヲ得スト述ヘタルカ、要スルニ「ラ」ハ二十「パーセント」最高案ヲ固執セス、詳細ハ更ニ委員會ニテ協議シ度シト云ヘルニ付、本使ハ之ヲ諾セリ、尙ホ取扱比率割當ト歐洲人商業組合ニ加入トノ關聯性ニ付、「ラ」ハ右ニ關シテハ日本ニ滿足セシメ得ル如キ提議ヲ其内ニ爲ス

積リナリト云ヘルニ付、本使ハ此件ニ付昨日三井ノ入電ニヨレハ三井ハ「マカツサ」商業組合ニ加入ヲ申込メル所同組合ニハ歐洲人以外ハ加入セシメスト云フ返答ヲ同組合ヨリ受取タル由ナリト云ヘルニ、「ラ」ハ苦笑シ乍ラ只今申セシ如ク本件ハ日本ノ滿足スル提議ヲ考案セル故、本問題ハ之ニテ打切ラレ度シト云ヘリ。

三、輸入制限品許可總數量中ヨリ各國ノ自由競爭ニ留保セラルヘキ比率ニ關スル蘭側提案ニ付、「ラ」ハ主權保持ノ爲如何ニシテモ之ヲ固執セザルヲ得スト云ヒ縷々說明ヲ加ヘタルニ付、本使ハ蘭側ノ主義ハ我々ノ提案ト全然正反對ナレハ、之ヲ日本側カ妥協ノ精神ニ基キ承諾スル爲ニハ蘭側ニ於テモ同一ノ精神ニ基カルヽコトヲ要ス、此見地ヨリ

(一) 既存制限令ノ目的タル商品モ、委員會ニ於ケル討議ノ際考量ニ加ヘラルヘシ。

(二) 重要ト認メラルヽ日本商品モ亦考量ニ加ヘラルヘシ。

(三) 自由競爭ニ委セラルヽ商品ニ付其輸入許可總數量ノ基礎ナキニ於テハ、此等商品ノ爲ニ留保セラレタル自由競爭量「バーセンテーヂ」ハ何等ノ保障トモナラサルニ付、委員會ハ本件ニ關シ何等カノ解決方法ヲ發見スル爲研究スヘシ。

(四) 委員會ハ制限品目表ニ掲ケラレザル商品ニ對スル保障問題ヲ考究スヘシ。

本使ヨリ以上ノ提議ヲナシ、之ヲ走リ書キノ上示セル處、「ラ」モ之ヲ筆記シ行ケリ。

四、右ニ對シ「ラ」ハ自分トシテ只今確言スルコトハ出來ザルモ、右ノ內(一)ニ付テハ自分ハ今明確ナ

ル返答ヲ爲ス能ハス、蘭側委員ノ意見ヲ徵スル必要アリ、(二)及(四)ニ付テハ自分ハ異議アリトハ思考セス、(三)ニ付テハ技術的ニ不可能ナルヘキヲ惧ルト答ヘ。實ハ和蘭本國ヨリモ割當輸入量ノ數字ヲ求メ來リ居ルカ之ニ滿足ヲ與フルコト能ハス蘭印トシテ甚タ困リ居ル樣ノ次第ナリト云ヘルニ付、本使ハ然シ例ヘハ「サロン」ニ關シ半年間ニ亘リ數量ヲ決定セルニ非スヤト云ヘルニ、「サロン」ノ問題ハ其大宗カ對日本關係ナル故之ヲ決定スルコト容易ナルモ、各方面ヨリ輸入セヲル、商品ニ付テハ斯クノ如ク簡單ナラスト述ヘタリ、仍テ本使ヨリ例ヘハ地位ヲ變ヘ貴方ニ於テモ日本カ砂糖ノ買付ヲ約束スルニ當リ日本ニ輸入スル外國糖ノ九十九「パーセント」ハ爪哇糖タルヘシトノミニテ貴方ハ之ニ滿足セラルヽヤト指摘セルニ、「ラ」ハ夫ハ問題カ異ルノミナラス自分ノ方ニ於テモ砂糖以外ノ物資ニ付テハ買付數量ノ確定ヲ要求致サスト云ヒ、成ル程日本品ノ爲ニ九十九「パーセント」ヲ約束スルトシテモ輸入數量ヲ一噸トセハ御困マリナルヘシト笑ヒツヽ、然シ大凡ソ配給量ハ貴方ニテモ見込立ツベケレハ斯クノ如キ無謀ノコトハナカルベク、之ニ反シ一定數量ノ基礎ヲ立ツルニ於テハ市場ノ變化ニヨリ非常ナル過剩ヲ生スルニ至ルコトアルヘシト云ヘルニ付。本使ハ需要供給ノ大原則ハ古今ヲ通スル眞理ナレハ、假リニ其商品ニ付蘭印ノ需要カ減退セル場合、需要以上ニ巨額ヲ輸入セント試ミルカ如キ馬鹿氣タル商人ハナカルヘシト答ヘタルカ、要スルニ「ラ」ハ基礎數量設定ニ付テハ其見込ナキモノナルカ如ク、本使ノ提案ヲ受容レツヽ、委員會ノ成果ニ付テハ期待シ居ラサルモノヽ如ク見受ケラレタリ、(本使ノ得タル印象ニヨレハ自由市場ニ對スル「パーセンテーヂ」ナルモノハ畢竟協定ノ重要性ヲナスモノニ非スシテ、

其以外ニ日本品ノ爲ニ特ニ「リザーヴ」セラルヘキ數量コソ蘭側カ重キヲ置ク次第ニシテ、此數量ハ日本側ノ砂糖買付數量如何ニヨルモノナルカ如ク思ハル）

「ラ」ハ更ニ語ヲ繼キ自分トシテハ最重要問題ハ「クオーター、システム」ヲ採用スルノ自由ヲ蘭印政府ハ放棄スルコト能ハスト云フニアリ、故ニ此建前ノ下ニ、(a)取扱比率問題（b）輸入制限品種問題ニ付討議ヲ繼續センコトヲ提議スト云ヘリ。

五、輸出問題ニ關シ「ラ」ハ日本對蘭印輸出入ノ計數ニ就テハ近ク文書ヲ以テ答フヘク、日本側ノ云フカ如キ二對一ト云フ樣ナ數字出ツレハ自分トシテモ至極滿足ナルモ、如何ニシテモ斯クノ如キ數字ノ出サルヲ遺憾トスト云ヒ、砂糖問題ニ入リ貴方ニテハ再輸出ニ關シ訓令ヲ求メラルヽコトヽナリ居ルカ右回答ハ何日頃得ラルヘキヤト言ヘルニ付、本使ハ實ハ本件ハ越田總領事ヨリ聞及ヘルカ訓令ヲ請フ必要ナシト思ヒ其儘トナシ居レリト云ヘルニ、「ラ」ハ憤然色ヲナシ斯クノ如ク立派ニ報告書ニ書カレアルモノヲ其通リニセラレサルカ如キハ如何ナル次第ナリヤト云ヘルニ付、本使ハ右報告書ハ委員會ノ報告書ナリ、其後同問題カ如何ニ取扱ハレシヤト云フコトハ本報告書ノ干與スル限リニ非ス、本使ハ斯クノ如キ事ヲ日本ニ請訓シタリトテ日本政府カ之ニ一顧ノ價値モナシトスル返電ノ來ルヘキコトヲ知リ居ル故請訓セサル迄ナルガ、何レニセヨ貴方ニテハ砂糖ノ買付ヲ要求セラルヽト同時ニ再輸出セサルヘキコトヲ必須條件トセラレ居ル處、其何レニ重キヲ置カルヽモノナリヤト質セルニ、「ラ」ハ苦笑シ乍ラ成ル程再輸出セサルヘキコトヲ固執スルニ於テハ買付數量カ減少スルトノコトナルヘシト云ヘルニ付、本使カ然

リト答ヘタルニ、「ラ」ハ然ラハ本問題ヲ如何ニ處理セラルヽ考案ナリヤト問ヘルニ付、本使ハ先日モ述ヘタル如ク支那ハ廣大ニシテ貴方ノ砂糖賣込ハ主トシテ香港ノ英國商ヲ通シ南支那ヲ市場トセラレ居ルモノト諒解スルニ就テハ、砂糖ヲ賣ル蘭商ト之ヲ買フ日本商トノ間ニ支那ニ於ケル砂糖賣込地域ニ關シ協定ヲナスコト比較的容易ナリト思フ、斯クノ如キ考案ヲ基礎トシテ考フルコト實際的ナリト思考スト云ヘルニ、「ラ」ハ右ハ一案ナリ之ヲ越田總領事ノ約束セラレシ返事トシテ送付セラルヽ樣致シ度シト云ヘルニ付、右ハ只今本使ヨリ返事セリ此以上無用ノ形式ヲトル必要ナカルヘシ其儀ハ辭退スト云ヘルニ「ラ」ハ肯キ苦笑シ居タリ。

更ニ「ラ」ハ米ノ買付問題ニ付テハ近ク回答スヘク之ハ蘭印政府ニ於テ買付クルコトヽナルモノナルモ米ヲ買付ケ之カ對價トシテ砂糖ヲ輸出スルコトハ「バランス、オブ、ツレード」ノ點ヨリ見テ効果ナシト云ヘルニ付、本使ハ自分トシテハ然カ思ハス。砂糖ノ貯藏耐久性ハ甚タ短カシト聞及ヘリ早ク處分セサレハ全ク無價値トナルト云フニ非スヤト云ヘルニ「ラ」ハ苦笑セリ。

終リニ「ラ」ヨリ關稅問題ニ付質問セル故、酒精及玉蜀黍ニ付說明ヲ加ヘタルニ、右ニ關シ文書ヲ以テ委員會ニ送付方要求セリ。

六、會談ヲ終ルニ臨ミ「ラ」ハ自分トシテハ今後モ出來得ル丈ノ努力ヲ盡スヘク、今迄ハ双方ノ主張ハ互ニ對立シ居タルカ、本日ノ會談ニテ或程度迄歩ミ寄リ光明ヲ得タリ、果シテ其一致點ニ到達スル日ノ來ルヘキヤ否ヤニ付テハ今尙ホ自分トシテ悲觀意見ヲ有シ居ルモノナルカ、若シ不幸右一致點ニ到達シ得

サル場合ニモ、其附近迄双方歩ミ寄リ得タル努力ヲ世界ニ公表シ得ル丈ノコトハ根限リ之ヲナスヲ要シコノ努力ニモ拘ハラス不幸一致點ニ到達シ得サルニ於テハ我々ハ世界ニ對シ何等後ロメタキコトナカルヘク、其積リニテ自分ハ今後モ努力スヘシト云ヘルニ付、本使モ至極同感ニテ本使五ヶ月ノ滯在モ又今後ノ努力モ一ニ只今貴下ノ云ハレシト同樣ノ考ニ出發スルモノナリト答ヘ、之ニテ會見ヲ終リ左記「コムミユニケ」ヲ纏メ散會セリ。

兩代表部ノ首席全權ハ委員會提出ノ報告書ニ付意見ノ交換ヲ行ヘリ。

双方ノ主張ニハ相當ノ懸隔アルモ、此意見交換ハ滿足ニ終ハリ、何等解決點ヲ發見スル可能性アリト信スヘキ理由アリ。

交渉ハ委員會ニテ繼續セラルヘシ。

仍テ筆者ハ十一月九日左記電報ヲ廣田外相ニ送ツタ。

今日迄我方ハ常ニ具體案ヲ提出シ會商妥結ニ到達スル爲ニ主働的立場ヲトリ、會商中止又ハ打切リノ問題ニ就テハ先方常ニ切掛ケヲ作リ、我方ハ受働的態度ニ出テ居タルハ御承知ノ通リナリ、先般ノ打切リ申出ハ單ナル「ブラフ」ナルヤ先方ノ眞意不明ナルモ、我方ノ嚴然タル態度ノ結果急ニ會商繼續ノ意向ニ轉シ從來トハ異リ眞劍味ヲ帶ヒ來レル樣見受ケラルルモ、愈々委員會再開ノ上妥協案討議トモナラハ、更ニ其特性ヲ發揮シ小策ヲ弄シ容易ニ誠意ヲ示ササルヘシトモ豫想セラル、從テ委員會再開ノ上ハ抽象的論議ヲ避ケ專ラ具體的數字的提案ヲ示シテ先方ノ諾否ヲ明ニシ、一歩々々問題ヲ片附クル方針ニ非サレハ又々遷延停頓ノ恐アリ、我方委員ニ於テモ政府ノ御方針就中最後ノ讓歩案ヲ承知シ數字的ニ計畫ヲ立テテ會商ニ臨ムニ非サレハ進捗ヲ計リ得サル次第ナリ、仍テ是迄往復ノ諸電報御斟酌ノ上何分ノ儀至急御回電ヲ仰ク

右御回訓ヲ俟ツテ充分成案ヲ煉リ、討議ノ方策ヲモ攻究シタル上ニテ委員會ニ臨ムコト肝要ナリト思考シ夫レ迄委員會ヲ開カサル心組ナルニ付御含置ヲ乞フ。

右ニ對スル廣田外相ヨリノ返電左ノ通リ。

一、十日關係者會議ヲ開キ協議ヲ遂ケタルカ、拓務、農林ハ我產糖ノ狀況ハ自給自足ノ域ヲ超ヘ、明年ヨリハ毎年約二十萬噸ヲ海外ニ輸出セサルヘカラサル次第ナルモ、會商ノ圓滿ナル進展ノ爲明年以降三ケ年間ニ於テ最大限度トシテ合計五十萬噸ノ蘭印砂糖買付方已ムヲ得サルヘキモ、右ハ我輸出業者ノ負擔ニ於テ之ヲ行ハシメ且ツ其販路ハ凡テ之ヲ海外ニ求メシムヘシトノ意見ニシテ、之レ以上ノ讓歩ハ到底困難ナリト强調シ居リ、又遞信省ハ我海運國策ノ既定方針ニテ進ムノ外ナク、今以上ノ讓歩ヲ爲スコト不可能ナリトノ意見ヲ持セリ。

二、就テハ砂糖問題ニ付テハ商工省ト協力シ近ク我輸出業者ノ意向モ確メタル上、(結局我輸出業者ヲシテ砂糖ヲ買ハシムルコトトナラハ、蘭印側ニ於テ彼等輸出業者ノ特ニ賣ラント欲スルモノノ割當比率ヲ增大スルノ要アルヘキコト自明ノ理ナリ)、確定案追電スヘキモ、蘭側カ何等妥協案ヲ提示スルニ非スンハ之レ以上關係各方面ヲ追求スル譯ニ行カサルニ付、前記ノ次第適宜說明ノ上、數字ニ關シテハ先方ヨリ右妥協案ヲ提出セシムル樣御措置アリタシ、尙ホ本省目下ノ考ヘトシテハ蘭印側ニ於テ前記數量ニ

滿足セサル場合ニハ、政府ニ於テ買付ヲ約シ得サル次第ニモアリ、全然別案トシテ將來各年ニ於ケル我カ砂糖買付量カ一九三三年ニ於ケル實績ニ止ル場合即チ現狀維持ノ場合ヲ豫想シテ、邦品蘭印輸入數量及之レカ邦人ニ依ル取扱比率ヲ等シク現狀維持ノ基礎ニ依リ決定セシメ、我方ノ砂糖買付カ右ヲ超過スル場合ハ其購入者ニ對シ購入量ニ應シ特別輸入「ライセンス」(他人ニ讓渡シ得ヘキ)ヲ與フルコトトシ以テ砂糖買付ヲ刺戟スル樣適當ノ方法ヲ講スルコト一策カト思考シ居レリ。

三、海運問題ニ付テハ貴電豫告ノ先方提案ヲ見タル上、何分ノ審議ヲ進ムルコトト致度。

四、最近來栖局長和蘭公使ト雜談ノ際、局長ハ事ノ性質上本邦側ヨリ申出スヘキ筋合ナラサルモ別懇ナル友人トシテ全然個人的思付キヲ述ブレハ、輸入綿布ニ對シ蘭印側ハ僅カニ二割以下ノ關稅ヲ課シ居ルニ過キサルヲ以テ、蘭印消費者ニ擔稅能力有ルニ於テハ關稅以外ニ國籍ニ依リテ差別ヲ設ケサル適度ノ輸入「ライセンス」ヲ徵收シ、之ニ依リテ得タル收入ヲ以テ糖業ノ救濟ナリ砂糖輸出ノ促進ナリヲ計ルモ一策ナラスヤト述ヘ置キタル趣ナリ、右御參考迄。

五、尙ホ我方最後案ハ上記ノ諸點御含ミノ上更ニ一應ノ御交渉ヲ試ミラレ、愈々會商ヲ打切ルヘキヤ否ヤヲ決スヘキ機會ニ直面シタル際、閣議ニ於テ決定ノ豫定ナリ。

之ヲ受取ツタ我々ハ頗ル失望シタガ、先方ノ第二「エード、メモアール」ニ對スル當方ノ「オブザヴエーション」ニ關シ「ランネフト」代表ノ話モアツタカラ、越田代表ハ「ヘルデレン」教授ト會見シ、先方ハ字句ヲ追加シ、當方ハ一部修正スルコトヽシテ本件ヲ解決シタ。其日越田代表ハ「ヘ」ト、翌日筆者ハ「ラ」

ト會見シテ互ニ意見ヲ交換シタ、其要領ハ左ノ通リテアル。

十一月十三日越田「ヘ」會談。

一、越田ハ本月八日長岡「ランネフト」會見ノ際委員會報告第一ニ關シ兩首席間ニ心覺ヘノ爲筆記シタル事項ニ付爲念慥メ度シト前置シテ質問シタリ。

(イ)「既存制限令ノ目的タル商品モ委員會ニ於ケル制限品目表討議ノ際考慮ニ加ヘラルヘキコト」

「ヘ」ハ蘭印工業ノ保護ヲ目的トスルモノ例ヘハ麥酒及洋灰制限令ノ場合ニ於テハ、蘭印當該會社ノ製造能力ハ現行制限令ノ結果ヨリ生スル割當量以上ナレハ、此等會社ノ割當ヲ減シテマテモ外國產品ノ輸入數量等ヲ增加スルカ如キ事ハ不可能ナルモ、將來需要格別增加スル場合ニハ考慮ノ餘地アリ、又其他ノ制限令ノ定ムル商品例ヘハ「サロン」、晒綿布ニ付テハ若干變更方ヲ考慮スルコトヲ得ヘシ。

(ロ)「蘭側提出ノ表ニ包含セラレサル其他ノ重要商品モ亦考慮セラルヘキコト」「ヘ」ハ委員報告第一Bニ記載シアル如ク該表ニ付テハ日蘭兩國委員ニ於テ協議ノ上作成セントスルモノナレハ勿論考慮セラルヘシ。

(ハ)「自由競爭ニ委セラルヘキ商品ニ付其數量ノ基礎ナキニ於テハ右等商品ノ爲ニ留保セラルヘキ「パーセンテージ」ハ何等ノ保障トモナリ得サルニ付、委員會ニ於テ之カ解決方法ノ發見ニ努力スルコト」

「ヘ」ハ國內ノ需要ヲ長期ニ亘リ豫メ決定スル事ハ危險ナルヲ以テ、例ヘハ會商ノ結果成立スル事アルヘキ協定ノ有効期間カ三年ト假定セハ、數量ヲ右期間中一定不動ノモノトナス事ハ出來サルモ、短期間

例ヘハ六ケ月又ハ一年ノ需要量ヲ豫定シテ之ヲ決定スル事ハ過日ノ談話ノ通リ可能ナリト思考スルニ付目下研究中ナリ。

（ニ）「委員會ハ制限品目表中ニ掲ケラレサル商品ニ對スル保障問題ヲ考慮スルコト」

越田ヨリ此種ノ保障ハ日本英印間ノ協定ニモ存在スル處ナルガ、例ヘハ將來若シ蘭印ニ於テ新ニ制限ヲナサムトスル場合ニハ兩國間ニ協議スル事トスルカ如キ方法ニテ保障ヲ設クル事ヲ指スモノニテ、右ニ關シテハ研究ノ上我方ヨリ提案スル事ヲ得ヘシト云ヘルニ、「ヘ」ハ右ニ關シテハ適當ノ「フオーミユラ」アラハ之ヲ研究考慮スルコトニ異議ナシト答ヘタリ。

二、越田ヨリ砂糖ニ關シテハ蘭側ヨリ提議ナキニ於テハ日本側ニ於テ關係當業者ヲシテ考慮セシムル事能ハサルニ付、蘭側ヨリ可成速ニ砂糖ニ關スル新提案ヲ提出セラレタシ、右提案中ニハ蘭側カ日本側ニ對シ希望セラルル最少限度ノ數量ヲ記載セラレタシト云ヘルニ、「ヘ」ハ蘭側ニ於テハ日本側ニ依ル砂糖ノ增加買付ハ爪哇カ現ニ砂糖ヲ供給シ居ル市場ニ日本ヨリ砂糖ノ輸出增加ニ依リ右增加買付ノ結果ガ全部又ハ一部減殺セラルルカ如キ事ナキ樣保障セラルルニアラサレハ無價値ノモノトナル事ハ委員會報告ニ明記シタル通リナルヲ以テ、此保障條件カ容レラレサル限リ日本ニ依ル砂糖買付ハ蘭印側ノ喜フ所ニ非ス、日本カ果シテ此條件ヲ受諾セラルルヤ否ヤヲ承知シタシト述ヘタルニ付、越田ハ日本側ニ於テ右ノ條件ヲ受諾スル事ハ全ク不可能ナルヘク、右ニ關シテハ長岡大使ヨリ「ランネフト」氏ヘモ明確ニ說明セラレタル通リニシテ、日本商人ノ手ニ依リ極東市場就中滿洲、關東州、北支那及中部支那等ノ市場ヲ

確保セラルル事ハ爪哇ノ爲有利ナラスヤト反問スルト同時ニ、日本ノ生產ハ每年增加シツツアリ、昨年爪哇糖ノ買付量ハ十七萬噸ナリシニ反シ本年ハ約十萬噸、來年ハ多分買付皆無トナルヘク、又假リニ會商不成立ノ場合ヲ想像スレハ日本ハ何等爪哇糖ノ買付ヲ爲ササル外、自國產品ヲ一層增加シ支那等ニ輸出スルニ至ルヘキニ付、爪哇糖ニ取リテハ一大脅威トナルヘク、此等ノ點ヲ考慮セハ日本商ノ手ニ依リ極東市場ニ賣込ム事ヲ拒否スルノ理由ナカルヘシト云ヘルニ、「ヘ」ハ爪哇糖ハ自ラノ販賣機關ヲ有スルト同時ニ極東ニ於テハ十分競爭能力アルヲ以テ、斯カル仲介者ヲ持ツ必要ナシト答ヘタルニ付、越田ハ市場ハ絕エス「シフト」スルモノニテ東洋カ專ラ爪哇糖ノ恒久不動ノ市場ナリト思惟スルハ誤リナルヘク、若シ日本ニ於テ更ラニ生產ヲ增加シ或ハ日本カ第三國產糖ノ仲介者トナラハ爪哇糖ハ其販路ヲ侵蝕セラルルニ至ルヘシ、他方長岡大使「ランネフト」會談中市場協定ニ言及セラレタル事ヲ引用シ、日本側ニ於テ爪哇糖增買ノ場合ニ兩國當業者間ニ於テ此販路協定ノ如キヲ爲スモコト不可能ニハ非サルヘシト述ヘタルニ、「ヘ」ハ日本側ヨリ斯カル販路協定ニ關スル條件ヲ砂糖買付ニ關スル提案ト共ニ申込マレ、之ヲ協定又ハ議定書ニ書込ム事トスルニ於テハ考慮ノ餘地アルヤモ知レスト云ヘルニ付、越田ハ政府間ノ約束トスル事ハ不可能ニシテ民間ノ協定ニ委スルノ外ナシト返ヘシタル後、斯カル詳細ハ委員會ニ於テ實行ノ可能如何ヲ研究スル事トシ此際ハ蘭側ノ希望最少限數量ニ關シ新提案ヲ爲ス事ヲ得サルヤト重ネテ問ヒタルニ、蘭側ノ希望數量ハ既ニ曩ノ案ニテ明カナリト云ヘルニ付、越田ハ五十萬噸ト云フカ如キ法外ナル數量ハ問題トナラサルノミナラス、種々ノ附帶條件附ノ該提案ヲ基礎トシ討議スル事ヲ

ルハ既ニ當時及其後ニ於テ屢々言明シタル所ニシテ、我ニトシテハ右提案ハ既ニ「ドロップ」セラレシモノト看做シ居レリト述ヘタルニ、彼ハ蘭側トシテハ依然該案ノ如キ方法ニ依ルニアラスンハ日本側ノ買付ハ不可能ナリト信シ居ルヲ以テ、先ツ保障ニ關シ日本側ノ承諾取付ヲ欲スルモノナルカ、若シ日本側ヨリ販路協定ニ關スル事項ト共ニ一定數量買付ノ提案アラハ先ニ述ヘタルカ如ク協定又ハ議定書ニ之ヲ書込ム意味ニ於テ一應考慮シ得ヘキモ、然ラサル限リ曩ノ必須條件ハ之ヲ主張セサルヲ得スト述ヘタリ、仍テ越田ハ右ハ貴下ノ意見ナルノミナラス蘭側代表部ノ意見トシテ動カスヘカラサルモノナリヤト念ヲ押シタルニ「ヘ」ハ然リト明答シタル上右條件ナキ限リ日本ノ買付ハ蘭印ノ「トレード・バランス」上ニハ何等ノ効果ヲ齎ラスコトナキモノナリ云ヘルニ付、越田ハ少クトモ日蘭印間ノ「トレード・バランス」上ニハ幾分ノ効果ヲ來スヘシト返ヘシタリ。

十一月十四日長岡「ラ」會談。

一、先ツ「ラ」ヨリ越田總領事ハ「ヘ」ト會談ノ際自分カ閣下ニ對シ斯々云ヒタルコト例ヘハ船舶比率問題其他ニ關シ述ヘタルコトヲ指摘サレシ趣ナル處、自分ノ思付トシテ閣下ニ述ヘタル意見ヲ一々「ヘ」等ニ申サレテハ困ルト云ヒタルニ付、本使ハ本使ノ意見ハ然ラス、本使カ貴下トノ會見ニ於テ述ヘタル意見ハ日本代表部總ヘテヲ拘束スルモノナリト云ヘルニ對シ、「ラ」ハ自分ハ然ラス、從テ今後ハ從來ノ如ク自由ニ意見ヲ開陳スルコト不可能トナルヤモ知レスト述ヘタルニ付、本使ハヨク了解セリト答ヘタリ。(畢竟「ラ」ニ眞、小姉ノ多キヲ物語ルモノナリ)。

二、更ニ「ラ」ハ先日ノ會談ニテ大凡ソノ「アウトライン」ハ分明セリ、之ニテ越田「ヘ」間協議ノ結果何所迄折合フヘキカ成ルヘク早ク結果ヲ見度ク、出來得レハ十日、二週間乃至三週間以内ニ結末ヲ見度キモノナリト云ヘルニ付、本使ハ全ク贊成ニシテ今後ハ數字ノ問題ノミヲ協議スルニ限ルト云ヘルニ、「ラ」モ之ニ同意シ、夫レニ限ル而シテ二週間ト云ヒ度キカ矢張リ三週間ハ要スヘキモ、何レニセヨ双方ニテ三週間以内ニ何所迄歩ミ寄リカ可能ナリヤ否ヤヲ協議ノ上、右結果ヲ兩主席代表ニ報告スルコト、致シ度シト述ヘタルヲ以テ、本使ハ之ニ對シ異議ナシ、然シ物事ハ然カク簡單ニハ行カサルヘク、輸出入商ノ取扱比率ハ兎モ角、船舶問題ハ左程簡單ニハ片着カサルヘシト思フ、故ニ先ツ協議纏マリタル諸問題ニ就テハ船舶問題カ圓滿ニ解決スル迄ハ其効力ハ發生セストノ條件ノ下ニ、協議決定ノ件ニ對シ「バラフエー」スルコト、致シ度シト云ヘルニ、「ラ」ハ自分モ將ニ之ヲ提議セント思ヒ居タル所ニテ全然同意見ナリトテ之ニ贊成シタル後、然シ其他例ヘハ「ライセンス」問題ハ和蘭ノ國權ノ發動ニヨル問題ナリ蘭印トシテハ自由ノ立場ヲ執リ度シト述ヘタルニ付、本使ハ夫レハ不可ナリ、例ヘハ今日本ニテ外國ヨリノ輸入品ハ總ヘテ外國人ニ取扱ハセズト云フカ如キ法律ヲ發スルト假定セハ之ニ對シ如何ナル批評ヲ受クヘキヤ、和蘭カ今日ノ如キ立場ヲ執ルコトハ通商條約違反ノ措置ナリト思考ス、之ハ本使トシテ到底承諾シ得スト述ヘタルニ對シ、「ラ」ハ前回ニモ申述ヘシ如ク蘭印ニ必要ナル外國品ヲ其外國ノ商人カ自由勝手ニ支配スルト云フコトハ蘭側ノ到底忍ヒ得サル旨ヲ繰返セルニ付、本使ハ又前回同樣ニ日本トシテモ蘭商カ一手ニ日本商品ヲ取扱フ場合ニハ商品其ノ物ニ付テモ又價格ノ點ニ就テモ全ク蘭商ノ掌中ニ握ラルヽコトヽナリ之ハ日

本トシテ到底承諾シ難シ、故ニ例ヘハ蘭商ニ對シ日本商ニ比シ一〇「パーセント」モ餘分ノ比率ヲ與フレハ右ノ如キ憂ヒナキニ非スヤ、何レニシテモ貴方ニ於テ二〇「パーセント」ヲ最大限トシ本件ハ委員會ニ於テハ協議セスト云ハルヽニ於テハ最早委員會ヲ開ク必要モナシト思フト述ヘタルニ、「ラ」ハ實ハ今本國ヨリノ返事ヲ待チ居ル次第ニシテ、右回答如何ハ知レサルモ回答接到次第通報スヘク、必要ナラハ又閣下ト話ヲシ度シト云ヘルニ付、本使ハ夫レハ其方法ニテ異存ハナキモ、何レニセヨ如何ニ輸出入ノ問題カ滿足ニ解決シテモ、比率ノ問題カ不滿足ナラハ矢張リ會商ヲ成功ニ導クコト不可能ニシテ、比率ト輸出入ノ問題トハ極メテ密接ニ關聯セルコトヲ今ヨリ御承知置アリ度ク、永年ノ間蘭印ニ於テ平和ニ且ツ愉快ニ商賣ヲナシタル多數日本人ハ、二〇「パーセント」ト云フカ如キ比率ニテハ全ク商賣不可能ニシテ、折角一生ヲ蘭印ニ送ラントセルコトモ夢ト化スヘシト云ヘルニ、「ラ」ハ左樣ノコトナシ、夫レ等日本人ノ目標トスルハ主トシテ雜貨例ヘハ玩具類等ノ問題ニシテ、此等商人ノ輸入比率ハ相當保護ヲ受ケ居ル筈ナレハ、結局二〇「パーセント」ヲ最高率トスル爲ニ迷惑ヲ蒙ムルハ十四種位ノ商品ヲ輸入シ居ル商人ニシテ、之ハ何レモ大取引ヲナシ居ルモノナリト獨リ言ノ如ク云ヒタル後、何レニシテモ本問題ハ本國ヨリ返電アリ次第通報スヘシト云ヘリ。

三、「ラ」ハ次ハ砂糖ノ問題ナルカ蘭側ハ再輸出セサルコトヲ必須條件トシ居リ、之カ保障ヲ得ルト云フコトガ日本ニ砂糖ヲ買ツテ貰フト云フコトヨリ更ニ大事ノ問題ナリト云ヘル故、本使ハ先般本使カ本件ニ關スル妥協的私案トシテ述ヘタルコトニ付昨日「ヘ」ハ越田總領事ニ對シ政府間ノ協定ヲ要望セラレタルヤ

ニ聞及ヒタルガ、日本ハ未タ曾テ市場協定ヲ政府間ニナシタルコトナシ、之ハ日本トシテハ重大ナル對世界的問題ナルニ付到底受諾シ得ヘシトハ思ハス、商人間ニテ約束スレハソレニテ充分ナラスヤト云ヘルニ「ラ」ハ夫レノミニテハ何ノ保障モナシト云ヘルヲ以テ、本使ハ若シ商人カ左程信用ナキモノナリトソ見地ヨリ出發セラルヽナラハ之ハ別問題ナルモ、本使ノ知レル所ニテハ日本商人ハ相當多クノ市場協定ヲナシ居レリ、例ヘハ現在日本ニテ最モ新シク隆盛ニ向ヒツヽアル人絹ニ付、「ベンベルグ」ノ市場協定ハ獨逸ノ會社トノ間ニ成立シ居リ滿足ノ結果ヲ受ケツヽアルノミナラス、日本ノ旭「ベンベルグ」ニハ獨逸ノ資本カ相當入リ居ル筈ナリト云ヘルニ、「ラ」ハ如何ニモシテ今少シ進ミタル方法ナキヤト云ヘルニ付、本使ハ夫レデハ例ヘハ當業者間ノ協定ヲ「コンフアーム」スルト云フカ如キ事ナラハ或ハ可能ナルヤモ知レス尤モ之ニ對シ政府カ如何ナル意見ヲ有スルヤハ不明ナリト述ヘタルニ、「ラ」ハ船舶問題ト同樣ナリト云ヒ笑ヒ居タリ。

四、次ニ本使ヨリ砂糖買付數量ニ付蘭側ハ五十萬噸ヲ要求セルモ、當方ニテハ右提案ハ「ドロツプ」セルモノト見做シ居ルモノナルガ、「ヘ」ハ新提案ハ日本側ヨリ出サレ度シト云フコトヲ越田總領事ニ申入レ蘭側ヨリノ提案ハナキカ如キ態度ヲ示シ居ルガ、當方トシテハ貴方ヨリ「リーゾナブル」ノ數字ノ提示ヲ望ムト云ヘルニ、「ラ」ハ若シ五十萬噸カ不可ナラハ新ナル數字ハ日本側ヨリ提示スル方宜シカラスヤト云ヘルニ付、本使ハナル程理屈ヨリ云ヘハ蘭側ヨリ五十萬噸ト切出シタルニ付日本側ヨリ之カ對案ヲ出スコト普通ナルヘキモ、然シ物事ハ理屈ノミニテハ不可ニシテ、本使ノ承知スル所ニヨレハ明年ノ日本ニ於ケル

砂糖生産過剩高ハ二十萬噸ニ上ル（「ラ」ハ頗ル驚キタル表情ヲナセリ）ヘキヲ以テ、日本ハ砂糖輸出國ニシテ瓜哇糖ハ一噸ダモ買フ必要ナシ、夫レニモ拘ハラス相當量ノ買付ヲナスト云フコトハ、結局日本ハ蘭印トノ貿易關係ヲ圓滑ナラシメ且ツ兩國間親善ヲ維持增進ヒシムル目的ニ他ナラサルモノナルガ、政府トシテ利害關係者ニ砂糖ノ買付ヲ要求スル爲ニハ非常ナル苦心ヲ要ス、若シ政府カ日本ニテ不必要ナル砂糖ヲ買付クルト云フカ如キ主動的態度ヲ執ルニ於テハ日本ノ輿論ハ之ヲ如何ニ批評スルナラン臨時議會モ近ク開カルヽガ、本問題ハ全然机上ノ空論ヲ離レ、政治的見地ヨリ處理セサルヘカラサルモノニシテ、蘭側ヨリ更ニ「リーゾナブル」ノ提案ガアリテ之ヲ關係省カ基礎トシテ民間ト協議スル樣、蘭印ニテ仕向ケサルニ於テハ到底成功ノ望ナシ、若シ貴方ニテ提案ナシト云ハルヽ場合ハ、政府トシテ五十萬噸ト云フカ如キ大ナル數字ヲ民間トノ交渉ノ基礎トスル勇氣モナカルヘク、假リニ之ヲ示シタリトセハ民間ヨリ只、嘲笑ヲ以テ迎ヘラルヽニトヽマルヘシト云ヘルニ、「ラ」ハ之ヲ首肯セル風ヲ示シ篤ト「ヘ」ニ申傳フヘシト云ヘリ。

尙ホ別ニ臨ミ「ラ」ハ今後ハ越田總領事ト「ヘ」ト充分懇談協議ヲ重ネテ貰ヒ度シト云ヘルニ付、本使ハ夫レハ勿論希望スル所ニシテ越田總領事ニモ篤ト傳フヘキガ、「ヘ」ニ對シテモ今迄ノ態度ヲ變更シ妥協的ニ歩ミ寄ル氣分ヲ示ス樣貴下ヨリ充分訓示アリ度シト云ヘルニ、「ラ」ハ「ヘ」カ左樣ノ態度ナリシヤト反問セルニ付、本使ハ先般ノ委員會報告書ニ明カナル如ク、貴方ノ主張ヲ一歩モ枉ケスト云フカ如キ事ニテハ今後ノ會談モ無意味ニ非スヤト云ヘルニ、夫レハ越田氏ニモ同樣ノ節アルニ付越田氏ヘモ充分御傳ヘア

リ度シト云ヘリ。

仍テ筆者ハ事態ヲ闡明シ今後ノ態度決定ニ資スル爲左ノ電報ヲ廣田外相ニ發シタ。

一、貴電御訓令ノ趣旨ニ基キ砂糖問題ニ關シ蘭側ヨリ妥協案提出スル樣兩代表ニ於テ極力勸說シ置キタルハ往電ニテ御諒承ノ事ト信ス、（イ）然ルニ貴電ト一致セサルハ再輸出問題ニ關スル條件ナルカ、右ハ蘭側ノ最重要視スル點ニシテ穴勝無理ナラサル事ト存ス、仍テ全然私見トシテ市場民間協定案ヲ以テ先方ノ底意ヲ探リ稍々乘氣ナル樣見受ケラルル處、砂糖問題確定案御決定ノ際ハ本件ニ關シテモ的確ナル御指示ヲ仰キタシ、（ロ）數量ニ就テハ先方ニ於テモ明年ヨリ一噸モ買付クル必要ナシトノ陳述ニヨリ日本政府ノ誠意及困難ナル立場ヲ了解スルト同時ニ、驚キ且ツ失望ノ色ヲ顯ハシ居リ、果シテ三三年度ノ買附量三ケ年繼續ヲ以テ滿足シ、輸入問題ニ付我方ノ希望ヲ容ルヤ甚大ノ疑問ナリ、最後案ニ於テハ前記數量以上ノ買附量ニ付御考慮ヲ煩ハシタシ。

二、（イ）右ニ關聯シ輸入問題ニ就テハ當方提出ノ具體案ヲ放棄シタル次第ニハ非サルモ、双方ノ主義理論ニ拘泥シテハ何時迄モ妥結ノ途ナク、先方ノ提案ノ形式ニ從ヒツツ實質上當方ノ希望ニ近キ內容ニ到達セシメントノ趣旨ニ基キ、十一月八日「ラ」ト會談ノ際ノ四項目ヲ中心トシテ目的達成ノ爲折角努力中ニシテ往電越田ト「ヘ」ノ協議、本使ト「ラ」ノ會談モ右ノ目的ニ外ナラス、制限品目表ノ立前カ日本ハ右表以外ハ絕對自由ノ主義、蘭側ハ右以外ノ商品ハ制限自由ナリトノ對立的主張ナルモ、前記四項目中ノ保障タニ獲得セハ結局實質ハ同樣ナリト思考シ、今ヤ重要輸入品ヲ可成品目表中ニ掲載セシメ、多少ノ制限ハ甘

受シテモ右等商品ノ大輸出入邦商ノ地位ヲ確保スル事得策ナリト信ス、他方中小輸出業者並ニ之ト密接關係ヲ有スル小賣商保護ノ爲ニハ、雜貨類ヲ出來得ル限リ制限外ニ置カムトスル方針ニテ具體案攻究中ナルカ、右ニ關シ何等今日迄御指示ナク、前記方針ニテ進捗ヲ計リ差支ナキヤ、就中制限品目表（蘭側提案）ニ付御詮議ノ結果至急御訓電ヲ乞フ。

（ロ）次ニ割當數量ノ問題ガ難關ナルガ、漸ク蘭側モ割當比率ノ基準數量明示ニ付承諾セルモ、要ハ「バーター」ノ目的達成ノ爲砂糖買附量ニ比例セシメムトノ底意ナルハ推測ニ難カラス、然ルニ貴電中二ニ依レハ我輸出業者ハ砂糖買附ノ負擔ノ條件トシテ割當數量ノ增大ヲ固持シ本省御考慮中ノ別案ナルモノモ砂糖買附ト輸入數量制限トヲ凡テ現狀維持ノ原則ニ固定セシムルノ考案ナルヤニ存セラルル處、今日迄ノ狀勢ニテハ邦商取扱比率及割當數量三三年度基準ハ蘭側ニ於テ頑强ニ反對シ居リ認諾セサル事ハ疑ナク、況ンヤ三ケ年間ニ五十萬噸ノ砂糖買附量ヲ以テ三三年數量保持ヲ承諾セシムル事ハ全然不可能ナルコト豫メ御承知置ヲ乞フ、（私見ニ依レハ輸出業者ノ負擔ナルモノハ單ニ商品ニ轉嫁セラルルノミニテ彼等ノ現實損失トハナサルニ付、之ヲ以テ三三年數量維持ヲ强要スル事當然自明ノ理ナリヤ疑ナキ能ハス）。

三、海運問題ニ就テハ往電ノ通リ蘭側ニ於テモ會商ニヨル協定トハ切離シ同時解決ヲ固執セサルニ至リ、遷延スルトモ解決シ度キ意向ナルハ明白ナルニ付、我船會社ノ從來ノ威壓ナク安心シテ民間會商ニ臨ミ得ル一種ノ保障ヲ政府ニ於テ與ヘ得ラルルナラハ、案外問題ノ進捗ヲ見ルヘシト思考ス、御參考迄。

此電報ト行違ヒニ左ノ入電ガアツタカラ、當方カラ折返シテ左記質問ヲ發シタ所、左ノ如キ返電ニ接シタ。

十一月十五日廣田大臣發。

我方ニ於テハ會商妥協ノ大局ヨリ考慮シ、國內產糖スラ今後剩餘ヲ生スヘキ云ハハ全然不必要ナル砂糖ヲ何トカシテ相當量買付ケントスルモノナルニ付、之カ處分ハ海外ニ輸出スル外途無キ次第ナリ、先方ハ日本カ爪哇糖ヲ再輸出スルニ於テハ自ラ之ヲ輸出スルト何等異ナル處無シトノ議論ヲ爲シ居レルモ、之ヲ例ヘハ最近ノ支那市場ニ付テ見ルモ蘭側現在ノ販賣組織ヲ以テシテハ現狀以上ニ輸出スルコト先ツ困難ナルヘク、之ニ反シ本邦カ地理的利便其他販賣組織ノ力ニ依リテ對支輸出ヲ多少トモ增進シ得ルニ於テハ蘭印側トシテハ夫レ丈ケ過剩糖ヲ處分シ得タル譯ナリ、又砂糖輸出市場ニ關シ日蘭印間ニ市場協定ヲ締結セントスルノ案ハ、假令南支北支二分案ト雖モ支那市場トノ密接機微ナル關係上豫メ爪哇糖トノ勢力範圍ヲ確定シ難ク、況ヤ前揭ノ通リ我方ハ世界市場ニ對シ餘剩糖ノ捌ケ口ヲ求メサルヘカラサルニ付、之カ市場ヲ制限スル如キハ到底同意シ得サル處ナルニ付、右御含ノ上可然機會ニ於テ砂糖再輸出制限ノ如キハ到底本邦政府ノ同意ヲ得難ク、先方カ右ノ考ヘヲ放棄セサルニ於テハ相當量買付ノ如キハランデ話ニナラサル次第篤ト印象セシムル樣御盡力アリタシ。

十一月十六日長岡發。

蘭側ハ砂糖再輸出禁止ニ關スル保障ヲ必須條件ナリトシ若シ之ヲ得サレハ日本ノ買付ハ無價値ナリト主張シタルニ對シ、本使及越田ハ本邦糖業ノ現狀ヲ說明スルト同時ニ日本ノ爪哇糖買付ハ再輸出以外ニ處分ノ途ナキ事及日本ニ依ル販路擴張ノ有利ナル點ヲ今迄屢々力說シタルモ、蘭側ハ無條件ナラハ日本ヘノ賣込

ヲ斷念スヘシト言明シ、遂ニ委員會報告中ニ其旨ヲ記載シタル次第ニ有之、又先方ハ砂糖問題解決出來サレハ會商ノ甲斐ナシト謂ヒ居ルニ鑑ミ、當業者間ニ於ケル販路協定位ニテ妥結ヲ試ミルモ一法カト思考シ全然私案トシテ先方ノ腹ヲ探リタルハ往電ニテ御承知ノ通リナルカ、右ヲモ全然拒否スル貴電ノ趣ヲ申入ルルトキハ、今日迄ノ主張ニ鑑ミ先方ハ之ヲ以テ會商中止ノ理由ト爲スノ惧アルハ豫測ニ難カラサル處、右ニテ決裂スルモ己ムヲ得ストスル御趣旨ナリヤ、御訓令執行ニ先チ爲念一應政府ノ御意向承知致度、至急御回電ヲ乞フ。

十一月二十二日廣田外相發。

一、蘭側ハ砂糖再輸出禁止ヲ必須條件ナリト主張シ居ルモ、元來砂糖買付ケハ貿易均衡策トシテハ買手ノ欲セサルモノヲ強ヒントスル點ニ於テ無理ナルノミナラス、既ニ農民ノ手ヲ離レ居ル柵上ケ糖ノ買付ケカ少クトモ直接ニ本邦商品ノ顧客タル蘭印民衆ノ購買力ヲ增加セシムヘシトモ思考シ得ラレス、往電ノ通リ自國產糖スラ輸出セサルヘカラサル日本カ蘭印糖ヲ買付ケントスルハ一ニ蘭側ノ窮狀ヲ推察シテノ措置ニシテ、實ハ燃料國策ノ見地ヨリ目下研究中ノ臺灣糖ノ一部ヲ無水「アルコール」トナスコト（本件ハ「ガソリン」ノ割安、無水「アルコール」製造設備ノ欠除、原料高等ニテ多額ノ補助金及混用强制法制定等ヲ必要トシ急速ノ實現困難ナリ）ヲモ考慮ニ加ヘタルモノナルニ鑑ミ、先方トシテモ再輸出問題ハ勿論本件全體トシテ歩寄ルヲ適當トスヘシ。

二、支那市場ヲ南北ニ分ツトスルモ其境界ノ定メ方、最初ノ買手カ轉賣セル場合ノ處分、輸出國產糖トノ

關係種々困難ナル問題ヲ生シ實行殆ト不可能ナルヘク、

三、次キニ在暹羅公使發電報ニ依レハ四英國商社ノ手ニ依リ爪哇糖ノ暹羅輸入行ハレ居ル趣ナルノミナラス、香港及同地經由廣東方面ヘノ輸入モ貴官御指摘ノ通リ英國商ノ取扱フ處ナリ、然ラハ日本商ノ手ヲ經テ爪哇糖カ再輸出セラルルコトニ關シ先方ニ於テ斯カク頑强ニ反對スヘキ表面ノ理由ナカルヘキ筈ナリ。

四、先方ニ於テ强イテ砂糖再輸出禁止ヲ固執シ之レカ爲不幸會商不調ニ終リタリトセハ、日本國內ノ輿論ハ勿論同一立場ニアル各國ハ、何レモ我カ國主張ノ公正ナルヲ了解スヘク、又蘭印側トシテ之ヲ實利ノ見地ヨリ見ルモ會商不成立ニ依リ何等砂糖輸出ヲ增加シ得サルト共ニ、一方蘭印土民ニ適セル必要ナル日本品ヲ結局購入ノ外ナク、殘ル所ハ唯取扱量制限等ニ依リ在留本邦人ヲ苦シメ兩國親善關係ニ面白カラサル影響ヲ與フルニ止マルヘキニ付、先方トシテモ砂糖再輸出禁止ヲ固執セス販路ノ何レタルヲ問ハス幾分ナリトモ砂糖輸出ノ絕對的增進ヲ計ルヲ得策トスヘキ筈ナリ。

五、隨ツテ蘭印側ニ於テ過大ナル數量ノ買付ヲ要望シ又ハ砂糖再輸出禁止ヲ固執セントスルニ於テハ、代案トシテ既電申進メノ二ヲ基礎トシ、當方輸出業者ノ奮發次第ニテ右輸出業者ノ利益ヲ增進シ得ル仕組トシ、一應前記往電案ヲ討議ノ基礎トシ御交渉アリタシ。

六、尙序イテ乍ラ往電所報棉業關係當業者トノ協議ハ其後二回催シ、問題解決ノ鍵カ彼等ノ手中ニアルコトヲ充分納得セシメ、具體的數字算出方慫慂シ置キタリ。

十一月二十三日越田「ヘ」會談ノ際「ヘ」ハ砂糖ニ關シ次ノ如キ提案ヲ爲シタ。

一、日本政府ニ於テ左記數量ノ爪哇糖ノ買付ケ方日本糖業者ニ勸奬セラレン事ヲ期待ス。

（イ）一九三四年少クトモ十五萬「メトリック」噸。

（ロ）協定期間中毎年少クトモ三十萬噸。

二、右ニ關聯シ協定期間中又ハ右期間終了後買付ケ糖ノ數量カ毎年十萬噸以上日本ヨリノ砂糖輸出ノ增加ヲ招來セシメサルヘシトノ保障ヲ必要トス。

右蘭側提案ニ對シ越田代表ハ一九三四年ニ於ケル爪哇糖買付ハ大體十一、二萬噸ニシテ本年ハ剩ヌ所一ケ月ニ過キサレハ前記（イ）ノ項ハ思ヒ止マラレタシ、又毎年三十萬噸ノ買付ニ付テハ日本カ現ニ來年ヨリ二十萬噸ノ過剩生産ヲ見込居ルニ鑑ミ過大ト思ハルルニ付、今一層減量ヲ必要ナリト思考スト述ヘタル處、「ヘ」ハ今年度分トシテハ餘分ノ買付ハ三、四萬噸ニ過キサルモ、之ニテモ甚タ「アツプレシエート」スヘク、又今後毎年三十萬噸ハ日蘭印間ノ貿易均衡ヲ考慮セハ決シテ多量ニハ非ルヘク、一應日本政府ノ意向ヲ確メ方希望スト述ヘタ、依テ越田代表ハ輸出制限ニ關スル保障ニ付テハ日本側ニ於テ受諾困難ナルヘシトテ大臣電報記載ノ事項ヲ詳細説明シタル上、本件ハ甚タ重大ナルニ付日本政府ヘ轉達前首席代表トモ協議ノ上、二十六日更ニ意見開陳スヘシト答ヘテ置イタトノコトダ。

斯クノ如ク我々ハ蘭側ト交渉ヲ繼續スルト同時ニ、當方讓歩案ヲ準備スル爲、東京ト屢々照覆ヲ重ネタガ、之ハ餘リニ專門的故省略スルコトヽシ、主義大綱ニ關スル主タル往復電報ヲ左ニ掲ゲル。

十一月二十六日長岡發。

累次報告電報ニ依リ御承知ノ通リ今ヤ會商ハ最後ノ決定ヲ俟ツ段階ニ到達シ、最早論議ヲ重ヌルヨリモ我方ノ正當ト信スル計數ヲ示シテ諾否ノ確答ヲ一氣ニ要求スルノ時機ニ達セリト信ス、本使「ラ」ト最近會見ニ於テモ双方此趣旨ニ打合セ、委員會ニ於テ双方ヨリ計數ヲ提示シ妥協案作成ノ筈ナリシカ、委員會ノ經過ヲ見ルニ蘭側ノ心理狀態ハ依然トシテ小策ト掛引ニ囚ラハレ何等ノ誠意アル態度ヲ示サス、船舶問題ハ本邦船會社ノ强硬ナル決意ト我政府ノ斷乎タル態度ニ依リ始メテ往電ノ通リ蘭側ハ民間會商開催ニ同意ヲ表シ、而カモ猶意外ナル諸條件ヲ附シタルカ、之モ右往電ノ通リ越田ヨリ斷然排除セシ爲今漸ク應否ノ決意ニ出テントスル實情ナリ、砂糖問題ト雖再三ノ説得寧ロ强要ニ依リ始メテ十一月二十三日既報一及二ノ通リ計數ヲ明示セル代案ヲ提起セルカ、之レ亦我方ノ論駁ニ不拘執拗ニ條件ヲ附シ、更ニ甚シキニ至テハ輸入問題ニ關シテモ既ニ蘭側ヨリ數量基準ヲ提示シ我方ノ品目擴張ニ就テモ同意ヲ表シ、曩ニ蘭側四十三種提案ノ品目及數字ノ如キ尙ホ交渉次第ニテ相當變更ノ餘地アリト稱シナカラ、最近「ヘ」ヨリ私談要領書トシテ越田ニ渡セルモノニハ、蘭側提案附表記載ノ品目數並ニ自由輸入ノ割合ハ蘭側砂糖代案ニ對シ日本カ滿足ヲ與フル事ヲ條件トシ居リ、右品目及割合ノ擴張ヲ目的トスル日本ノ新提案ハ輸出品特ニ砂糖ノ買付量ノ此上ノ增加アル場合ニノミ蘭側ニ於テ好意的考慮ヲ拂フヘシト放言セリ、（此點ハ越田ヨリ其不誠意ヲ責ムヘキモ）要スルニ此上如何ニ討議懇談ヲ重ヌルトモ蘭側ハ誠意アル提案ヤ妥協ノ態度ヲ示ス事ナク、將又當方ヨリ尙ホ懸引ノ餘地アルカ如キ新提案ヲナシ、一歩一歩我最後案ニ近カシメムトスルカ如キ工作（貴電御來示提案）ハ、却テ蘭側ヲシテ前言ヲ食ミ又ハ言ヲ左右ニ托シ益々得意ノ懸引ヤ新條件

ヲ持出シ會商ヲ紛糾セシメ徒ニ時日ヲ遷延スルニ止マルモノト思考ス、而モ其ノ間陶磁器ヤ「サロン」ノ如ク新制限令ノ發布ヤ變更ニ依リ我方ノ結束ヲ亂スノ小策ヲ弄スルハ想像ニ難カラス、從テ此ノ際政府ニ於テモ既ニ六ケ月ノ交渉ノ經緯ト蘭側ノ心理ト四圍ノ情勢ヲ御考察ノ上船舶ハ別問題トシテ、輸出輸入各問題ニ付最後ノ我カ對案ヲ決定シ之ヲ不可分ノ一體トシテ蘭側ニ提示シ、之カ諾否ヲ强硬ナル態度ヲ以テ要求シ以テ會商ノ成否ヲ一擧ニ決定スルノ明確且ツ斷乎タル御方針ヲ確立セラレム事切望ニ堪ヘス、右ノ方針御決定ノ上ハ一日モ速ニ先方ニ提示シ會商ヲ促進セシメタク、左ニ當方作成案ノ趣旨並ニ意見具申ス

一、蘭側ノ欲スル所ハ輸出增加特ニ砂糖ノ買附ニアリ、此儘會商不成立ノ場合明年ヨリ砂糖一俵モ日本ニ賣レストナレハ一大事ナリ、日本側ノ强味モ亦茲處ニ在リ、加之經濟不況ノ爲ニ日本品ノ輸入ナクシテハ蘭商モ蘭印市場モ立往カサル事モ亦我方ノ强味ナリ、故ニ輸出ト輸入トヲ不可分ノ一案トシテ提示スルコト肝要ナリ。

二、輸入問題ニ就テハ既ニ論議シ盡シ、蘭側ノ底意ハ今日蘭印市場ノ非常狀態ハ日本品及日本人ノ異常ノ進出ニ依リ三三年ノ事態ヲ現出セルヲ以テ、右年度基準ノ邦商比率及輸入數量ハ絶對ニ認諾シ得ス、政府カ非常時對策トシテ既ニ「ライセンス」制ヲ確立セル立場上又現內閣カ「バーター」制經濟政策ヲ一政綱トシテ標榜セル立前ヨリモ、其根本原因タル三三年ノ異常經濟狀態ヲ確認スルカ如キ日本ノ提案ニハ同意シ得スト云フ點ニアリ、右ノ二點ハ今後更ニ論議說得ニ力ムルトモ其甲斐ナク、先方カ飜意スル事ナキヲ確信ス、飜テ三五年以後ノ市場ヲ考察スルニ三三年ハ日本品ノ市場好況見越ヨリ重要輸入品ハ

約二割見越ノ輸入、三四年ハ輸入制限令見越ニ依リ略同樣（既發制限令麥酒「セメント」晒「サロン」ヲ除キ）ノ輸入品持越トナルヘシトハ當方ノ調査並ニ主タル邦商一般ノ豫測ナリ、從テ三三年度ノ重要輸入品ノ數量ハ大體飽和點以上ト見ルヘク、當地市場不況ノ日ニ深刻ナラムトスル情勢ニ照シテ、明年度以後二三年間ハ右飽和點以下ニ於テ二割位ノ制限減縮ハ合理的ナル計算ト云ハサルヘカラス、往電品目表數量ハ實ニ以上ノ諸點ヲ考慮シ蘭側ノ提案ノ形式ニ準シ政策上、先方ノ面子ヲ立テ實質上我希望ヲ包容スルモノニテ、名ヲ捨テ實ヲ採ルノ考案ニ出テタリ、既ニ三三年數量實績ヲ固守セサルモノナルヲ以テ、本案ハ此上妥協ノ餘地ナキ最終案トシテノミ提出スヘキハ勿論ナリ。

邦商ノ輸入比率モ曩ニ五割乃至一割ノ提案ヲナシ置キタルカ、今ヤ當方調査ノ實績ヲ基礎トシ立案シ之モ最終案トシテ提出スヘシ、（兩三日中ニ電報スヘシ）、制限品目外ノ商品ニ對スル保障問題ハ貴電ノ如キ有利ナル條件ヲ受諾セサルヘシト思考スルモ、右ハ一應提案シ結局日印間保障規定（貿易調節條項）ニ落付クモノト豫想ス。

三、輸出問題ニ就テハ砂糖買付量ニ付貴電ノ確定案前記二ト同時ニ提出可致ク、先方ノ案ニ付一々檢討スル態度ハ此ノ際得策ニ非ス、本電ノ冒頭所述ノ理由ニ依リ其數量モ本年度ノ買附モ再輸出ノ條件モ凡テ之ヲ一蹴シ、唯我方ノ最後案ヲ押附クルノ態度ニ出ツヘク、

其他ノ輸出品ニ就テハ第一ニ輸出障碍ノ除去問題ノ解決ヲ迫リ、第二ニ他ノ輸出增進ノ爲ニハ兩國政府ノ推奬ノ下ニ當業者間ニ協力會商セシムル事トシタシ。

尤モ砂糖數量問題ニ就キ先方ニ於テ最後ニ年二十萬噸又ハ二十五萬噸ニテ妥協ヲ申込ミ來ル場合、他ノ凡テノ問題我方ノ要求ヲ全部容ルル事ノ交換條件トシテ之ヲ應諾スルノ御意向ノ有無至急御攻究ノ上御回電置ヲ乞フ。

以上ノ趣旨ニテ輸入輸出諸問題ノ總括的提案作成ノ爲既ニ輸入品目數量及比率ニ關シ請訓セル次第ナルカ右諸案ハ一括上程シ蘭側ニ於テ應諾シ會商ノ圓滿解決ヲ得ハ幸ナルモ、萬一之カ爲ニ會商決裂又ハ中止トナルトモ、右總括案ヲ發表セハ中外ニ對シテ帝國ノ公正且ツ合理ナル立場ヲ宣明シ得ヘシト確信ス。

十一月二十八日廣田外相發。

一、往電關聯案ニハ反對ノ御趣旨ニ認ラルル處、貴電一記載ノ輸出ト輸入トヲ不可分ノ一案トス云々ニ於テハ輸出入ヲ如何ナル關係トセラルル御意向ナリヤ。

二、貴電ノ末段制限品目外ノ商品ニ對スル保障問題ニ付テハ、日印間保障規定ノ如キ方法ノ外ニモ、假ヘハ制限外品目ニ對シテハ嚴トシテ制限措置ヲ執ラサルコトトシ、萬一特殊ノ事情ノ爲或品ニ對シ制限ヲ行フヘキ必要生シタル場合ハ事前ニ之ヲ我方ニ通告シ其方法ニ付協議スルコトモ一案ナルヘシト思考セラル。

十一月二十八日來栖局長ヨリ木村顧問ヘ。

長岡代表發累次ノ電報ニ關シテハ關係省及當業者ヲ督促シ折角具體案ヲ煉リ居レル次第ナル處、我方ニ於テ幾何ノ砂糖ヲ購入シ得ヘキヤノ問題ハ結局「ノウマル」以上ノ砂糖輸入ニ依ル損失ヲ輸出業者カ採算上

幾何迄負擔シ得ルヤニ依リ決スヘキモノナルニ付、右趣旨ニテ過般來斡旋中ナルカ、輸出業者トシテモ砂糖購入ニ依リ幾何ノ損害ヲ蒙ルヘキヤノ點明カナラサル限リ、容易ニ諾否ノ回答ヲナシ得サル事情ナリ、爲ニ彼等ニ對シテハ大體一九三三年及一九三二年夫々ノ年度ニ於ケル對蘭印本邦商品輸出數量實績ノ中間位ノ數量カ保障セラルルモノトシ、且ツ日本商取扱比率ハ右保障數量ノ二割見當ト假定シ、右ニ依ル損得ヲ算盤ニカケタル上其砂糖購入數量ヲ提示スル樣要求シ置ケリ、就テハ將來ニ於ケル蘭印不況ノ爲本邦商品ノ蘭印輸入カ前記數量ニ達セサルコトアル場合ニハ彼等ノ砂糖買付量增加ニ依ル數量モ亦之ニ應シ遞減セラルヘキモノナルニ付、貴電ニ豫想セラルル輸出輸入不可分案ハ結局往電ノ趣旨即チ一定量ノ砂糖買付ト日本品輸入總量及比率ヲ關聯セシメ、其何レカノ增減ニ伴ヒ他方モ增減セシムルコトニ落着クモノト思考スル次第ナリ。

十一月二十九日長岡發。

貴電御質疑ニ關シ左ノ通リ回答ス

一、往電ノ輸出案ト輸入案トハ共ニ最後案ニシテ且ツ前者ニハ同意シ後者ニハ反對又ハ修正ヲ要求スル事ハ許サス、兩案一體ヲ成シ不可分ノモノナリトシテ先方ニ提出シ「イエス」又ハ「ノー」ノ回答ヲ要求スルノ意味ナリ、輸出入其ノモノノ關係ヲ云フモノニ非ス、從テ貴電ノ關聯トハ全然性質ヲ異ニス。

二、保障問題ニ關スル御注意ノ點ハ當方ニ於テモ夙ニ研究濟、最後案ニハ一應往電ノ通リ主張シ、尙ホ多少交渉ノ餘地ヲ殘ス心組ナリ、御申越ノモノモ第二案トシテ考量シ居リ、唯タ最終ノ歸着點ニ關スル當

方ノ豫想ヲ申上タル迄ノ事ナリ。

十一月二十九日木村顧問ヨリ來栖局長ヘ

一、貴電ニ關シ砂糖問題ニ關スル御心勞一同感謝シ居レリ、併シ紡績其他ノ輸出業者ノ申分ニ對シテハ前電ニモ述ヘタル通リ補償ハ輸出ノ當初ニ於テ商品ニ轉嫁セラルルモノニシテ、結局蘭印市場カ負擔者タリ、今日迄紡績及輸入業者ノ小生ニ語ル所ハ世界ノ他ノ市場ニ於ケル輸入拘束制限ト生産力設備ノ擴大トノ爲「ダンピング」ニ近キ迄輸出價段ヲ切下ケテモ市場確保ノ必要ニ迫ラレ居リ、一分ヤ二分ノ補償ハ推積ノ恐アル「ストック」ノ利潤ノ餘地ヨリ見レハ問題ニ非スト思考シ居リ、現ニ紡聯代表ハ本部ノ指示ニ依リ一九三三年數量引下ケニ反對ノ理由トシテ假令市況不味ナリトモ數量ハ如何程多クモ立派ニ「ダンピング」ニ近キ市價引下ニヨリテ充實セシムヘシト豪語シ居ル程ナリ、蘭印不況ノ爲本邦商品輸入カ當方提案數量ニ達セサル事ハ萬々之ナシ、綿糸布以外ノ大ニ減少ノ恐アル商品ニ就テハ數量ニ手加減シ有リ、砂糖買付量ヲモ之ニ應シ遞減スル事ハ實際問題トシテハ起リ得サルヘク、唯考慮ニ値スルハ我最後案以上ノ砂糖買付量增加ニ伴フ輸入「ライセンス」遞增問題ナルカ、此方ハ和蘭側カ絶對ニ反對スヘシ。

二、邦商取扱比率ノ問題ヲ砂糖買付量ニ關聯ヲ保タシムルトノ貴考案ハ了解ニ苦シム、砂糖買付保障ハ輸出業者カ負擔シ商品ニ轉嫁スルモノニシテ邦人輸入商カ負擔スルモノニ非ス、間接ニ負擔スルトシテモ蘭人輸入商モ同樣ナルヘシ、輸入商品數量ト輸出砂糖數量トノ關係ハ一應了解シ得ルモ此點ハ如何ナル

モノニヤ、又貴電中日本商取扱比率ハ保障數量ノ二割見當ト假定セラルルモ、之レハ日本側ノ極力反對シ再三蘭國政府ノ決心ヲ促シ居ル點ニシテ、我方ノ最後案ハ少クトモ保障數量ノ三割五分見當ナル事從來ノ當方主張累次ノ電報ニヨリテモ御洞察ノ事ト信ス。

三、此ノ際本省ノ代表部電報ニ對スル取扱方ニ關スル當方ノ觀測忌憚ナク御耳ニ入レ置キタシ、前項比率問題ト同樣ニ貴電ノ質問一ノ如キ往電ヲ親切ニ讀マルレハ疑ナキ筈ナリ、若シ夫レ二ニ至テハ子供ニ對スル御注意ノ如クニテ專門委員モ不快ニ感シ居レリ、甚タシキニ至テハ貴電ノ五十六種制限案ト蘭側新提案トノ關係就中一割五分ノ數字ノ考察ノ如キ、當方ニ於テハ了解ニ苦シム所ナリ、近來本省ハ會商問題ニハ厭氣サシ果シテ眞面目ニ我方電報ヲ精讀シ居ラルルヤヲ疑フニ至レリ、實際六ケ月ニ及フ暑熱ノ下ニ殊ニ茲處四週間ノ苦熱ノ中ノ部員ノ惡戰苦鬪ハ御想像ノ外ナリ、品種別ヤ數量ヤ比率ノ計算ノ如キ到底御想像ニモ及ハサルヘク、先月來大使小生ヲ除キテ事務員全部順次ニ病ニ罹リ入院臥床セシガ、最後ノ大切ナル時機ナリト奮起セル此際、前記ノ如キ見當違ヒノ質問電報ニ接シテハ失望スヘキハ當然ナリト愚考ス。

四、海運問題ノ最近ノ解決ハ全ク我主張ノ公正合理ナル事ト之ヲ押附ケル我方ノ强硬ノ態度ニ因ルハ御承知ノ通リナリ、蘭人ノ心理狀態ニ對スル工作ハ之レデナクテハナラヌ、會商本題モ之ト同樣ナリ、此ノ際往電最後案起草ノ趣旨、之カ提出ノ態度ノ問題、今一度御精讀ヲ乞フ。

十二月一日來栖局長ヨリ木村顧問ヘ。

代表部ノ腹臓ナキ御所感ニ接シ拜謝、長岡代表始メ部員御一同酷暑ノ下ニ於テ御奮闘ノ御苦勞ハ充分拜察感謝シ居リ、會商經費追加豫算提出ノ關係上臨時議會大臣應答中ニモ其意味ヲ加味スル樣用意シ居リタル次第ナリ。往電ニ關シテハ多少誤解アル樣推察セラルルニ付、當方質問ノ經緯左ニ說明ス。

一、若シ我政府カ砂糖買付ケヲ「レコンメンド」スル丈ケニテ蘭側カ貴電提案ヲ受諾シ、其意味ノ申合セヲ遂クル丈ケニテ會商カ終了スルモノトセハ、勿論我方トシテ何等異存ナキ次第ナルモ、恐ラク先方ハ砂糖買增促進ノ具體化ヲ求メ、結局既電ノ如キ關聯案ニ落付クモノニ非スヤト思考シ、往電一ノ質問ヲ爲シタル次第ナリ。

二、邦商取扱比率ノ高下カ在留邦人ノ休戚ニ重大ナル關係アルハ勿論、輸入本邦商品ノ數量ヲ確保シ得タリトスルモ取扱ヲ蘭商ノ壓倒的「コントロール」ニ委スル時ハ、蘭商ハ日本ヨリノ買入レニ際シテハ其價格ヲ叩キ、一方蘭印市場價格ハ出來得ル限リ釣上ケヲ計ルコト必然ニシテ、利潤ヲ大ナラシムル爲ニハ必スシモ數量ノ多キヲ求メサルヘク、其結果或ハ本邦品ハ輸出數量、輸出價格トモニ減少スルニ至ルヘキヲ以テ、當方ニ於テハ砂糖買付增加ニ應シ邦商取扱比率ヲモ增加セシメント欲スル次第ナリ、又日本商取扱比率ヲ二割見當ト假定シタルハ、當業者ヲシテ砂糖買付ケノ具體的數量ヲ算出セシムルニ際シ比率ヲ內輪ニ見積ル方安全ナリト思考シタルニ外ナラス、決シテ比率ヲ二割ニ落付ケント考ヘ居レル譯ニ非スシテ、右ニ付テハ貴方作製比率案ヲ俟チテ當方態度ヲ決定セント欲シ居レル次第ナリ、尙ホ輸出業者ノ負擔ヲ消費者ニ轉嫁シ得ル程度モ貴地市況ニ依リ限度アルコト勿論ナリ。

（以下ハ辯解ニテ無用故省略ス）

越田代表ハ其後引續キ「ヘルデレン」教授ト折衝シテ居タ、其主タル會談要領ヲ左ニ揭ク。

十二月一日會談

一、「ヘ」ハ本日接受シタル磐城「アネタ」電報ヲ示シ、日本側ハ本會商ヲ終了セシムル爲準備シツヽアリトノコトナルカ果シテ如何ト問ヘルニ付、越田ハ日本代表部ニ於テハ本會商ヲ鋭意成功ナラシメンガ爲最後案ノ作成ニ努力シツヽアルモノナレハ、會商終了ト云フカ如キ意嚮ヲ洩ラシタルコトナシ、多分蘭印ノ諸新聞カ本會商ヲ終了セシムヘシトノ論說ヲ度々繰返シ居ルニ付、新聞通信員カ讀ミタル後之ヲ日本ニ通信シタル結果ニ非スヤト想像セラルト云ヘルニ、「ヘ」ハ單純ニ終了セシムルコトハ世間ノ誤解ヲ招クニ付成ルヘク短期間ニ再開セシメ度キモノナリト云ヘルヲ以テ、越田ハ嘗テ長岡「ランネフト」會見ニ於テ本會商ヲ終了セシムト云ハス中止ト云フ方可ナルヘシトノコトニ意見一致ヲ見タルカ如キハ此點ヲ考慮シタル次第ニ他ナラサルヘシト答ヘタリ。

二、「ヘ」ハ目下越田ノ手ニ於テ作成シツヽアル海運及通商問題ニ關スル共同報告書案ニ付尋ネタルニ付、越田ハ兩三日中ニハ謄寫ノ上「ヘ」ノ手許ニ送付スヘシト答ヘ、次テ「ヘ」ハ日本側ヨリノ對案ハ何時入手出來得ヘキヤト問ヘルニ付、越田ハ兩首席會見ノ際提出スルコトヽナルヘシト告ケタル處、「ヘ」ハ右對案中ニハ砂糖買付ニ關スル事項ヲモ包含スルヤ、例ノ必須條件不再輸出ハ如何ト尋ネタルヲ以テ、越田ハ砂糖買付ニ關スル事項ヲモ包含スヘキモ貴方ノ所謂必須條件ハ日本政府ニ於テハ絕對ニ受諾セサ

ルヘシト答ヘタルニ、「ヘ」ハ然ラハ日本對案ハ「アクセプタブル」ニ非サルヘシト云ヘルヲ以テ、越田ハ貴代表部ニ於テハ或ハ受諾出來ズトスルモ蘭本國政府ハ受諾スルニ非スヤト思ハルヽヲ以テ、右對案ヲ提出シタル場合ニハ貴本國ノ意嚮ヲ聞キタシト述ヘタリ。

三、「ヘ」ハ兩首席會見ノ上此會商カ終リヲ告ケタル場合、短期日例ヘハ二週間位ニテ海牙又ハ其他ノ箇所ニ於テ會商ヲ再開シ得ヘキヤト問ヘルニ付、越田ハ本會商カ終リヲ告ケタリトセハ日本代表部ハ當地ヲ引揚クヘク、直チニ便船アリタリトスルモ東京着迄ニハ約二週間ヲ要スヘク、日本政府ハ日本代表ノ報告ヲ受ケタル上ナラデハ再開スルヤ否ヤヲ決定スル事能ハサルヘシト思ハルヽニ付、カク短期間ニ再開ハ不可能ト信スト述ヘタリ。

四、「ヘ」ハ日本側ハ海牙ニ於テ會商スルコトニ同意スヘキヤト問ヘルニ付、越田ハ此問題ハ簡單ニ答フルコトヲ得ス、尠クトモ日本代表トシテハ本國政府ニ問合ハス必要アルヘク、之カ爲ニハ貴國政府ノ意嚮ヲ知ルヲ要スヘク、本會商ノ場所決定ニ當リ貴國政府ハ最初海牙ヲ主張シ日本ハ東京ヲ主張シタルコトアルニ付、若シ今後貴國側カ海牙ヲ申出スル場合ハ日本トシテハ東京ヲ主張スルヤモ知レスト思考スト答ヘタリ。

十二月三日會談

一、越田ハ去ル土曜日ノ會談ノ續キトシテ尋ネ度キコトアリト前置シテ、日本代表部ニ於テハ目下最後案作成ヲ急キツヽアルカ、此案ヲ貴方ニ提出スルトキハ貴方ハ近々開始セラレントスル海運ニ關スル神戸

民間會商ニ關係ナク、短時間例ヘハ二、三日間ニ「イエス」又ハ「ノー」ノ確答ヲ爲シ得ヘキヤト問ヘルニ、「ヘ」ハ蘭側代表部ハ日本側ノ對案ヲ入手セハ直チニ研究シタル上「イエス」又ハ「ノー」ノ回答ヲナシ得ヘク、例ヘハ砂糖買付ニ關スル事項中蘭側カ砂糖買付其ノ物ト同一程度ニ重要視スル例ノ必須條件カ滿足セラレストセハ直チニ「ノー」ト答フヘシト云ヘルニ付、越田ハ實ハ日本代表部トシテハ日本ノ最後案ヲ提出シタル場合ニ貴方カ直チニ回答セスシテ再在時間ヲ空費スルカ如キハ迷惑ナルニ付此ノ點ニ付念ヲ押シ置キ度キ爲ナリト云ヘルニ、「ヘ」ハ蘭代表部ハ全權ヲ有スルニ付數日中ニハ回答シ得ヘシト繰返セリ。

二、越田ハ貴代表部カ日本代表部ノ最後案ヲ受諾シタル場合ハ問題簡單ナルモ、若シ拒絶スル場合ニ於テハ之ヲ以テ本會商ハ事實上終了スルコトトナルヘク、他方近々折角開始セラレントスル海運ニ關スル神戸民間會商ハ如何ナルヘキヤニ付本官ハ幾分ノ懸念ナキ能ハサル所ナリト云ヘルニ、「ヘ」ハ神戸會商ハ其儘進行セシメテ差閊ヘナカルヘシト答ヘタルニ付、越田ハ左樣簡單ニ行カサルコトヲ感スル次第ナリ詳言スレハ本會商カ事實上終了ストセハ蘭印側ハ若干ノ經濟的措置ヲ公布スルニ至ルヘク、此新措置ハ日本製造家、輸出業者及在蘭印邦商ヲ「エキサイト」セシメ、延イテ海運會商ニモ累ヲ及ホスノ惧アルコトナリト述ヘタルニ、「ヘ」ハ蘭印側トシテハ既ニ若干ノ新措置公布ノ準備成レルモ今日迄遷延セシメ居リタル次第ナレハ、是レ以上ノ延期ハ不可能ナルヘシト雖、右新措置中ニ於テモ今日迄ノ討議ニ於テ一致ヲ見タル點ニ付テハ右ニ準據セントスルモノナリト云ヘルニ付、越田ハ未タ主要問題ニ關シ討議上

一致ヲ見タル所ナキガ右ハ貴方提案中ニ示セル基準ヲ指スモノナリヤト反問セルニ、「ヘ」ハ然リト答ヘタル後、右ハ日本側ノ利益ヲモ考慮ニ入レ居ル次第ナレハ日本商人側ヲ刺戟スルコトナカルヘシト云ヘルニ付、越田ハ貴方ノ提案中ニ掲ケタル基準ハ日本側ノ滿足スル所ニ非サルニ付、本官ノ懸念ハ依然トシテ存在スヘシト述ヘタリ。

三、「ヘ」ハ來週末迄ニハ當地ヲ出發シ度キ心組ナルガ、日本側ノ最後案ハ今週中ニ提示ヲ受ケ得ヘキヤト問ヘルニ付、越田ハ目下急キツヽアルモ相當廣汎ニシテ之カ英譯及ヒ謄寫ニモ少カラサル時間ヲ必要トスルニ付、確定日ヲ明言シ兼ヌルモ成ルヘク早メルコトニ努力スヘシ、尤モ先刻云ヘル通リ日本最後案ニ付貴方ガ拒絶スル場合ニ於ケル反響ヲモ考慮セバ神戸民間會商ノ成行ヲ見ル爲一時日本案ノ提出ヲ延期スルコトモ一法カト思考セラルヽガ如何ト訊シタルニ、「ヘ」ハ神戸會商ハ其儘トシテ進展セシメテ可ナルヘク、蘭側トシテハ一日モ速カニ日本最後案ヲ入手シ度ク、袖手傍觀シテ時日ヲ空費スルコトヲ得スト云ヘリ。

四、「ヘ」ハ兩首席代表會見シテ妥結不可能ノ場合ニハ兩國民ヲシテ無用ノ誤解ヲ避ケシムル爲ノ「コムミユニケ」ヲ發表スルコト必要ト信ス、此「コムミユニケ」ハ私案ニヨレハ兩國親善ニ關スル適當ノ措辭ヲ取リ入レタル上、兩代表部ヨリ夫々提案ヲナシタルガ未タ意見ニ懸隔アルコト、從テ兩代表部ハ本國政府ノ決定ニ委スヘク、今後ノ商議ハ外交的手段ニヨリ行ハルヘシトノ意味ヲ含マセ度シト云ヘルニ付、越田ハ此「コムミユニケ」ハ甚タ重要ナルヘク、特ニ最後ノ文句ノ如キハ日本政府ノ承認ヲ受ケス

シテハ之ニ同意スルコトヲ得サルヘシト私考スルヲ以テ、其私案ノ寫ヲ得バ當方ニ於テ一應考慮シ置クヘシト云ヘルニ、「ヘ」ハ右ハ全クノ私案ナレハ明日「ラ」トモ篤ト相談ノ上寫ヲ送付スヘシト答ヘタリ。

五、越田ハ先程貴官ハ來週末當地ヲ出發シ度シト述ヘラレタルカ、蘭代表部ハ貴官ナクトモ商議ハ繼續差閊ヘナキ儀ナルヤ、自分丈ノ參考トシテ承知シ度シト云ヘルニ、「ヘ」ハ本國ヨリ屢々歸朝ヲ促カシ居リ右ハ米、伊等トノ通商事務ノ關係モアル儀ナルカ、他方「ラ」氏ハ本會商ニ關シ「バラフェー」ノ權ヲ有スルニ付自分ノ存在ハ必スシモ必要ナラス、自分ハ蘭印ノ官吏ナルカ待命トシテ蘭本國植相「コライン」氏ノ直隷事務ニ鞅掌シ居ルモノニ他ナラス、歸國セハ此等通商關係ニハ依然從事スル次第ナリト述ヘタリ。

六、越田ハ神戸民間會商ニ關聯シテ貴方ノ意嚮ヲ知リ度キガ、若シ「バタヴヰヤ」會商ガ不成功ニ終リタルニ反シ他方神戸會商カ妥結ニ達シタリトセバ、此民間會商ニ付蘭政府ハ承認ヲ與フヘキヤト問ヘルニ「ヘ」ハ蘭側トシテハ海運問題ニ關スル協定事項ヲ包含セザル通商協定ニハ發効セシメサル意嚮ナルカ、右ト反對ナル場合ニ付テハ蘭側ノ主張スル基本原則カ採用セラルヽ限リ私見ニヨレハ發効セシメ差閊ヘナシト思考スルノミナラス、假令此「バタヴヰヤ」會商カ不調トナルモ外交手段ニヨリ何トカ協定ニ達スルコトヲ得ヘク、若シ海牙ニ於テ日本公使ト蘭當局トノ間ニ交渉スルコトヽナラハ、「バタヴヰヤ」會商ニ於テ既ニ基礎的事項ハ殆ント全部出來上リ居ル儀ナレハ日本公使館側ニ於テモ二、三ノ增員ノ外別

ニ多數ノ人員ヲ必要トセサルヘク、普通ノ外交手續ニテ取扱ヒ得ヘシト思ハルト答ヘタリ。

越田ハ貴方ニ於テハ本會商終了ノ場合海牙ニ於テ再開ヲ希望セラル、如キガ、右ハ蘭代表部及ヒ蘭本國政府ノ意見ナリヤ將又貴官ノ個人的考ナリヤト問ヘルニ、「ヘ」ハ愈々本會商ヲ終ル場合ニハ蘭代表部ヨリ申出スルコトアルヘキモ目下ノ所個人的ノ考ニ他ナラスト答ヘタリ、越田ハ貴方カ第二次會商地トシテ海牙ヲ主張セラル、場合ニハ正當ナル理由ヲ知ルニ非サレハ本國政府ニ之ヲ取次クコトヲ得サル儀ナルガ如何ナル理由アリヤト尋ネタルニ、最初本會商ヲ開催スルノ協議ガ蘭政府ト日本公使トノ間ニ海牙ニ於テ行ハレタルコト、海運會商ヲ神戸ニ於テ開催スルコトニ讓リタルコトヲ擧ケ得ヘシト述ヘタリ。

十二月四日會談。

一、「ヘ」ヨリ口ヲ切リ昨日會談ノ際話シタル兩首席代表會見ニ當リ發表スヘキ「コムミユニケ」ノ案文ヲ貴官ニ內示スル事ニ關シ、「ラ」及蘭代表部トモ篤ト協議シタル處、兩首席代表ノ會見ニ先立チ右案文ヲ內示スルハ恰モ本會商ノ終了ヲ豫期スルカ如キ感シヲ與フルヲ以テ面白カラストナスニ一致シタリト云ヘルニ付、越田ハ貴官ノ「フランクネス」及「ラ」ノ「ブルーデンス」ヲ「アクノーレヂ」スト述ヘタリ。

二、越田ハ日本カ最後案ヲ提示シタル上ハ其後ノ會商ヲ海牙ニ移サレ度キ旨ヲ昨日話サレタルカ、假令海牙ニ移ストスルモ日本側ハ砂糖買付ニ關スル附帶條件ヲ受諾セサルハ明瞭ナルヲ以テ、貴國側カ此條件ヲ讓歩スルノ覺悟ナキ限リ何等進展ヲ見サルヘキハ想像ニ難カラサル義ナルガ、或ハ環境ノ變化ニ依リ妥結ニ到達スルノ可能性アリヤト問ヘルニ、「ヘ」ハ若シ双方トモ互讓的態度ニ出テサル限リ事態ハ同一

ナルヘキモ、個人的考ニ依レハ海牙ニ於テ會商セハ一層迅速ニ取運ヒ得ヘシト思ハルト答ヘタルニ付、越田ハ若シ本會商カ終リヲ告ケ我代表部カ引揚クルトセンカ、日本政府ハ我首席代表ヨリ詳細ナル報告ヲ受ケ海牙會商ノ必要及可能性ヲ認メタル上ナラテハ之ニ應セサルヘキニ因リ、海牙會商開催迄ニハ相當ノ日子ヲ要スヘク、代表部ノ報告如何ニ依リテハ海牙會商ヲ受諾セサルヤモ知レス、從テ迅速ニ妥結ニ達セントスル爲海牙ニ移サントスル事ハ却ツテ事ヲ遲延セシムル結果トナルノ惧ナキヤト述ヘタルニ「ヘ」ハ今日迄ニ於テ既ニ代表部ニ於テ具體的及數字的調査ヲ爲シ基礎出來居レルニ付、今後ハ和蘭政府ト在海牙日本公使トノ間ニ於テ直接會商スル事ニ依リ手續簡單トナリ案外捗取ルニ非スヤト思考セラルト附言セリ。

三、海牙ニ於テ交渉スル事カ當地ニ於ケルヨリ一層便利ナリトスル他ニ理由アリヤトノ越田ノ質問ニ對シ「ヘ」ハ當地ニ於テハ新聞其他ニ於テ種々揣摩憶測ヲ逞ウシ有害ナル評論ヲ加フルニ因リ會議ノ進捗ヲ害スルコト大ナルカ、海牙ニ於テ和蘭政府ト日本公使トノ間ニ於テ行フコトトセハ秘密モ十分保タレ斯カル妨害ヲ避クル事ヲ得ヘシト答ヘタリ。

四、海運問題ニ關スル共同報告案ヲ手交シツツ今後ノ手續ニ付、越田ハ右報告ト一兩日中ニ手交スヘキ輸出入ニ關スル共同報告案トカ完成シタル上、兩首席代表カ會見シ日本代表ヨリ日本提案ヲ交付シ、右ニ對シ貴代表部カ回答スヘク、若シ其回答カ否定的ナル時ハ兩代表部ハ夫々本國政府ニ最後ノ決定ヲ仰クヲ順序トスヘキ筈ト思考スル處、新聞ニ依レハ貴官ハ來週水曜日（十二日）ニ出發セラルルトノ事ナル

カ、本國ヨリノ訓令ヲ俟タス出發セラレントスルハ不調ヲ見越シ居ラルル樣察セラルルカ果シテ如何ト訊ネタルニ、「ヘ」ハ右ハ一應尤モナリ、併シ自分カ主務大臣ヨリ歸朝ヲ督促セラレ居ル事ハ昨日話シタル通ニシテ、今迄モ度々出發ヲ豫定シテ延期シ來レルモノナルカ、實ハ日本ノ提案ヲ入手シタリトスルモ其內容ニ付テハ大體想像ニ難カラス、貴方ハ既ニ表明セラレタル通リ砂糖買付ノ附帶條件ヲ拒絕セラルヘク、輸入表ニ付テハ多數品目ノ增加ヲ又輸入商取扱比率ニ付テハ一層ノ增率ヲ要求セラルヘキニ付右ハ蘭側ノ受諾シ得ヘカラサルモノナルヘク、從テ右ニ對スル蘭側對案ヲ日本代表部ニ提出シテ本會商ヲ終ルノ外ナカルヘシト思考スト述ヘタリ。

五、越田ハ昨日會談ノ際蘭印政府ハ更ニ經濟的措置ヲ執ルノ準備ヲナシ居ル樣承知シタルカ、本會商カ終了シ第二次會商カ開始セラレサル期間ニ於テ幾多新措置カ公布セラレタリトセハ、日蘭印通商關係上重大ナル惡影響ヲ來スノ惧アルヘシ、在蘭印邦商及蘭印貿易ニ關係アル日本內地ニ於ケル製造家及輸出業者ハ結束シテ適當ナル保護ヲ日本政府ニ請願スヘク、其結果場合ニ依リテハ日本政府ハ通商擁護法ノ發動ヲ餘儀ナクセラレ、遂ニ經濟戰ヲ惹起スルニ至ルヤモ計リ難ク、事態斯クナル場合ニハ第二次會商ノ如キハ簡單ニ開始スル事ヲ得サル事トナルヘシト云ヘルニ、「ヘ」ハ既ニ說明シタル通リ蘭印ノ新措置ハ日本側ノ利益ヲモ考慮ニ入レ居ルモノナルカ、蘭印政府トシテハ假令日本側ニ不利ヲ來タス事アリトスルモ蘭印カ國策上必要ト認メ居ル措置ヲ延期スルコト能ハサルヘク、尤モ斯カル危險ヲ少ナカラシムル爲ニハ會商中止期間ヲ可成短カクスル事ハ望マシキ所ナルノミナラス、此期間中ヲ調整スル方法ヲ發見シ得レハ結構ト思考スト云ヘルニ付、越田ハ右ハ何ヲ意味スルヤト尋ネタルニ、「ヘ」ハ「モーヅス・ヴキヴンデイ」ノ事ナルガ、自分ノ考ニ依レハ蘭印カ新措置ニ對スル保障ヲ爲スニ對シ、日本側カ輸入增進ヲ約スルノ條項ヲ包含スル事ヲ必要ナリト信スト云ヘルニ付、越田ハ例ヘハ砂糖若干ヲ買付ケルカ如キ事ヲ約スル事ハ困難ナルヘク、若シ之カ出來ル位ナラハ會商其ノモノカ成功スヘキ筈ナリ、尤モ貴方カ日本側ニ於テ輸入增進方ヲ勸奬スヘシト云フ位ニテ滿足セラルルナラハ必スシモ不可能ニハアラサルヘク、又即時ノ思附ニ過キサルモ日本側カ輸出ヲ統制スル事及場合ニ依リ積止ヲセサルカ如キ事ヲ約スル程度ナラハ、一應考慮ノ餘地アルヤニモ思ハルト告ケ置ケリ。

六、越田ハ自分限リノ情報トシテ承知シ度キカ、貴官ハ何故歸朝ヲ急カルルヤト尋ネタルニ、「ヘ」ハ極メテ內密ノ話ナルカ「コライン」植相ヨリハ重要ナル事務山積シ居ルニ因リ屢々歸朝ヲ督促セラレ居リ、又「コライン」植相及其左右ノ者ヨリ蘭印ノ高官ニ達シタル情報ニ依レハ、「バタヴキヤ」會商ハ之レ以上遷延セシメサル事、一層迅速ナル方法ニ依リ第二次會商ヲ行ヒ度シトノ意向ナルカ如シト答ヘタリ。

七、差當リノ處置トシテハ兩首席代表會見ノ前提タルヘキ共同報告書ノ完成ヲ急キ且ツ日本側ノ對案問ニ合フニ於テハ今週中ニモ兩代表ノ會見ヲ取計フコトニ協議セリ。

我々ハ「ヘルデレン」教授カ責任ヲ以テ話シ居ルコト、考ヘ、之ニ信賴シテ前記諸會談ヲ綜合推理ノ上意見ヲ立テ、十二月五日左ノ如ク廣田外相ニ上申シタ。

十一月二十九日神戶民間會商ニ同意セシ以來會商ニ關スル蘭印側ノ情勢急ニ變化シタル兆候アリ、殊ニ蘭

倘代表ノ重鎮タル「ヘ」ハ急ニ歸國ノ準備ヲナセル由ナルヲ以テ、十二月一、三、四日連日越田ヲシテ「ヘ」ト會談內情探究セシメタル處

(一) 蘭印側ニ於テハ日本側ノ最後案ナルモノモ結局砂糖買付ニ伴フ絕對條件ト主張スル再輸出制限ヲ拒否スル事明白ニシテ、輸入問題ニ付テモ多數ノ品目增加ト輸入量、邦商比率トニ於テ蘭側ノ受諾シ得サルモノナリトノ見透ノ下ニ、內々會商決裂ノ準備ヲナセル事會談報告ニ依リ御了解ノ事ト信ス、他方未晒問題ニ付經濟省ハ再ヒ數量三三年程度邦商比率二割今後六ケ月乃至一年ニ亘ル新制限令發布ニ付日本ノ當業者側ノ積止解除ノ能否ヲ聞合セ方我領事館ニ申入レ、萬一之ヲ肯セサレハ蘭商ヲシテ高價ニ不拘本國ヨリ代用品ヲ輸入スヘシト脅嚇的態度ヲ示セルカ、我方ハ本問題ハ會商ニ依リ數週間內ニ決スヘキ事項ナルヲ以テ夫レ迄待テト回答セシムル筈ナルモ、右ハ蘭印側カ會商決裂ノ場合ノ後始末ノ準備ノ一例ト推察セラル。

(二) 然ルニ「コライン」ノ直屬タル代表「ヘ」ノ談話ヲ綜合スレハ、少クトモ蘭本國政府ハ一旦「バタヴヰヤ」會商ハ打切ルトモ、來春ニハ海牙ニテ再開シ今日迄ノ討議對案ヲ基礎トシ更ニ双方互讓セハ解決ノ途アルヘシトノ見込ナルカ如ク、將又「バタヴヰヤ」ニテハ巨商連ノ裏面運動ヤ經濟省屬僚一派ノ頑迷トノ爲ニ互讓ニ好都合ナル空氣ヲ亂スノミナリトノ考ヘラシク、一方海運問題モ神戸會商ニ依リ何時頃解決ノ見込附クヤ不明ナル故、今日通商問題ニ付急キ決定スル事ハ蘭側ヨリ見レハ不得策ナリ、海運問題ノ成行ト通商問題ノ成行トヲ相關的ニ考慮シツツ進捗ヲ計ルノ下心ナルヤニ推測セラル、從テ年末

ニ差懸リ新年明ケ迄ハ何レノ途休會ノ外ナキヲ以テ、先ツ日本ノ提案ヲ見テ之ニ對案ヲ提出シタル上ニテ、一應會商中止ト爲ス計畫ナリト思ハル。

(三) 以上ノ情勢ニ鑑ミ今日迄六ケ月ノ努力ノ結果ヲ完成シ得サルハ遺憾ナルモ、我方ニ於テモ寧ロ蘭本國思惑ノ通リ此ノ際「バタヴヰヤ」會商ヲ中止シ、海牙其他ノ場所ニテ新ナル氣分ト空氣ノ裡ニ再開スル事却テ會商ノ目的ヲ達成スルノ捷徑ナリト思考ス、果シテ然ラハ砂糖問題中ノ再輸出條件ノ爲蘭側カ我提案ヲ拒斥スル事明白ナルニ不拘此ノ際本省ニテモ御考慮中ノ眞ノ最後案ヲ提出スルハ不得策ニシテ寧ロ之ハ會商再開ノ際ニ最後ノ讓步トシテ持出シ妥協ニ利用スル方得策ナルヘク、貴電御申越ノ次第モアリ眞ノ最後案御決定モ遲延スヘク旁々、當地ニテハ累次ノ電報ヲ以テ請訓セル比率案輸入品種及數量案等ト貴電砂糖買付量無條件五十萬噸案トヲ相關不可分ノ一體トシ、尙ホ之ニ同貴電砂糖買付量ノ遞增ニ伴フ輸入特別「ライセンス」ノ遞增ヲ追加スル趣旨ニテ立案シ、我方ノ提案トシテ差出シ、蘭側カ豫想通リ拒斥シタル上ハ一旦會商中止トシ、來春再開ヲ仄カス「コムミユニケ」又ハ宣言ヲ爲スノ外ナシト思考ス。

(四) 結局曩ニ申進メタル通リ會商中止後ノ空氣ヲ惡化セシメサル工作ヲ要スルニ付、蘭本國ノ考ヘヲ助成シテ會商再開迄ノ措置トシテ出來得ル限リ我方ニ有利ニ殊ニ蘭印側カ準備シテ待チ構ヘ居ル新制限令ニ付一種ノ保障ヲ取付クルノ方式ヲ考慮スル事望マシク、此點ニ付「ヘ」カ「モーヅス・ヴヰヴエンデイ」ニ關シ越田ニ語レル語調ハ既報「ラ」ノ如キ鼻息ニハ非ス、又新制限令ト雖モ差當リハ未晒、陶磁

器位ニ留ルニ非スヤト思ハレ又數量ハ多分急ニ減セサルヘキカ、邦商比率問題ニ付最高二割ヲ頑强ニ固持スル事豫測ニ難カラス、之レ「モーヅス・ヴヰヴエンデイ」作成ノ大難關ニシテ、此條件ヲ受ケ入ルルニ於テハ會商再開ノ際我方ノ地歩ヲ著シク惡化スルニ付、如何ニシテモ先方カ最高二割ヲ固持シテ讓ラサル場合ニハ、寧ロ目下ノ紳士協定ヲ延長シ、再開迄新制限令發布ノ際ハ事前ニ當方ト打合スル事ニ取極ムル方得策ナルカ如ク思考セラル、ソハ兎ニ角前掲（三）提案ニ關シ至急御承認ヲ請フ。

同日發木村顧問ヨリ來栖局長宛電報。

長岡代表發電ニ關シ愚見開陳ス。

一、同電（二）蘭本國政府ノ會商再開ノ眞意當地ニテハ右以上ニ探究ノ方法ナシ、「ヘ」ハ何レノ途本月十二日出發歸國ノ筈ナルヲ以テ、蘭印側カ大體會商打切ニ進ムヘキ事確實ト思ハルル今日、東京又ハ海牙ニ於テ再開ノ眞意ヲ突止メ、寧ロ之ヲ奬勵シ出來得レハ其豫約ヲ兩政府間ニ内密ニ爲シ置キ、責メテ打切後ノ善後策ニ付我方ニ有利ナル地歩ヲ占ムルト共ニ、今日迄ノ「パタヴヰヤ」會商ハ單ニ中止スルノミニテ其結果ヲ基礎トシテ再開スルモノナリト宣明シ、本會商ノ無意義ナラサル事ヲ明ニスル事、政府及代表部ノ立場上肝要ナリト思考ス、御同感ナラハ早速工作ニ着手方御配慮ヲ乞フ。

（二）同電請訓ノ我方ノ提案中輸入品種及數量案ハ殆ント眞ノ最後案ニ近キモノナレトモ大體三三年數量ノ二割減、之ヲ日印會商ノ數量ノ三割減見當ナルニ見テ、政治的見地ヨリセハ會商再開ノ場合最後ニハ尙ホ少許ノ讓歩ノ餘地アリト愚考ス、其他ノ比率及附帶條件ニ至テハ之ニ比シ遙ニ讓歩ノ餘地アルニ付

尙ホ眞ノ最後ノ一歩手前ノ提案ニシテ、再開ノ際ノ討議ノ基礎ト爲スニ足リ、且ツ六ケ月ノ會商ノ結果トシテ中外ニ公表シテモ將來日本ノ立場ヲ善クシ得ル公正且ツ妥當ノ案ナリト確信ス、當業者側ニ於テハ種々苦情モアルヘキモ此ノ際會商中止ヲ覺悟ノ上ニテモ提出スヘキモノト御諒承ヲ乞フ。

三、砂糖問題ニ就テハ貴電ノ次第ハアルモ二十萬噸乃至二十五萬噸ハ眞ノ最後案トシテ交渉妥結ノ間際ニ提案スル事得策ナリ、又關稅引下案モ同樣ナリト思考ス、本電一ノ工作ノ結果次第ニテハ海牙ニ於ケル最後案ニ殘スコト得策ナルヘシ。

四、前項貴電ノ眞ノ最後案ヲ當方ヨリ突付クルノ工作ニ就テハ本省ノ御苦心充分推察シ居レリ、從テ冒頭往電ノ情勢次第ニテ近々長岡代表「ラ」ト會見ノ上當方ノ所謂最後案ヲ提出シ、之ニ對スル蘭側ノ對案ヲ見タル上、當地ニテ尙ホ會商妥結ノ餘地アル見込ナル場合ニ右貴電ノ趣旨ヲ含ミ形式上先方ノ提議トシテ突付ケシムル樣努力シ貴意ニ添フ樣致スヘシ。

本電大使ト打合濟。

右ト行違ヒニ左記ノ入電ガアツタガ、其後ノ重要電報ヲモ同時ニ左ニ掲グ。

十二月四日發來栖局長ヨリ木村顧問宛

一、關係省及當業者等ノ煮ヘキラサル態度ニ鑑ミ、眞ノ最後案ハ貴方ニ於テ今一應先方ト御折衝ノ上當方ニ突付ケラレタル後決定スルノ外ナシト思考ス。

二、砂糖業者ハ關稅引下及綿業者等ノ獨自輸入、内地投賣ヲ恐レ居ルモ、臺灣總督府ノ臺灣統治上ノ重大

問題ナリト爲ス議論ヲ矢表ニ立テ、拓務省ヲ代表者ニ立テ居ル事情ナリ。

三、砂糖關税引下ハ御承知ノ閣議決定モアリ、(砂糖業者モ薄々嗅付キ居ル模樣)少クトモ三割五分附加税徹廢ハ會商關係トハ別ニ問題トナリ居ルコト御承知ノ通ニテ、大藏當局モイザト成レハ考慮ノ底意ナルカ如シ。

四、三井、三菱等モ製糖業ニ投資シ居ル關係上痛シ痒シノ地位ニアルモ、物産ノ田島、商事ノ加藤ハ極メテ内密ニ總額二十萬噸ナラハ再輸出ニテ捌キ得ル見込ナル旨小生迄申出テアリ、尤モ品質ヲ注意シ及「ニバス」ノ實際賣値ノ最低ニ均霑ノ要アリ。

五、綿業者其他大阪方面輸出業者ニ對シテハ、最近若松下阪懇談ノ印象ニ依レハ、三四百萬圓ハ砂糖輸入損失補塡ノ爲捻出シ得ル見込、但シ綿布始メ各品目ノ輸入最高限取極ヲ嫌カリ居ルト共ニ、往電ノ事情ニテ取扱比率增加ヲ熱望シ居レリ、彼等ハ近々上京公式ニ返答スヘシ。

六、臨時議會終了(開期兩三日延期今週一杯位ノ見込)迄ハ各省當局ハ勿論小生モ政府委員ニテ協議困難右ノ事情御含ノ上一、ノ趣旨ニテ可然御措置アリ度、砂糖ハ既ニ拓務省承知ノ三年五十萬噸ニテ切リ出シ、適當ノ處ニテ御請訓アリ度ク、再輸出制限ハ絶對ニ駄目。先方カ本邦内地消費增加ヲ飽迄主張セハ三ノ事情御含ノ上先方案トシテ關税引下ケニ引張ツテ來ラレ度。

十二月七日廣田外相發

貴電ニ關シ

一、同電(三)ノ趣旨ニ基ク我方提案ヲ提出セラレ差支ヘナシ、(尤モ後記二、御參照)。尚ホ右ハ引續キ會商進行ヲ豫想セル當然ノ順序トシテ提案セラルル建前トサレ度シ、蓋シ「ヘ」ノ歸國ハ先方ノ都合ニシテ代表部員一名ノ出入ニ過キサルニ付、我方トシテハ何處迄モ會商妥結ノ爲引續キ努力スルモノナルコトヲ明瞭ニ致置キ度シ、從テ勿論御如才ナカルヘキモ中止云々ハ先方ヨリ之ヲ切リ出シタル場合ハ兎ニ角、當方ヨリハ之ニ言及セサルコトトシ度シ、若シ先方ヨリ之ヲ切リ出シ右貴電(三)末尾ノ通リ先方ノ回答アリタル上ハ、右回答ト共ニ中止スヘキヤ否ヤ及其善後措置等凡テ直ニ御請訓相成樣致度、右爲念。

十二月八日來栖局長ヨリ木村顧問宛

大臣往電ニ關シ

先方カ會商中止ヲ申出タル場合ト雖當方トシテハ「ヘ」ノ歸國ハ要スルニ先方ノ都合ニ出テ且ツ代表部委員一名ノ出入ニ過キサルニ付、報告等ノ爲長岡代表ノ歸國ハ或ハ已ムヲ得サルコトトナルトスルモ、越田姉齒等ヲシテ引繼キ會商ヲ繼續セシメ得ヘキヲ主張シ、先方ニ於テ其ノ上尚ホ且ツ中止ヲ固持スルニ於テハ、其事由ヲ求メラレ請訓セラルルコトト致度。右ハ大臣ニ於テ篤ト諸般ノ事情ヲ考慮セラレタル結果、自分ヲ議會ニ招致親シク訓令アリタル次第ナリ。

十二月八日接受武富公使發廣田外相宛電報

會商ノ成行ニ關スル當方面ノ情勢御參考迄。

一、近頃會商ノ進行ト共ニ彼我意見ノ懸隔大ナルモノアルコト顯著トナリタルニ失望シタル當方面ニ於テハ、最早ヤ會商ヲ何トカシテ取纒メントシタル最初ノ熱醒メカケ居ル模樣ニテ、寧ロ此ノ際ハナルヘク早ク體裁ヨキ退却ノ機會ヲ作ラントノ空氣、植民省ハ素ヨリ外務部內ニテモ濃厚トナリツヽアルモノノ如シ、尤モ表面的ニハ妥結ノ望ヲ捨テ居ラスト稱シ居ルモ、幹部級ノモノノ本使ニ對スル言葉付ニテモ右ハ察知セラルル處ニシテ、本使ハ機會アル每ニ妥結熱再起方種々應酬ニ努タツツアルモ、其効果ハ今日迄ノ處、未タ認メ得サルヲ遺憾トス。

二、當方面ヨリノ觀察ニ依レハ輸入制限措置モ又會商ノ遺方モ蘭印側ハ本國政府ノ既定ノ政策ヲ體シ其訓令ノ下ニ行動シツツアルモノニシテ、時ニハ親ノ心子知ラヌ程度ノ脫線振リハアリタランモ、實ハ終始一貫シテ（一）我ヨリノ輸入數量ノ制限（二）輸入品ノ分配機關カ邦商ノ手ニ獨占セラレントスル傾向ノ豫防（三）前記既定方針ノ緩和ハ一ニ互惠主義ニ基ク我ヘノ輸出量ノ增進ニ依ル（四）海運問題ヲ以上ノ三項ト關聯セシメテ有利解決ヲ計ルコトノ四大根本大綱ハ今日迄毫末モ變更シ居ラス、現ニ過日海運問題解決ノ曙光アリトノ「バタヴヰヤ」通信ニ關スル新聞記事中ニモ政府筋ヨリ出タリト推測セラルル意見トシテ、右ハ單ニ形式上日本側ニ讓步シタルノミナルカ、通商問題トノ關聯性ハ確實ニ留保セラレ居ルニ付蘭側主張ノ實質ハ何等失ハレ居ラスト放送セラレ居レリ。

三、當方面殊ニ外務部內ニテモ豫テ會商地移轉ヲ夫レトナシニ希望スルカ如キ口吻ヲ洩ラスモノアリタルハ事實ニシテ、本使ハ常ニ强ク之ヲ否定シ置キタル處、現ニ數日前一有力新聞記者ハ本使ニ對シ外務省

ノ某高官（名ヲ秘シ居レリ）ノ談トシテ同樣ノ言辭アルヲ直接聞込ミタリトテ內示シタルニ付、本使ハ夫レハ以テノ外ニテ今日トナリテ例ヘハ海牙ニ移シタリトテ我方ノ關スル限リ「バタヴヰヤ」ニテ出來ヌモノガ海牙ニテ出來ル筈ナシ、本使ハ絕體ニ反對ナリ、恐ラク日本政府モ反對ナラン、之ハ本使ノ所言トシテ所謂、某高官ニ傳ヘヨト酬ヒ置キタルコトアリ、思フニ一應中止シタル會商ヲ別ノ地ニテ再開スルコトハ現ニ他ノ歐洲諸國トノ會商カ幾度カ中止又ハ停頓ヲ繰返シツヽ手ヲ變ヘ品ヲ換ヘテ再開シツツアル現狀ニ照ラシ、蘭側トシテハ日蘭會商モ同一轍ヲ踏ミ得ヘキモノトシテ簡單ニ甘ク考ヘ居ルモノト察セラル。

四、卑見ニ依レハ本國政府トシテハ前記ノ四大綱ヲ變更スル意向ハ今日ノ處毫モ無之、寧ロ四圍ノ狀況ハ既定方針ヲ益々固守セサルヘカラサル破目ニ陷リツヽアルノ感アリ、今日迄ノ諸情報ヲ綜合スルニ現政府ハ如何ナル窮境ニ立ツモ金本位維持ノ決心牢固タルモノアルモノノ如ク、現ニ最近ニハ白耳義ノ金本位危フシト見レハ一億盾ノ公債スラ「ゴールド・クローズ」附ニテ「アムステルダム」市場ニテ應募ヲ決行セシメ、更ニ假リニ白耳義ノ一角ニテ金「ブロック」破ルトモ蘭ハ不便不利ヲ忍フヘシト半官的ニ聲明セシメ居ル有樣ナル一方、政府ハ現通商政策ノ徹底的實施ヲ企圖シ、其結果ヲ見タル上現政策ノ變改ノ要否ヲ決セントスルモノノ如ク、今ヤ現政策ノ總決算期トモ云フヘキ「デリケート」ナル時期ニ再會シ居ルヲ以テ、輸入制限措置ノ如キモ當分緩和ノ望ミ薄ク寧ロ徹底的ニ實施セントスルノ傾向アリ、「カトリック」黨ノ如キハ議會ニ於テ割當制ト輸入稅引上ケノ併用ヲ主張シ居ル有樣ニテ、蘭印ニ關シテ

モ如斯形勢ノ反映ナキ筈ナク、從テ今日ハ會商開始當時ニ比シテ前記蘭側ノ既定大綱ノ變更乃至緩和ヲ求ムルニハ最モ不利ナル時機トナリタリト言ハサルヘカラス、少クトモ本國ニ於ケル政策ノ幾分カノ轉向乃至蘭印ニ於ケル經濟的行詰リノ兆候今少シク明カトナルトキヲ俟ツニアラサレハ、會商モ我方所期ノ目的ヲ完全ニ達成スル上ニハ接衝上多大ノ困難アリト期セサルヘカラス、幸ニ會商ニ於ケル我主張ノ今日迄ノ苦心ト努力トニ依リ、我方ノ主張ハ十二分ニ蘭側ニ徹底シ、蘭側トテモ今後ハ我ニ對シ相當ノ警戒ヲ以テ對スルコトトナルヘキノミナラス、事實差當リ其必要トスル諸措置ハ既ニ實行乃至實行ノ端緒ニ就キ居レルヲ以テ、今後我トノ關係ニ於テ特別ノ事態ニ直面セサル限リハ急ニ實施セネハナラヌ程ノ措置モ澤山ハ之ナカルヘシトモ察セラルルニ付、今後ニ於ケル會商ノ推移如何ニ依リテハ、此等ノ點ニ關シ暫定取極メヲ以テ篤ト念ヲ押サレタル上、假リニ形式上再開ヲ約ストスルモ之ニ強キ望ミヲ囑スルコトナク、寧ロ適當ノ時期ヲ俟ツ意味ニテ緩々事態ヲ見送ルト共ニ、其間ハ我官民ノ自制ニ依リ無用ノ新規措置ヲ誘發セサル樣注意シツツ我通商ノ進展ヲ策スルモ一案カト考ヘラル。

五、思フニ會商今後ノ推移ヲ談スルハ未タ尙早ノ感ナキ能ハサルモ、若シ萬一會商ノ繼續不可能トナルカ如キ場合ニ立至ラハ、蘭側トシテハ恐ラク最短期間ニ再開セント聲明シ度シト提議スルコトハアリ得ヘキコトナラン、然レトモ右ハ必スシモ充分妥協ノ用意アリテ再開セントスル本音ナリトハ直ニ斷シ難カルヘク、一定期限ノ下ニ再開スルカ如キハ前記當方面ノ情勢ヨリスルモ我方トシテハ不得策カト觀察セラル。

十二月九日木村顧問ヨリ來栖局長宛

來電二通（一電ハ十二月七日大臣來電、次電ハ餘リニ專門的故不揭載）ヲ見テ貴方ト當方ト會商ノ情勢並ニ次ノ兩首席會見ノ重要性ニ關スル見解餘リニ懸隔アルヤニ思ハレ忌憚ナキ所見開陳ス。

（一）會商ノ中止ヲ當方ヨリ切出ス樣ノ御懸念ハ餘リニ我代表部ノ眞劍味ト緣遠ク、何トカ妥結ニ最善ノ努力ヲ拂ヒツツアル事ハ代表部ノ作成セル提案ノ上ニモ明白ナルヘシ、往電ノ買付條件モ蘭側ニ於テ日本カ眞ニ砂糖買付ノ決意アリヤ否ヤニ付疑惑ヲ抱カシメサル爲、將又內地ノ情勢ニ鑑ミ具體的ニ提議シ得サルモ當然先方ヨリ付留メ來ルヘキ條項ナリシカ故ニ附加セルモノナリ、又品種案モ貴方ノ當業者ニ對スル立場上必要ナリト思考シ小生ノ發案ニ掛ルモノナルカ、之カ爲蘭側カ悅フト思ハルレハ豫想ニ反スヘシ、又會見前ニ彼是請訓セル諸點ハ情勢判斷ニヨル見透ノ上種々ノ場合ニ付豫メ本省ノ意向ヲ聞キ置キ善處セムトスレハコソ、或ハ「コムミユニケ」或ハ暫定措置ニ付事前ニ申進スルノ老婆心ニ出テタルモノナリ、當方ノ期待シツツアル事ハ提案ノ實質內容殊ニ重要問題ニ付テノ政府ノ決定案、進ンテハ第二段ノ底意ヲ承知スル事ニ在リ、先方トノ對談及掛引等ハ寧ロ現場ニ居ル代表ニ今一層廣キ範圍ニ亘リ委任セラルル事此ノ際最モ肝要ナリ、前揭御回訓電ノ如キ單ナル文字ノ配列字句ノ末ニノミ走レルヤニ感セラレ、肝心ノ問題ハ政府ニ於テ如何ナル底意ナリヤ捕捉シ難キ樣ニ見受ケラル、今日迄貴官トノ電報往復ニヨリ朧ケニ政府ノ意中ヲ察シ、兩代表ニ進言シ居ル實情ナリ。

（二）會商ノ情勢ニ關シテハ累次ノ電報ニヨリ御承知ノ通リナルカ、在蘭公使發大臣宛電報ノ觀察ハ當方

ヨリ見テ首肯スヘキ點多ク、愚見ニ依レハ會商中止ノ時期ヲ來春ニ引延ハス事ハ困難ナラサルヘキモ、越田「ヘ」ノ前後二週間ノ會談ニ依リ先方ノ大體ノ意向モ亦當方ノ目標モ既ニ互ニ承知シ居リ、我方ヨリ新ナル讓歩（殊ニ砂糖再輸出問題數量增加）ヲ示ササル限リ此儘ニテハ長岡「ラ」會見ニ於テ情勢ノ新ナル展開ハアリ得ヘシトモ思ハレス、從テ妥協ノ爲ノ新ナル御考案アラハ格別、會商妥結ノ至難ヲ見透シテ今ニ於テ本省ノ腹ヲ決メ御指示相成ル事ヲ切實ニ希望ス。

十二月十日來栖局長ヨリ木村顧問宛。

一、屢次電報ノ通リ本省トシテハ出來得ル限リ會商ヲ繼續シ何トカ妥結ニ達シ度、大臣ニ於テハ諸般ノ事情ニ鑑ミ特ニ顧念セラレツツアル次第ニシテ、十二月四日打電ノ事情ニ依リ次キノ兩首席代表會見ノ結果御請訓ノ如何ヲ見テ、關係省其他ヲ說得セントシツツアル次第ナリ。

二、從テ此ノ際「ヘ」ノ歸國ヲ契機トシ一切ヲ總決算トスルカ如キコトハ避ケ度、其上ニテ報告其他ノ爲長岡代表等ノ歸國ハ或ハ已ムヲ得サルヘシト思考シ居レリ。

委員會ノ第二回報告書ハ十二月十日ニ其作成ヲ終ツタカラ、十一日筆者ハ「ランネフト」代表ト會見シタガ翌十二日朝「フアン・ヘルデレン」教授ハ出發歸國ノ途ニ上ツタ、「ラ」トノ交涉其他ニ付テハ章ヲ改メテ記載スルコトニスル。

第九章　日本ノ最後總括提案ト會商ノ中止

日本總括提案

十二月十一日例ニ依リ會議場ニ於テ筆者ハ「ランネフト」代表ト會談シ、當方カラハ越田代表、蘭側カラハ「ヘルデレン」教授及「イーデンブルグ」書記長ガ陪席シタ、其會談要領ハ左ノ通リデアル。

一、本使ヨリ東京ト照覆ノ結果作成セル別紙一ノ日本側總括提案ヲ渡シタル上、別紙二、ノ如キ註釋ヲ加ヘタルニ、「ラ」ヨリ右註釋ノ寫ヲ得度キ旨要求セルニ付之ヲ手交シタリ。

右終リタル後二三質問ノ上「ラ」ヨリ何レ篤ト研究シタル後數日內ニハ回答シ得ルコト、思フカ、唯今他ノ手續問題ニ付テ御話シ度キコトアルカ如何ト云ヘルニ付、本使ハ右ハ多分今後ノ會商措置ニ關スルモノト思ハル、所、一般ニ遵守サレタル方法ハ當方ヨリ提案ヲ提出セルニ就テハ、先ツ之カ回答ヲ寄越スヘキニテ、右回答後ニ其他ノ問題ハ讓ラルヘキコト普通ナリト思考スト指摘セルニ、「ラ」モ之ヲ首肯シ其他ノ問題ニハ何等言及セサリキ。

二、「ラ」ハ輸入制限ニ關スル一般法ニ於テ歐洲人商業組合加入ノ條件ハ之ヲ廢止スルコト、セリ、又之ハ暫定法ナルカ未晒ニ付日本人ノ「シエーア」ヲ二割五分迄引上クル筈ナリ、尤モ之ハ直ニ其比率ノ適用ヲ受クルニ非スシテ累進法ニ據ルモノナリト說明ヲ加ヘタル故、本使ハ本件ハ「ホーフストラーテン」